

首里城公園に関する
調査研究・普及啓発事業年報
No.10（平成30年度号）

一般財団法人 沖縄美ら島財団

目 次

首里城公園に関する調査研究・普及啓発事業年報 No.10（平成 30 年度号）

1 事業報告

- 1) 平成 30 年度事業概要及び報告2
- 2) 首里城公園企画展 平成 30 年度実施報告.....4
首里城公園南殿特別展示室企画展展示リスト.....6
首里城公園黄金御殿特別展示室企画展展示リスト.....8
首里城公園企画展アンケート結果 友利優太・銘苅あやの.....11
- 3) 首里城講座 平成 30 年度実施報告 安里成哉 仲宗根あい26
- 4) 紙本墨書「伊地知貞馨書」修繕報告 當間巧29
- 5) 紙本著色「首里城周辺の図」保存修繕報告 當間巧.....44
- 6) 絹本著色「孫億筆花鳥図③」保存修繕報告 関地久治・箭木康一郎・三原昇62
- 7) 『孫億作・花鳥図 三幅』に用いられた色材の非破壊化学分析
京都工芸繊維大学 佐々木良子 京都嵯峨芸術大学 仲政明
京都工芸繊維大学 佐々木健101
- 8) 森政三コレクションの中城御殿古写真 上江洲安享.....116

2 資料

- 1) 入園・入館者数の推移122
- 2) 施設図123

平成 30 年度 事業概要及び報告

1 はじめに

当財団は、設立趣旨ならびに寄付行為に基づき、首里城に関する展示資料の収集等を目的とした首里城基金が設置され、基金の造成、管理及び運用の諸事業を実施している他、首里城公園等に関する調査研究、普及啓発等の事業を行っている。詳細については、下記のとおりである。

2 財団の事業概要 (※一部抜粋)

◆首里城に関する調査研究事業

- (1) 正殿漆塗装関連資料の調査研究
- (2) 在外首里城関連文化財の調査研究
- (3) 御後絵の調査研究
- (4) 首里城正殿三御飾等道具の調査研究
(道具類の製作及び往時の製作技法の復元)

◆首里城に関する普及啓発事業

- (1) 琉球王国関連資料の展示
- (2) 首里城講座の実施
- (3) 首里城見学会の実施
- (4) 図録や小冊子等印刷物の発刊
- (5) 出前講座
- (6) 体験学習会の実施
- (7) 地元団体との連携事業の実施
- (8) 職場体験、研修生等の受け入れ

◆その他の事業

- (1) 共同研究事業の実施 (大学等)

3 平成 30 年度事業報告

1) 首里城に関する調査研究事業

(1) 首里城の歴史、伝統美術品等に関する調査研究

① 御後絵復元制作

首里城公園友の会によって調査・制作された「尚育王御後絵」に続き、当財団にて「尚灝王御後絵」の模造復元製作を行った。平成 30 年度は、過年度に着手した「尚穆王御後絵」の模造復元製作を継続し、線描転写を終えた本紙に彩色を行い仕上げた。

② 在外首里城関連文化財の調査研究

県外を含めた調査業務の見直しのため、過年度に行った調査資料を取りまとめ整理し情報収集を行った。

③ 首里城正殿三御飾復元制作業務

かつて首里城正殿において正月儀式で使われていた「首里城正殿三御飾道具」の復元製作を実施した。平成 30 年度は、漆芸器類の軍配・采配について本製作を行い、軍配・采配それぞれに漆塗りを施した。

(2) 首里城正殿漆塗装材等に関する調査研究

正殿等復元建造物の維持管理技術に関する調査研究では、首里城建造物塗装の桐油彩色に関する資料収集や、岡山大学との共同研究による琉球産弁柄の安定的な生産方法について研究を行った。

2) 首里城に関する普及啓発事業

- (1) 南殿二階特別展示室において、「琉球人のピクニック～重箱・提重・湯庫～」 「琉球 美の動物園～琉球人が描いた生き物たち～」 「守れ！琉球の宝～琉球関係文化財収集初お披露目展～」 「琉球の江戸参府 琉球使節と楽童子」 「琉球のもよう～花・植物～」 の企画展を実施した。
黄金御殿特別展示室においては、「王家の秘宝」 「琉球 美の動物園～琉球人が描いた生き物たち～」 「御後絵と琉球絵画」 「琉球の江戸参府 御座楽～献上された琉球楽器～」 「祝いのお飾り～正殿の祭祀道具～」 と題した企画展を実施した。
- (2) 首里城を中心とする琉球の歴史文化について県民に広く普及啓発し、首里城公園の利用促進するため首里城講座を実施した。
- (3) 来園者の入館促進及び満足度向上を目的とし首里城見学会を実施した。公園内施設の詳細な解説を行ったほか、年間4～5回程度行われる企画展の展示の解説会や日影台（日時計）の時間測定体験、首里城内の植物に関連する歴史植物ガイドツアーなど様々な見学会を実施した。
- (4) 沖縄の歴史文化に関する知識の普及啓発を推進するため、県内の小・中学生の歴史文化学習に対し助成を行った。
- (5) 首里城公園の普及啓発を目的として那覇市内の小学校・中学校・高校を対象に出前講座を実施し、パンフレットやワークシートを活用し琉球の歴史文化や首里城公園内の各施設について解説を行った。
- (6) 首里城公園の支援団体である「首里城公園友の会」が主催する文化講演会、親子体験会、イヌマキ育樹等の事業実施に対して助成を行った。
- (7) 東京都のサントリー美術館展覧会「琉球 美の宝庫」へ資料貸し出しならびに資料解説に協力した。
また、愛知県の春日井市道風記念館特別展「琉球の書」へ資料貸し出しを行った。

首里城公園南殿・黄金御殿 企画展 平成 30 年度実施報告

1. 平成 30 年度 「首里城公園南殿・黄金御殿 企画展」の特徴

首里城公園南殿二階特別展示室及び黄金御殿特別展示室では、前近代の文化財を展示公開できるスペックを有した展示室という特性を活かして、常時、琉球関係文化財を展示公開する取り組みを行っている。内容としては、首里城及び琉球王国時代の歴史文化の普及啓発を行いながら利用促進に資することを目的とした様々なテーマの企画展を行っている。平成 30 年度の企画展の特徴を下記の実施概要を踏まえながら紹介したい。

各企画展の実施概要

展 示 会 名	開 催 期 間	会 場
「琉球人のピクニック～重箱・提重・湯庫～」	4/13 (金) ～ 7/3 (火)	南殿二階特別展示室
「王家の秘宝」	4/20 (金) ～ 7/3 (火)	黄金御殿特別展示室
「琉球 美の動物園～琉球人が描いた生き物たち～」	7/6 (金) ～ 10/4 (木)	南殿二階特別展示室
	7/6 (金) ～ 10/11 (木)	黄金御殿特別展示室
「守れ！琉球の宝～琉球関係文化財収集初お披露目展」	10/5 (金) ～ 12/13 (木)	南殿二階特別展示室
「御後絵と琉球絵画」	10/12(金) ～ 11/29 (木)	黄金御殿特別展示室
「琉球の江戸参府 琉球使節と楽童子」	12/14 (金) ～ ^{B31} 2/21 (木)	南殿二階特別展示室
「琉球の江戸参府 御座楽～献上された琉球楽器～」	11/30(金) ～ ^{B31} 1/31 (木)	黄金御殿特別展示室
「琉球のもよう～花・植物～」	2/22 (金) ～ 4/18 (木)	南殿二階特別展示室
「祝いのお飾り～正殿の祭祀道具～」	2/1 (金) ～ 4/11 (木)	黄金御殿特別展示室

平成 30 年度最初の企画展示の取り組みは、南殿二階特別展示室では「琉球人のピクニック～提重・重箱・湯庫」というテーマで沖縄の年中行事である清明祭（墓参り）・GW 時に、琉球王国時代の野外での行楽時に使用する道具にテーマを絞った企画展を行った。

黄金御殿特別展示室では「王家の秘宝」として沖縄美ら島財団の収集活動と調査研究の成果により琉球国王家の調度品であった可能性の高い逸品（漆芸・刀剣・絵画・書跡・染織）や復元製作物を紹介し、王宮である首里城で王族が日常や祭祀儀礼時に使用した美術工芸資料を展示する企画展を行った。

夏休みをふくめた 7 月～10 月期には南殿二階特別展示室と黄金御殿特別展示室の二室連携して、親子向けをターゲットとした企画展「琉球 美の動物園～琉球人が描いた生き物たち～」を開催し、新発見の「神猫図」を含めた琉球の美術工芸のデザインから動物の図案が描かれた絵画・紅型衣裳・漆器等の王族が愛でたと思われる美術工芸資料の展示紹介を行った。

南殿二階特別展示室では、10 月 5 日から「守れ！琉球の宝～琉球関係文化財収集初お披露目展～」として過年度に収集し、初公開の収蔵品や、修復作業後初公開の資料等を紹介する毎年恒例の新収蔵品展を実施した。

12月14日からは「琉球の江戸参府 琉球使節と楽童子」とした江戸時代、徳川将軍の代替り・琉球国王の即位時に江戸に派遣された琉球使節団の歴史や概要の中で、特に良家の男子6人で構成された「楽童子」に焦点を絞った初めての企画展示を行った。

年度最後には「琉球のもよう～花・植物～」のテーマのもと、琉球人が描いた様々な模様を染織・金工・絵画等の資料の展示を通して解説する企画展を実施した。

黄金御殿特別展示室では10月12日から「御後絵と琉球絵画」と題し国王肖像画である御後絵を中心とし琉球人絵師が描いた絵画を解説した企画展を開催し、御後絵は国王崩御後、描かれた絵画であり、同時公開で琉球では類例の少ない肖像画の展示を行った。

11月30日からは「琉球の江戸参府 御座楽～献上された琉球楽器～」として復元された尾張徳川家伝来の琉球式楽楽器の展示を中心とし、琉球王国時代、首里城内や江戸参府時に徳川将軍の前で演奏された御座楽（琉球の室内管弦楽）に関する展示を実施した。琉球楽器は、江戸上り時に楽童子が演奏した楽器でもあり、南殿の「琉球の江戸参府 琉球使節と楽童子」とも連携した企画展として入館者に琉球王国時代、本土で徳川将軍、大名、庶民と交流した琉球人の歴史・風俗・文化の一端を解説する工夫を行った。また正月儀式の御座楽演奏の催事とも連携をさせており好評を得た。

2019年の2月1日からは「祝いのお飾り～正殿の祭祀道具～」と題し、旧正月に合わせて首里城内で正月に行われた儀式・儀礼について解説し、御飾道具や御座楽楽器等の関連資料の展示を行い、華やかな首里城の正月を彩る展示を行った。

南殿特別展示室

首里城公園企画展「琉球人のピクニック～重箱・提重・湯庫～」

平成30年4月13日（金）～年7月3日（火）

No.	資料名	所蔵先	収蔵No.
1	那覇港図(複製)	一般財団法人沖縄美ら島財団	314
2	朱漆山水楼閣人物堆錦螺鈿四段重箱	一般財団法人沖縄美ら島財団	268
3	黒漆牡丹蝶彫木密陀絵網貼重箱	一般財団法人沖縄美ら島財団	59
4	島津家紋入り沈金段重	一般財団法人沖縄美ら島財団	160
5	黒漆牡丹唐草螺鈿提重	一般財団法人沖縄美ら島財団	52
6	黒漆山水人物螺鈿沈金提重	一般財団法人沖縄美ら島財団	342
7	黒漆山水楼閣螺鈿沈金提重	一般財団法人沖縄美ら島財団	501
8	朱漆菊唐草存星提重	一般財団法人沖縄美ら島財団	357
9	朱漆山水楼閣人物堆錦提重	一般財団法人沖縄美ら島財団	298
10	黒漆唐草螺鈿提重	一般財団法人沖縄美ら島財団	341
11	朱緑漆山水楼閣人物箔絵提重	一般財団法人沖縄美ら島財団	195
12	朱緑漆山水楼閣人物箔絵提重	一般財団法人沖縄美ら島財団	514
13	朱漆湯庫	一般財団法人沖縄美ら島財団	346
14	朱漆山水楼閣人物箔絵湯庫	一般財団法人沖縄美ら島財団	456

南殿特別展示室

首里城公園企画展「琉球 美の動物園 ～琉球人が描いた生き物たち～」

平成30年7月6日（金）～10月4日（木）

No.	資料名	所蔵先	収蔵No.
1	桐板白地花籠燕文様両面紅型単衣裳	一般財団法人沖縄美ら島財団	476
2	木綿水色地鶴に雪持笹梅霞紅型単衣裳	一般財団法人沖縄美ら島財団	464
3	木綿浅地波に千鳥文様紅型単衣裳	一般財団法人沖縄美ら島財団	466
4	苧麻浅地雲取に松枝垂桜燕文様紅型衣裳	一般財団法人沖縄美ら島財団	113
5	苧麻浅地桜松雲両面紅型袷衣裳	一般財団法人沖縄美ら島財団	830
6	闘鶏早房之図	一般財団法人沖縄美ら島財団	598
7	闘鶏図(闘鶏はなたれ之図)	一般財団法人沖縄美ら島財団	596
8	花鳥図(康熙丙戌花朝)	一般財団法人沖縄美ら島財団	421
9	花鳥図(康熙丙戌春日)	一般財団法人沖縄美ら島財団	420
10	朱漆花鳥七宝繫密陀絵沈金御供飯	一般財団法人沖縄美ら島財団	497
11	黒漆葡萄栗鼠螺鈿箔絵机	一般財団法人沖縄美ら島財団	331
12	黒漆葡萄栗鼠螺鈿箔絵螺鈿細卓	一般財団法人沖縄美ら島財団	45
13	黒漆葡萄栗鼠螺鈿箔絵伽羅箱	一般財団法人沖縄美ら島財団	54
14	黒漆葡萄栗鼠螺鈿箔絵八角盆	一般財団法人沖縄美ら島財団	53
15	黒漆葡萄栗鼠箔絵食籠	一般財団法人沖縄美ら島財団	55
16	黒漆葡萄栗鼠沈金八角食籠	一般財団法人沖縄美ら島財団	361
17	(鎌倉撮影)神猫図 伝座間味庸昌筆	沖縄県立芸術大学附属図書・芸術資料館	
18	神猫図	一般財団法人沖縄美ら島財団	844
19	月下神猫図	一般財団法人沖縄美ら島財団	9
20	虎之図	一般財団法人沖縄美ら島財団	14
21	虎の図	一般財団法人沖縄美ら島財団	422
22	虎の図	一般財団法人沖縄美ら島財団	271
23	虎之図	一般財団法人沖縄美ら島財団	13

南殿特別展示室
新収蔵品展「守れ！琉球の宝～琉球関係文化財収集初お披露目展～」
平成 30 年 10 月 5 日（金）～12 月 13 日（木）

No.	資料名	所蔵先	収蔵No.
1	爬龍船競漕及び帰唐船の図	一般財団法人沖縄美ら島財団	843
2	爬龍船競漕及び帰唐船の図(参考)	一般財団法人沖縄美ら島財団	325
3	黒漆花鳥密陀絵箔絵盆	一般財団法人沖縄美ら島財団	851
4	朱漆山水樓閣人物堆錦提重	一般財団法人沖縄美ら島財団	850
5	朱漆花鳥密陀絵箔絵足付盆	一般財団法人沖縄美ら島財団	849
6	鉄釉丁子風炉	一般財団法人沖縄美ら島財団	840
7	中山門図	一般財団法人沖縄美ら島財団	842
8	首里城周辺の図パネル(参考)	一般財団法人沖縄美ら島財団	322
9	朱漆牡丹文沈金卓	一般財団法人沖縄美ら島財団	683
10	李鼎元書	一般財団法人沖縄美ら島財団	43

南殿特別展示室
首里城公園企画展「琉球の江戸参府～琉球使節と楽童子～」
平成 30 年 12 月 14 日（金）～平成 31 年 2 月 21 日（木）

No.	資料名	所蔵先	収蔵No.
1	琉球使節行列図	一般財団法人沖縄美ら島財団	845
2	江戸上り行列図	一般財団法人沖縄美ら島財団	3
3	舞楽図	一般財団法人沖縄美ら島財団	120
4	馬兼承書	一般財団法人沖縄美ら島財団	157
5	御免琉球人行列附	一般財団法人沖縄美ら島財団	152
6	毛允良書	一般財団法人沖縄美ら島財団	156
7	江戸上り行列図(琉球人行列附)	一般財団法人沖縄美ら島財団	4
8	馬兼才書	一般財団法人沖縄美ら島財団	282
9	尚懷書	一般財団法人沖縄美ら島財団	642
10	黒漆山水樓閣人物螺鈿硯屏	一般財団法人沖縄美ら島財団	194
11	黒漆山水樓閣螺鈿中央卓	一般財団法人沖縄美ら島財団	133
12	鄭嘉訓書	一般財団法人沖縄美ら島財団	131
13	毛嘉栄書	一般財団法人沖縄美ら島財団	440
14	尚寛書	一般財団法人沖縄美ら島財団	390

南殿特別展示室
首里城公園企画展「琉球のもよう～花・植物～」
平成 31 年 2 月 22 日（金）～4 月 18 日（木）

No.	資料名	所蔵先	収蔵No.
1	龍洲奇観	一般財団法人沖縄美ら島財団	26
2	中山花木図	一般財団法人沖縄美ら島財団	189
3	尚育王御後絵(彩色模写復元)	一般財団法人沖縄美ら島財団	577
4	果実密陀絵	一般財団法人沖縄美ら島財団	48
5	黒漆牡丹唐草螺鈿提重	一般財団法人沖縄美ら島財団	52
6	黒漆菊花鳥七宝繫沈金食籠	一般財団法人沖縄美ら島財団	294
7	黒漆花鳥密陀絵漆絵盆	一般財団法人沖縄美ら島財団	353
8	獅子牡丹堆彩中央卓	一般財団法人沖縄美ら島財団	447
9	朱漆巴紋葡萄箔絵櫃	一般財団法人沖縄美ら島財団	834
10	向性新の書	一般財団法人沖縄美ら島財団	425
11	書画扇面	一般財団法人沖縄美ら島財団	644
12	木綿黄色地鶴菖蒲桜楓文様紅型帯	一般財団法人沖縄美ら島財団	304
13	絹黄色地牡丹尾長鳥雛菊花文様紅型袷衣装	一般財団法人沖縄美ら島財団	389
14	苧麻白地牡丹枝垂桜両面紅型単衣装	一般財団法人沖縄美ら島財団	461
15	木綿水色地鳳凰牡丹扇面紅型帯	一般財団法人沖縄美ら島財団	472
16	呉須線彫牡丹文酒注	一般財団法人沖縄美ら島財団	819
17	焼締貼付牡丹唐草文植木鉢	一般財団法人沖縄美ら島財団	824

黄金御殿特別展示室

王家の秘宝

平成 30 年 4 月 20 日 (金) ～7 月 3 日 (火)

No.	資料名	所蔵先	所蔵No.
1	神猫図	一般財団法人沖縄美ら島財団	426
2	白澤之図	一般財団法人沖縄美ら島財団	233
3	青貝巴紋散合口拵	一般財団法人沖縄美ら島財団	795
4	青貝微塵塗印籠刻鞆合口拵	一般財団法人沖縄美ら島財団	792
5	朱漆三ツ巴紋盆	一般財団法人沖縄美ら島財団	445
6	黒漆獅子牡丹螺鈿印籠	一般財団法人沖縄美ら島財団	277
7	黒漆牡丹七宝繫沈金食籠	一般財団法人沖縄美ら島財団	228
8	黒漆菊花鳥虫七宝繫沈金食籠	一般財団法人沖縄美ら島財団	294
9	黒漆雲龍螺鈿東道盆	一般財団法人沖縄美ら島財団	508
10	黒漆雲龍螺鈿大盆	一般財団法人沖縄美ら島財団	452
11	紬黄色地ムルドウッチリ袷衣裳	一般財団法人沖縄美ら島財団	301
12	紬黄色地ムルドウッチリ袷衣裳(琉装)	一般財団法人沖縄美ら島財団	308
13	芭蕉経緯緋衣裳	一般財団法人沖縄美ら島財団	302
14	絹浅地ロートン織単衣裳	一般財団法人沖縄美ら島財団	305
15	水色地花織袷衣裳(復元)	一般財団法人沖縄美ら島財団	424
16	絹黄色地梅桜楓雪輪手毬文様紅型袷衣裳	一般財団法人沖縄美ら島財団	287
17	絹黄色地牡丹尾長鳥籠菊花文様紅型袷衣裳	一般財団法人沖縄美ら島財団	389
18	絹黄色地鳳凰瑞雲蝙蝠竹宝尽青海立浪文様紅型袷衣裳	一般財団法人沖縄美ら島財団	392
19	木綿黄色地霞に枝垂桜飛鳥菊花文様紅型衣裳	一般財団法人沖縄美ら島財団	80
20	尚瀨王御後絵(彩色模写復元)	一般財団法人沖縄美ら島財団	838
21	尚育王御後絵(彩色模写復元)	一般財団法人沖縄美ら島財団	577
22	千字文書	一般財団法人沖縄美ら島財団	651
23	首里八景詩	一般財団法人沖縄美ら島財団	652
24	赤地嶮山龍瑞雲模様裂	一般財団法人沖縄美ら島財団	105
25	茶地朱珍布	一般財団法人沖縄美ら島財団	749
26	繻珍のバック	一般財団法人沖縄美ら島財団	291
27	官庫	一般財団法人沖縄美ら島財団	753
28	朱漆巴紋牡丹沈金透彫足付盆	一般財団法人沖縄美ら島財団	49
29	螺鈿八角食籠(台盆付)	一般財団法人沖縄美ら島財団	455
30	黒漆日輪鳳凰点斜格子沈金丸櫃	一般財団法人沖縄美ら島財団	98
31	黒漆山水楼閣螺鈿中央卓	一般財団法人沖縄美ら島財団	695
32	苧麻浅地牡丹枝垂桜両面紅型単衣裳	一般財団法人沖縄美ら島財団	269

黄金御殿特別展示室

首里城公園企画展「琉球 美の動物園 ～琉球人が描いた生き物たち～」

平成 30 年 7 月 6 日 (金) ～10 月 11 日 (木)

No.	資料名	所蔵先	所蔵No.
1	黒漆日輪鳳凰雲点斜格子沈金丸櫃	一般財団法人沖縄美ら島財団	98
2	緑漆牡丹鳳凰沈金角盆	一般財団法人沖縄美ら島財団	67
3	朱漆巴紋鳳凰七宝繫沈金丸櫃	一般財団法人沖縄美ら島財団	367
4	金杯 三御飾道具	一般財団法人沖縄美ら島財団	586
5	銀洗台 三御飾道具	一般財団法人沖縄美ら島財団	587
6	朱漆鳳凰箔絵丸櫃	一般財団法人沖縄美ら島財団	57
7	黒漆楼閣人物螺鈿冠笥(萬野)	一般財団法人沖縄美ら島財団	332
8	黒漆日輪双龍鳳凰螺鈿細盆	一般財団法人沖縄美ら島財団	68
9	絹桃色地鳳凰瑞雲霞紅型単衣裳	一般財団法人沖縄美ら島財団	393
10	牡丹鳳凰丸模様紅型(黄)	一般財団法人沖縄美ら島財団	524
11	苧麻白地鳳凰と扇牡丹文様両面紅型単子供衣裳	一般財団法人沖縄美ら島財団	303
12	牡丹鳳凰丸模様紅型(青)	一般財団法人沖縄美ら島財団	525
13	黒漆獅子螺鈿中央卓	一般財団法人沖縄美ら島財団	190
14	絹綸子紅色地龍宝珠瑞雲文様紅型袷衣裳	一般財団法人沖縄美ら島財団	391
15	木綿白地雪輪菊稻妻に龍の丸文様両面紅型衣裳	一般財団法人沖縄美ら島財団	115
16	高人鑑書	一般財団法人沖縄美ら島財団	494
17	黒漆火焰双龍瑞雲螺鈿大盤	一般財団法人沖縄美ら島財団	61
18	黒漆雲龍螺鈿盆(中型サイズ)	一般財団法人沖縄美ら島財団	835
19	黒漆雲龍螺鈿盆	一般財団法人沖縄美ら島財団	193
20	白澤之図(複製)	一般財団法人沖縄美ら島財団	312

黄金御殿特別展示室

首里城公園企画展「御後絵と琉球絵画」

平成30年10月12日（金）～11月29日（木）

No.	資料名	所蔵先	所蔵No.
1	十八代尚育王御後絵(鎌倉芳太郎撮影写真資料)	沖縄県立芸術大学附属図書・芸術資料館	
2	尚育王御後絵(彩色模写復元)	一般財団法人 沖縄美ら島財団	577
3	尚育王御後絵(彩色模写復元)(複製)	一般財団法人 沖縄美ら島財団	578
4	十七代尚灝王御後絵(鎌倉芳太郎撮影写真資料)	沖縄県立芸術大学附属図書・芸術資料館	
5	尚灝王御後絵(彩色模写復元)	一般財団法人 沖縄美ら島財団	838
6	尚灝王御後絵(彩色模写復元)(複製)	一般財団法人 沖縄美ら島財団	839
7	十四代尚穆王御後絵(鎌倉芳太郎撮影写真資料)	沖縄県立芸術大学附属図書館・芸術資料館	
8	孔子及び四聖配像(複製)	一般財団法人 沖縄美ら島財団	583
9	孔子及び四聖配像(鎌倉芳太郎撮影写真資料)	沖縄県立芸術大学附属図書・芸術資料館	
10	程順則像(複製)	一般財団法人 沖縄美ら島財団	582
11	程順則名護親方龍文画像(鎌倉芳太郎撮影写真資料)	沖縄県立芸術大学附属図書・芸術資料館	
12	琉球美人(複製)	一般財団法人 沖縄美ら島財団	122

黄金御殿特別展示室

御座楽～献上された琉球楽器～

平成30年11月30日（金）～平成31年1月31日（水）

No.	資料名	所蔵先	所蔵No.
1	横笛(短)	一般財団法人 沖縄美ら島財団	410
2	横笛(長)	一般財団法人 沖縄美ら島財団	409
3	管	一般財団法人 沖縄美ら島財団	411
4	哨呐	一般財団法人 沖縄美ら島財団	412
5	琉球人舞楽之図	一般財団法人 沖縄美ら島財団	259
6	二絃	一般財団法人 沖縄美ら島財団	404
7	胡琴	一般財団法人 沖縄美ら島財団	403
8	提箏	一般財団法人 沖縄美ら島財団	405
9	長持	一般財団法人 沖縄美ら島財団	417
10	長線	一般財団法人 沖縄美ら島財団	399
11	四線	一般財団法人 沖縄美ら島財団	400
12	月琴	一般財団法人 沖縄美ら島財団	401
13	琵琶	一般財団法人 沖縄美ら島財団	402
14	三線(長)	一般財団法人 沖縄美ら島財団	398
15	三線(短)	一般財団法人 沖縄美ら島財団	397
16	江戸上り行列図	一般財団法人 沖縄美ら島財団	2
17	夜雨琴	一般財団法人 沖縄美ら島財団	406
18	両班	一般財団法人 沖縄美ら島財団	413
19	三板	一般財団法人 沖縄美ら島財団	414
20	新心	一般財団法人 沖縄美ら島財団	415
21	三金	一般財団法人 沖縄美ら島財団	416
22	銅鑼	一般財団法人 沖縄美ら島財団	407
23	小銅鑼	一般財団法人 沖縄美ら島財団	408-1
24	鼓	一般財団法人 沖縄美ら島財団	408-2
25	中山楽童子向惟新書	一般財団法人 沖縄美ら島財団	425
26	舞楽図	一般財団法人 沖縄美ら島財団	120

黄金御殿特別展示室

首里城公園御内原エリア等開園記念展「祝いのお飾り～正殿の正月祭祀道具～」

平成31年2月1日（金）～4月11日（木）

No.	資料名	所蔵先	所蔵No.
1	月琴	一般財団法人 沖縄美ら島財団	401
2	琵琶	一般財団法人 沖縄美ら島財団	402
3	胡琴	一般財団法人 沖縄美ら島財団	403
4	二絃	一般財団法人 沖縄美ら島財団	404
5	夜雨琴	一般財団法人 沖縄美ら島財団	406
6	哨呐	一般財団法人 沖縄美ら島財団	412
7	両班	一般財団法人 沖縄美ら島財団	413
8	三板	一般財団法人 沖縄美ら島財団	414
9	新心	一般財団法人 沖縄美ら島財団	415
10	三金	一般財団法人 沖縄美ら島財団	416
11	鼓	一般財団法人 沖縄美ら島財団	408
12	小銅鑼	一般財団法人 沖縄美ら島財団	408
13	銅鑼	一般財団法人 沖縄美ら島財団	407
14	御吉書	一般財団法人 沖縄美ら島財団	574
15	御印箱	一般財団法人 沖縄美ら島財団	585
16	楕円盆(吉書包紙)	一般財団法人 沖縄美ら島財団	580
17	御菓子盆・小	一般財団法人 沖縄美ら島財団	570
18	御酒椀・御取蓋・四足台	一般財団法人 沖縄美ら島財団	571
19	平卓(割足)	一般財団法人 沖縄美ら島財団	573
20	御籠飯	一般財団法人 沖縄美ら島財団	584
21	銀脚杯	一般財団法人 沖縄美ら島財団	572
22	托付銀椀	一般財団法人 沖縄美ら島財団	576
23	金杯	一般財団法人 沖縄美ら島財団	586
24	銀杯洗	一般財団法人 沖縄美ら島財団	587
25	御菓子盆・中	一般財団法人 沖縄美ら島財団	569
26	御菓子盆・大	一般財団法人 沖縄美ら島財団	568
27	朱漆巴紋牡丹唐草七宝繫沈金椀	一般財団法人 沖縄美ら島財団	293
28	朱漆吉字紋牡丹唐草七宝繫食籠	一般財団法人 沖縄美ら島財団	284
29	黒漆牡丹文七宝繫沈金足付盆	一般財団法人 沖縄美ら島財団	64
30	朱漆巴紋牡丹沈金足付盆	一般財団法人 沖縄美ら島財団	50

H30首里城公園企画展「琉球人のピクニック～重箱・提重・湯庫～」 「王家の秘宝」 アンケート報告書

友利優太*1 銘苅あやの*1

アンケート実施日 H30.4.28～5.17(20日間)

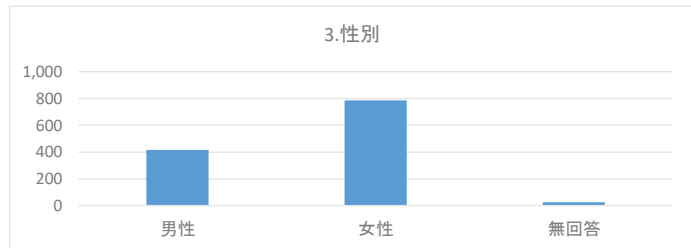
アンケート設置場所 黄金御殿特別展示室

1 アンケート期間中の入館者数 93,963 名

2 アンケート有効回収数 1,227 名

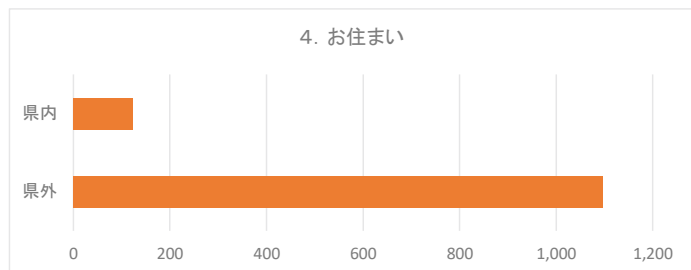
3 性別

男性	415
女性	786
無回答	26
合計	1,227



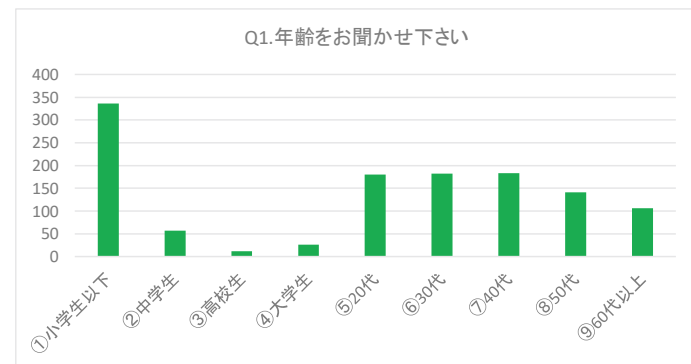
4 お住まい

県外	1,097
県内	124
外国・その他	6
合計	1,227



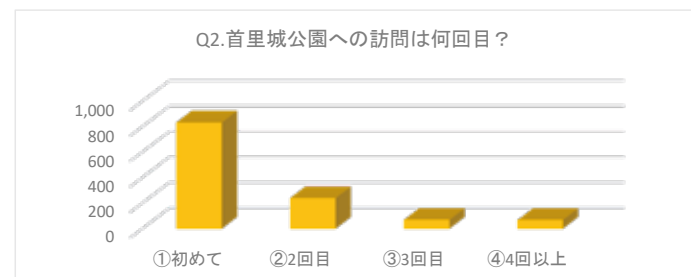
Q1 年齢をお聞かせ下さい。

①小学生以下	336
②中学生	57
③高校生	12
④大学生	26
⑤20代	180
⑥30代	182
⑦40代	183
⑧50代	141
⑨60代以上	106
⑩無回答	4
合計	1,227



Q2 今回、首里城公園への訪問は何回目ですか？

①初めて	834
②2回目	240
③3回目	70
④4回以上	69
⑤無回答	14
合計	1,227



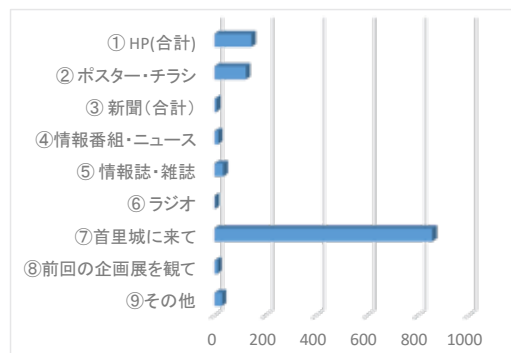
Q3 今回の特別展「琉球人のピクニック～重箱・提重・湯庫～」、「王家の秘宝」を何で知りましたか？

①-1 ホームページ(当園HP)	24
①-2 ホームページ(その他HP)	2
①-3 ホームページ(未記入)	120
② ポスター・チラシ	124
③ 新聞	6
③ 新聞(新聞名記入)	2
④情報番組・ニュース	15
⑤ 情報誌・雑誌(首里城通信:「御城だより」など)	35
⑥ ラジオ(FM沖縄:「風にふかれて首里城めぐり」など)	2
⑦首里城に来て知った	859
⑧前回の企画展を観て	12
⑨その他	30
⑩無回答	15
合計	1,246

※選択肢に併記された意見

知らなかった
母からきいた
インターネット
その他HP
ママと来た
他の人に聞いた
きたらやっていた
本
娘に聞きました
ツアー
首里城友の会
たまたま観光に来て、めぐりあいました。

友達からきいた
大人に教えてもらった
ここに来て
修学旅行
DM
教科書
北海道新聞
るるぶ



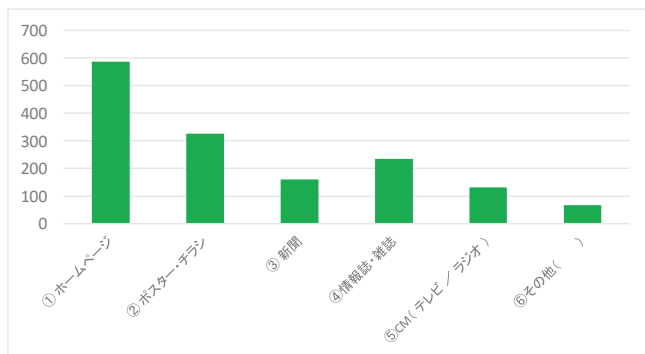
Q4 特別展の告知方法として、どのような方法が効果的だと思いますか？ ※複数回答:可

① ホームページ	587
② ポスター・チラシ	326
③ 新聞	161
④情報誌・雑誌	235
⑤CM(テレビ / ラジオ)	132
⑥その他()	67
⑦無回答	32

テレビ(131) ラジオ(1)
欄記入60

⑥その他の意見

SNS 27
ラジオ 11
ネット 2
広告 4
空港 4
チラシ 3
パンフ 2
口コミ 1



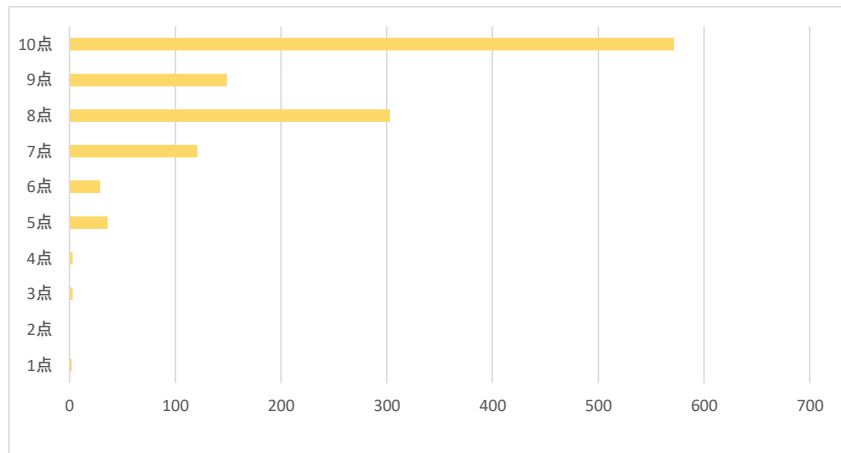
※併記されたコメント

SNS
ポスターは宿などに
旅行パンフレット
来て知った ネット
広告
インターネット
ラジオ
空港等の案内
ネットのチラシ
youtube
来場時のポスター

駅や観光案内所
旅行代理店にチラシ
ともだちにきく
口コミ
車内広告
ゆいレールの広告
マーケティングかな？
Googleの広告

Q5 今回の特別展はどうでしたか？10点満点で教えて下さい。

10点	572
9点	149
8点	303
7点	121
6点	29
5点	36
4点	3
3点	3
2点	0
1点	2
無回答	9
合計(回答者数)	1,227



☆よろしければ、今回の特別展「琉球人のピクニック～重箱・提重・湯庫～」、「王家の秘宝」をご覧になってのご意見・ご感想や、Q5の回答理由などをお書き下さい。

抜粋したコメント

回答数 663 名

- ・とても貴重な物を見る事ができて感動した。ピクニックというネーミング(お題)もおもしろかったです
- ・先人の手先の器用さにおどろき、見ていて時間が経つのを忘れるほどだった。時間があれば、もっとゆっくり見たいと思った。
- ・説明上にあるキャッチコピーがおもしろかった。ピクニックにいきたくくなりました。
- ・普段見ることのできない素晴らしい展示で感動しました。螺鈿の大きいおぼんが特に気に入りました。琉球時代にもピクニックをしていたのかと、興味が沸くタイトルでおもしろかったです！
- ・王様のピクニックを想像してみました。飲み物を何を飲んでいたのかきになりました。
- ・使い方の例を示していただけると、よりピクニックのイメージがわかります。
- ・初めてでしたので全て新鮮でおもしろかったです。当時の食に関する調度品なども見ごたえがありました。
- ・すばらしい、本土とはあきらかに文化が異なる国があったこと、また現在の沖縄県の方々の今の文化や地に受け継がれていることを改めて認識した。
- ・白黒写真からカラーの画への復元技術は素晴らしい。戦争で破壊されたのは残念ですが、すばらしいお城が復元できてよかったです。
- ・シーズンに合ったテーマかつ、現代人の私たちも連想しやすく楽しめた。小さなお子さんにも理解しやすいような解説があるといいと思った。
- ・コメントがユーモアがあってよかった。
- ・華やかで良かった。修復中で残念だったが展示は良かった。
- ・特に「琉球人のピクニック～重箱・提重・湯庫～」は沖縄の歴史を深く知ってなくても、現代のピクニックのお弁当と比較しながら見ることでできたので、とても面白かったです。
- ・説明が明確で、とっても丁寧で分りやすく、楽しく見させて頂きました。ローカル色豊かな着物、雰囲気良かったです、また来たいです。
- ・重箱を見たので、当時どのような料理を食べていたのか知りたくくなりました!! 写真とか食品サンプルのような・・・(‘▽’)
- ・普段、身近に感じる事のない沖縄の歴史に触れることができてとても楽しかったです。ずっと来てみたかったので今日来てステキな思い出になりました。次は工事終わってから来たいです！ありがとうございました
- ・その当時に使われていたとされる数々の展示で、タイムスリップした感覚になりました。写真撮影が可能などところをもう少し細かく案内しても良いのかもしれませんが。
- ・うるしの器がとてもきれいでした。ぬりなおし中で、本物は見れずに少し残念でしたが、とても立派でした。

H30首里城公園企画展「琉球美の動物園～琉球人が描いた生き物たち～」アンケート報告書

友利優太*1 銘苅あやの*1

アンケート実施日： H30.8.17～78.30(14日間)

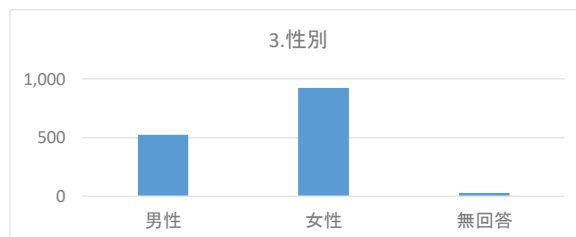
アンケート設置場所： 黄金御殿特別展示室

1 アンケート期間中の入館者数 64,108 名

2 アンケート有効回収数 1,480 名

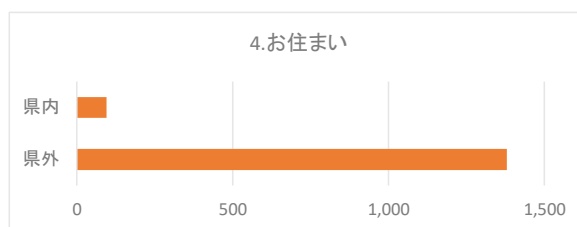
3 性別

男性	526
女性	924
無回答	30
合計	1,480



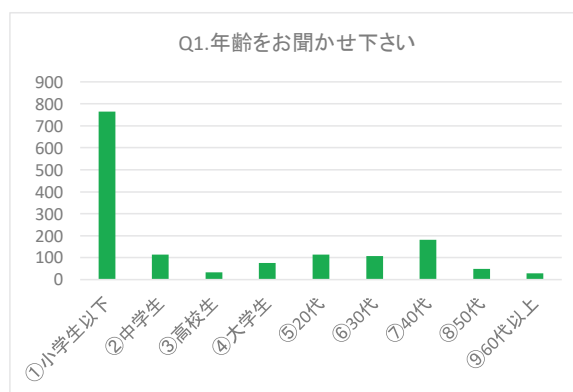
4 お住まい

県外	1,380
県内	96
外国・その他	4
合計	1,480



Q1 年齢をお聞かせ下さい。

①小学生以下	765
②中学生	113
③高校生	34
④大学生	76
⑤20代	113
⑥30代	107
⑦40代	182
⑧50代	50
⑨60代以上	28
⑩無回答	12
合計	1,480



Q2 今回、首里城公園への訪問は何回目ですか？

①初めて	1,081
②2回目	268
③3回目	53
④4回以上	49
⑤無回答	29
合計	1,480



*1 一般財団法人沖縄美ら島財団 首里城公園管理部 首里城事業課 調査展示係 フルタイム契約職員

Q3 今回の特別展「琉球 美の動物園～琉球人が描いた生き物たち～」を何で知りましたか？

①-1 ホームページ(当園HP)	18
①-2 ホームページ(その他HP)	1
①-3 ホームページ(未記入)	127
② ポスター・チラシ	147
③ SNS (Facebook/Twitter/Instagramなど)	18
④ 情報誌・雑誌(首里城通信:「御城だより」など)	82
⑤ ラジオ(FM沖縄:「風にふかれて首里城めぐり」など)	7
⑥ 新聞	1
⑥-2 新聞	[1]
⑦ 首里城に来て知った	1,072
⑧ 前回の企画展を観て	4
⑨ その他	29
⑩ 無回答	27

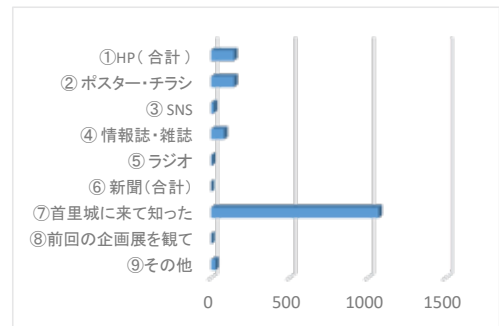
合計 1,533

⑨その他の意見

口コミ
教科書など
たまたま
家族に教えてもらった
友人に聞いた
以前から来たかった
東京での沖縄イベント
いとこのさそいで
沖縄に住んでいる父の母

行ったこととないから
父に連れられて
沖縄に来たから
ホテルのポスター
知りませんでした
家族旅行
首里城通信

タイムス



Q4 特別展の告知方法として、どのような方法が効果的だと思いますか？ ※複数回答:可

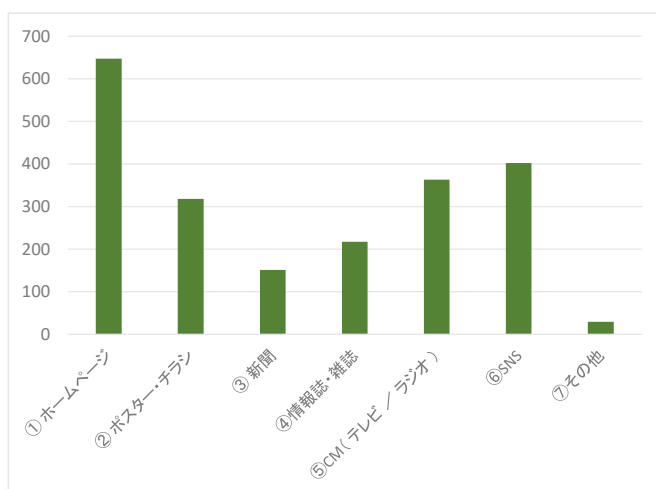
① ホームページ	647
② ポスター・チラシ	318
③ 新聞	151
④ 情報誌・雑誌	217
⑤ CM(テレビ / ラジオ)	363
⑥ SNS (Facebook/Twitter/Instagramなど)	402
⑦ その他()	29
⑧ 無回答	54

合計 2,181

⑦その他の意見

ラジオ 7
ネット 1
広告 2
空港 2

テレビ(122) ラジオ(3)

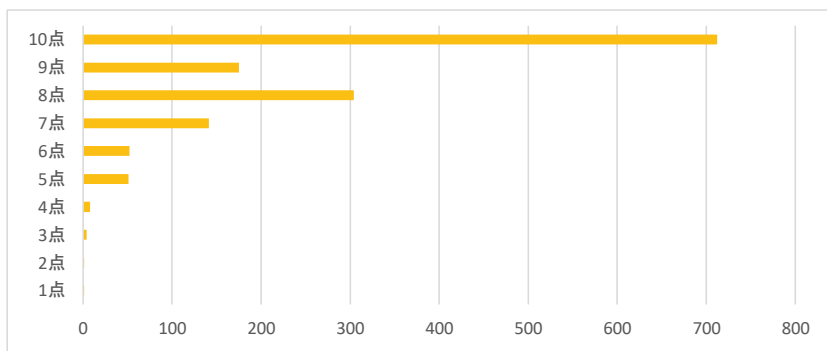


※併記されたコメント

じっさいにくること
空港で情報を流すのが良いと思います。
歩いて告知
インターネット広告
家族旅行案内(旅行会社)
じょうほうばんぐみで
電車の車内広告
家人(家族)
宿泊施設での掲示など
ラジオ
学校でのお手紙
ここへ来て知った
youtube
ガイドブック
代理店などで知らせる
ホテルにポスター

Q5 今回の特別展はどうでしたか？10点満点で教えて下さい。

10点	712
9点	175
8点	304
7点	141
6点	52
5点	51
4点	8
3点	4
2点	1
1点	1
無回答	31
合計	1,480



☆ よろしければ、今回の特別展「琉球 美の動物園～琉球人が描いた生き物たち～」をご覧になってのご意見・ご感想や、Q5の回答理由などをお書き下さい。

抜粋したコメント

回答数

762 名

- ・りすとぶどうの意味を初めて知った。また琉球人が見たこともない動物を想像とイメージ(外国からの言い伝え)で描いていたのにおどろいた
- ・普段見ている動物の絵と雰囲気が違って、興味深かった。
- ・大変面白く拝見しました。琉球の人々も、日本画っぽく描いているのでおどろきました。
- ・子供が一緒だったので、動物がテーマでわかりやすく、とても楽しく見ることができました。楽しい企画でした。ありがとうございました。
- ・昔の動物は自分のイメージとちがっていました。
- ・動物には愛着が湧き易い人が多いと思うので、小さい子も見ていて楽しいだろうなと思いました。白沢の姿がすこしまぬけで面白かったです。
- ・様々な動物が同一種でも様々な表情があり、見ていて楽しかったです。現在と変わらぬ姿のものや少し違うように見えるもの全て素敵でした。
- ・動物がテーマだったので、子供でも楽しめた
- ・獅子がきれいだった。トラかっこよかった
- ・昔のものを見てきれいで動物がどんな存在だったのかを知れて楽しかったし、もっと自分でも調べたいと思った。
- ・動物を描いた器物や絵などたくさんあることがわかり大変おもしろかったです。とっつき易いテーマなので子どもから大人まで楽しめるステキな特別展だと感じました。ありがとうございました。
- ・動物達を一部想像で描いているのが面白かった
- ・琉球と空想の動物につながりがあることに驚いた。
- ・とらが予想でかいたとは すごい(もしかして今の人たちが火星人をかくみたい?)
- ・白澤 うわさにはきいていた なるほどです。
- ・動物達に焦点をあてた展示を見たことが無かったです。新鮮でよかった。
- ・白沢がよかった
- ・りすがかわいかったです。
- ・沖縄人だけど、初めて知った事が多くて、勉強になりました。
- ・私の一番好きなトラがでてよかった。 いろんな動物が見られてよかった。
- ・好きなジャンル(動物・絵画)の展示だったので特によかった。説明もわかりやすく、よいやすくてよかった。
- ・今も昔も動物はかわいいです。子供たちと楽しみながら見させていただきました。
- ・動物がかわいかった。歴史上の意味もわかって興味をもちました。解説の字を大きくしてふりがながあればもっとよいと思いました。
- ・どうぶつがいろいろな所にかくれていて、かわいくおもしろかったです。
- ・様々な動物の特徴を知ることができて良かったです。ガイドさんの説明が分かりやすかった。
- ・興味深い物でした。子供達にも動物はわかりやすく楽しめたと思います。
- ・知らなかったことがいっぱいあった。得るものが多かった。
- ・おもいのほかどうぶつがかわいかったです
- ・私は動物が好きなので、おもしろかったです。
- ・ねこがとってもかわいい。リスをらでんでつくってあったのがとてもきれいだった
- ・おもしろかった。ホウオウがかっこよかった。
- ・りすがかわいく昔からいるのにおどろいた。
- ・かわいい動物ものが多くて楽しかったです。
- ・にわとりの足が人間みたいだった。
- ・一つ一つの説明がわかりやすく、理解しやすいもので、昔の歴史をわかりやすいものにしてれていた。とても面白い企画で、次に沖縄に来た時、また来て楽しみたいです。
- ・歴史的な絵画などはあまり身近に感じられず興味がなかったけれど、動物という視点から見るととても身近に感じられた。現在とのかき方の違いや、想像でかいたりすなどがおもしろかった。

H30首里城公園企画展「守れ！琉球の宝 琉球文化財収集初お披露目展」「御後絵と琉球絵画」 アンケート報告

友利優太*1 銘苅あやの*1

アンケート実施日 H30.11.20～11.29(10日間)

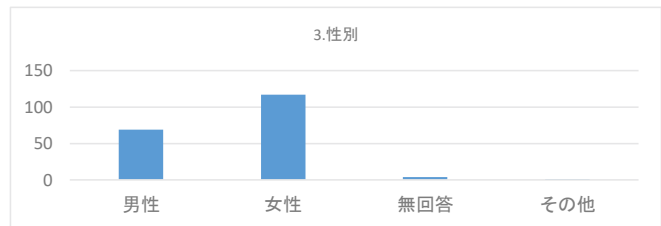
アンケート設置場所 黄金御殿特別展示室

1 アンケート期間中の入館者数 57,957 名

2 アンケート有効回収数 191 名

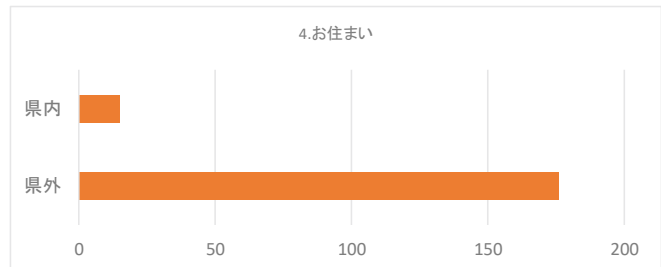
3 性別

男性	69
女性	117
無回答	4
その他	1
合計	191



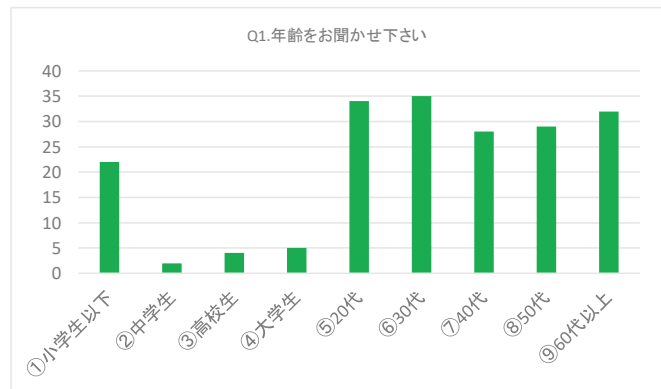
4 お住まい

県外	176
県内	15
外国・その他	0
合計	191



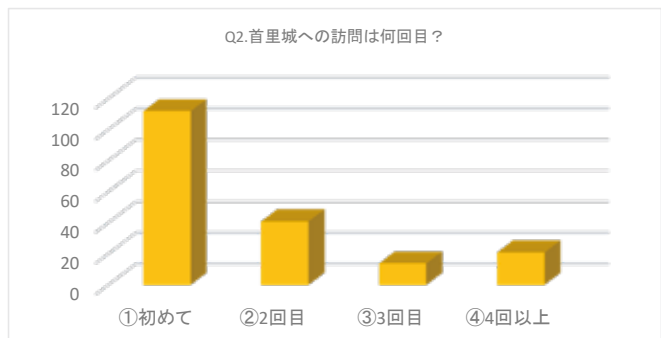
Q1 年齢をお聞かせ下さい。

①小学生以下	22
②中学生	2
③高校生	4
④大学生	5
⑤20代	34
⑥30代	35
⑦40代	28
⑧50代	29
⑨60代以上	32
⑩無回答	0
合計	191



Q2 今回、首里城公園への訪問は何回目ですか？

①初めて	112
②2回目	41
③3回目	14
④4回以上	21
⑤無回答	3
合計	191

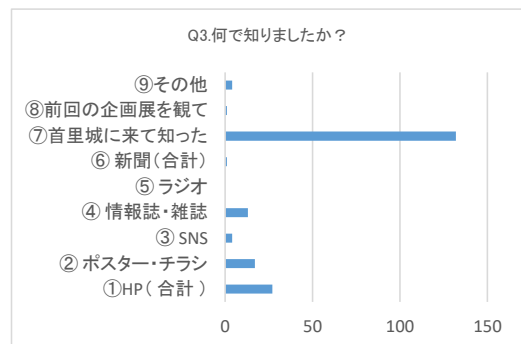


*1 一般財団法人沖縄美ら島財団 首里城公園管理部 首里城事業課 調査展示係 フルタイム契約職員

Q3 今回の特別展を何で知りましたか？

①-1 ホームページ(当園HP)	24
①-2 ホームページ(その他HP)	3
①-3 ホームページ(未記入)	0
② ポスター・チラシ	17
③ SNS(Facebook/Twitter/Instagramなど)	4
④ 情報誌・雑誌(首里城通信:「御城だより」など)	13
⑤ ラジオ(FM沖縄:「風にふかれて首里城めぐり」など)	0
⑥ 新聞	1
⑥-2 新聞	0
⑦首里城に来て知った	132
⑧前回の企画展を観て	1
⑨その他	4
⑩無回答	3

合計 202



⑨その他の意見

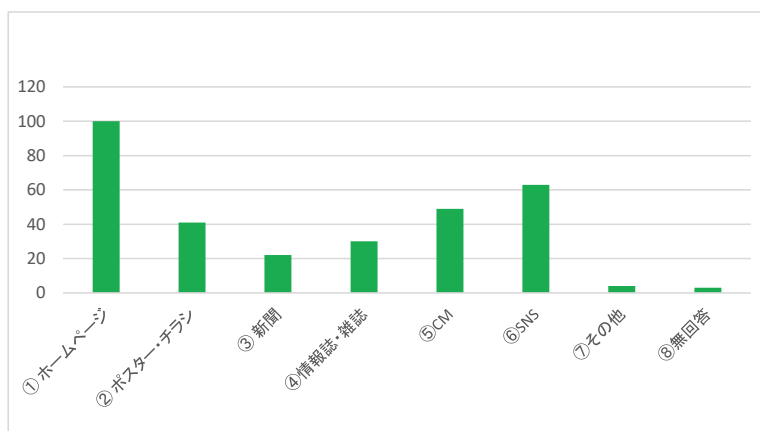
- ・ガイドに聞いて
- ・現地にて
- ・テレビ
- ・知らなかった
- ・ホテルのポスター
- ・知りませんでした
- ・家族旅行

Q4 特別展の告知方法として、どのような方法が効果的だと思いますか？ ※複数回答:可

① ホームページ	100
② ポスター・チラシ	41
③ 新聞	22
④情報誌・雑誌	30
⑤CM(テレビ / ラジオ)	49
⑥SNS(Facebook/Twitter/Instagramなど)	63
⑦その他()	4
⑧無回答	3

合計 312

テレビ(15) ラジオ(0)

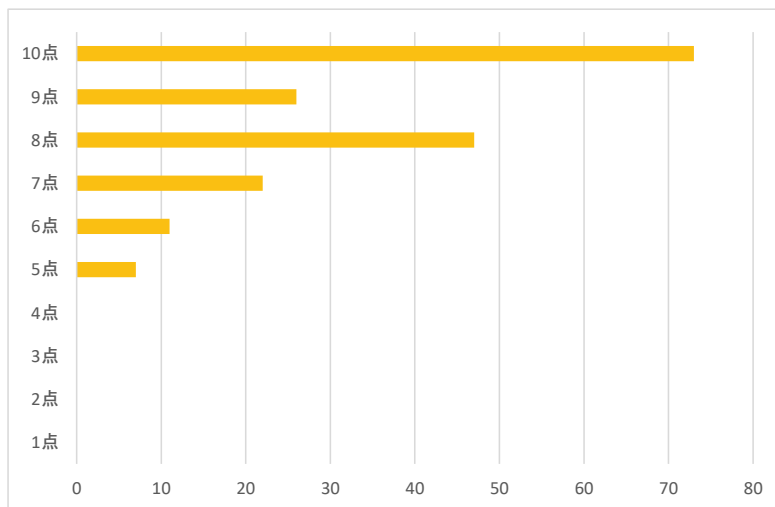


⑦その他の意見

- ・facebook
- ・来て
- ・テレビ
- ・空港・交通機関です
- ・じっさいにくること
- ・歩いて告知
- ・家族旅行案内(旅行会社)
- ・電車の車内広告
- ・宿泊施設での掲示など
- ・学校でのお手紙
- ・youtube
- ・代理店などで知らせる
- ・空港で情報を流すのが良いと思います。
- ・インターネット広告
- ・じょうほうばんぐみで
- ・家人(家族)
- ・ラジオ
- ・ここへ来て知った
- ・ガイドブック
- ・ホテルにポスター

Q5 今回の特別展はどうでしたか？10点満点で教えて下さい。

10点	73
9点	26
8点	47
7点	22
6点	11
5点	7
4点	0
3点	0
2点	0
1点	0
無回答	4
その他	1
合計	191



その他の意見
・15点

☆ よろしければ、今回の特別展をご覧になってのご意見・ご感想や、Q5の回答理由などをお書き下さい。

抜粋したコメント

回答数

109 名

- ・ 王の絵の復元等があり、非常に当時の衣服の様子が分かりやすく、良かった。
- ・ 小学生なので、もう少し分かりやすい展示がしてあったらなと思いました
- ・ 足を怪我し、車イスの対応がきちんとしていただき、ありがたかったです。ありがとうございました。
- ・ とても良いものが見られたと思います。都内にも来て欲しいです。
- ・ 戦争で失われた琉球の宝物を現代の技術で復元できたこと感激しました。
- ・ 「孔子及び四聖配像」の孔子の礼服の5爪の龍が分からなかった、拡大写真を添付してあれば良かった。
- ・ 琉球王朝の位階などを知れた又歴史の王の事物がどのような方か知れたこと
- ・ 御後絵の再生の大変さを感じたが、とても興味深いので是非頑張してほしいと思った。
- ・ 企画があるたびに来ています ありがとうございました
- ・ 年代によって顔の写実性が上がる所が理解でき、面白い。その他、大勢の面子の位を帽子で見比べたり意味を知ってきた、見方が変わるかも。美人画は総選挙のような企画などで順位つけてもらったり、現代の有名人を美人画にして比べるのも面白そう
- ・ 初めて首里城へ来ましたが思っていたよりも広く新しく展示もきれいで丁寧に飾られて、また色彩も豊かで目を奪われました。今後もいろんな企画をしてほしいです！
- ・ ガイドして戴いた事で詳しい内容を知る事が出来、終わってからの話をする機会もあって大満足の日になりました。多謝!!!

H30首里城公園企画展「琉球の江戸参府」 アンケート報告

友利優太*1 銘苅あやの*1

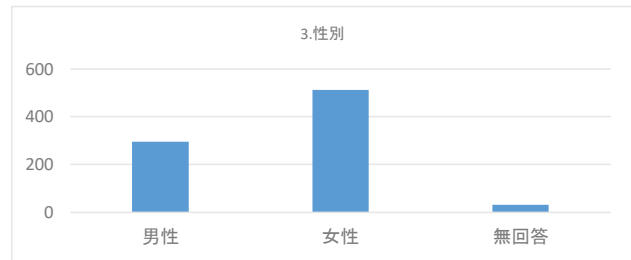
アンケート実施日 H30.12.31～H31.1.14(15日間)

アンケート設置場所 黄金御殿特別展示室

- 1 アンケート期間中の入館者数 73,114 名
2 アンケート有効回収数 838 名

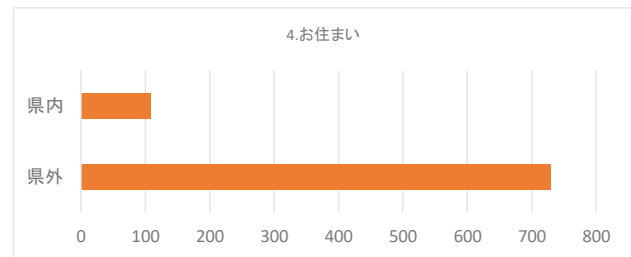
3 性別

男性	295
女性	512
無回答	31
合計	838



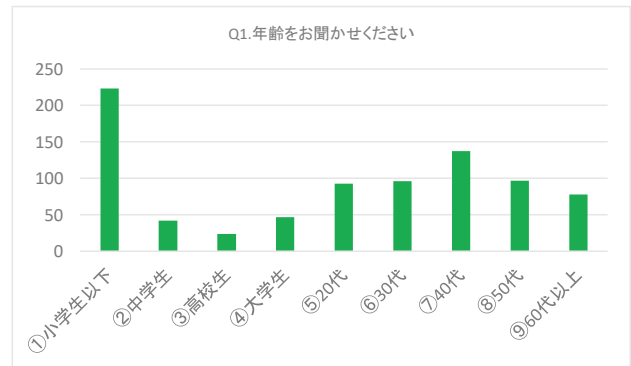
4 お住まい

県外	729
県内	108
外国・その他	1 (台湾)
合計	838



Q1 年齢をお聞かせ下さい。

①小学生以下	223
②中学生	42
③高校生	24
④大学生	47
⑤20代	93
⑥30代	96
⑦40代	137
⑧50代	97
⑨60代以上	78
⑩無回答	1
合計	838



Q2 今回、首里城公園への訪問は何回目ですか？

①初めて	470
②2回目	186
③3回目	80
④4回以上	88
⑤無回答	14
合計	838



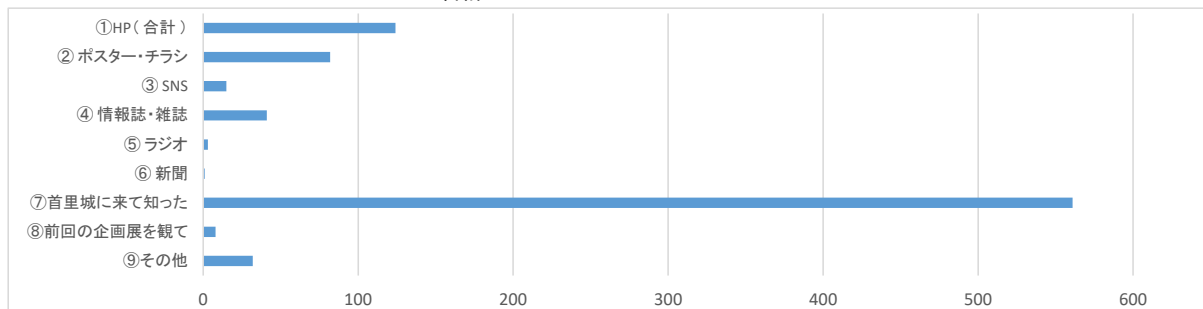
*1 一般財団法人沖縄美ら島財団 首里城公園管理部 首里城事業課 調査展示係 フルタイム契約職員

Q3 今回の特別展「琉球の江戸参府」を何で知りましたか？

⑨その他の意見

①-1 ホームページ(当園HP)	115
①-2 ホームページ(その他HP)	9
①-3 ホームページ(未記入)	
② ポスター・チラシ	82
③ SNS(Facebook/Twitter/Instagramなど)	15
④ 情報誌・雑誌(首里城通信:「御城だより」など)	41
⑤ ラジオ(FM沖縄:「風にふかれて首里城めぐり」など)	3
⑥ 新聞	1
⑥-2 新聞	0
⑦首里城に来て知った	561
⑧前回の企画展を観て	8
⑨その他	32
⑩無回答	19

合計 886

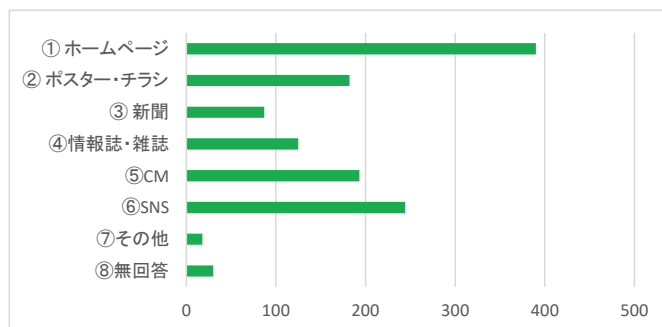


- ・授業
- ・家族
- ・家族に聞いて
- ・観光案内所
- ・なんでもない
- ・友達や親からきいた
- ・宿泊したホテルのフロントにあったチラシ
- ・おじいちゃんおばあちゃんが教えてくれた
- ・学校の教科書
- ・こちらに来て
- ・友達から聞いた
- ・沖縄に来て知った
- ・おきなわにきてしまった
- ・親
- ・母が言った
- ・知らず
- ・ツアー
- ・友人

Q4 特別展の告知方法として、どのような方法が効果的だと思いますか？ ※複数回答:可

① ホームページ	390
② ポスター・チラシ	182
③ 新聞	87
④情報誌・雑誌	125
⑤CM(テレビ / ラジオ)	193
⑥SNS(Facebook/Twitter/Instagramなど)	244
⑦その他()	18
⑧無回答	30

合計 1,269



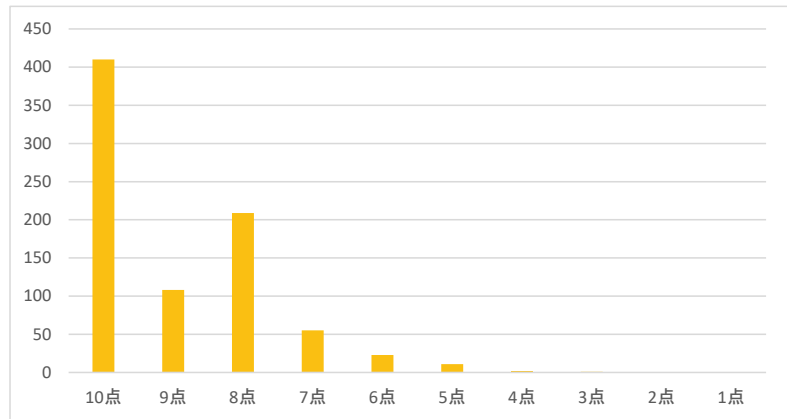
⑦その他の意見

テレビ(46) ラジオ(1)

- ・ガイドブック
- ・バスや電車に広告を出す
- ・来てから
- ・lineなどで
- ・商業施設
(例えばメインプレイス等)
- ・youtube
- ・ネット広告
- ・口コミ
- ・テレビ
- ・その場
- ・合宿のついで
- ・しないのホテルのフロントに
チラシを置く
- ・twitter
- ・旅行パンフレット・クーポン
- ・バスなどの交通機関の車内
- ・youtube
- ・旅行雑誌

Q5 今回の特別展はどうでしたか？10点満点で教えて下さい。

10点	410
9点	108
8点	209
7点	55
6点	23
5点	11
4点	2
3点	1
2点	0
1点	0
無回答	19
合計	838



☆よろしければ、今回の特別展「琉球の江戸参府」をご覧になってのご意見・ご感想や、Q5の回答理由などをお書き下さい。

抜粋したコメント

回答数

445 名

- ・ 長崎の明清楽と同じ楽器があったからびっくりした。今年の自由研究でしらべたから、もう一度調べたと思った。
- ・ 楽童子がとてもエリート集団で、今でいうところのジャニーズのような存在であったことがとても印象に残りました。他にも芸人さんのような人たちがいたのかも教えてほしいです。
- ・ もう少しイラストなどで小さな子供達でも分かりやすく解説があるといいなと思いました。
- ・ どのように復元されたのか説明に感動しました。どのような音が鳴るのか気になったので出口付近にビデオがあって嬉しかったです。もっと長くどのような音になるのか聞いてみたかったです。
- ・ 楽器の演奏や写真を見れて面白かったです。入館料金ももったいなくなかったくらいよかったです。
- ・ 年表でいつ頃行われていたものかが書かれていましたが、その時代に何があったかが合わせて記入されているともっと面白かったかもしれません。
- ・ 琉球が大陸と日本との間でバランスを取りながら文化交流に重要な役割を果たしてきたことが理解できました。
- ・ いつまでもペールのかかった首里城でしたが・・・今回はほんとうにきれいな首里城にあえました。
- ・ がくどうしの説明コメントがpopだった。英訳もpop。分かりやすい。Thank you
- ・ 美しい装飾がほどこされた楽器が見れてかんどうしました。さわったり音を出したりしてみたいです。
- ・ 沖縄の独特の音楽についてはじめて知ることばかりで大変興味深かったです。楽童子の絵も印象的でした。戦争で焼失したものが多いの残念ですが復元は意義あることと思います。
- ・ 前回は40年前でした。すごくきれいになっていて見やすくなっていてびっくりしました。又、来たいです。

H30首里城公園企画展「祝いのお飾り～正殿の祭祀道具～」 「琉球のよう～花・植物～」 アンケート報告

友利優太*1 銘苅あやの*1

アンケート実施日 H31.3.22～3.31(10日間)

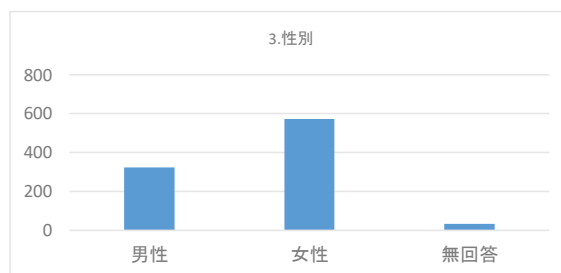
アンケート設置場所 黄金御殿特別展示室

1 アンケート期間中の入館者数 70,221 名

2 アンケート有効回収数 930 名

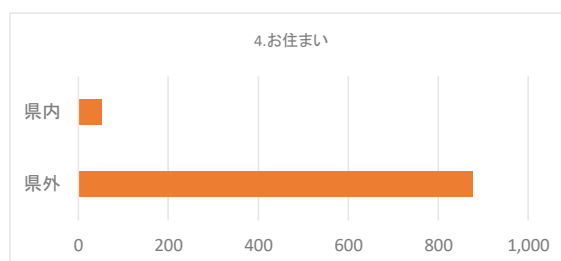
3 性別

男性	323
女性	574
無回答	33
合計	930



4 お住まい

県外	876
県内	53
外国・その他	1
合計	930



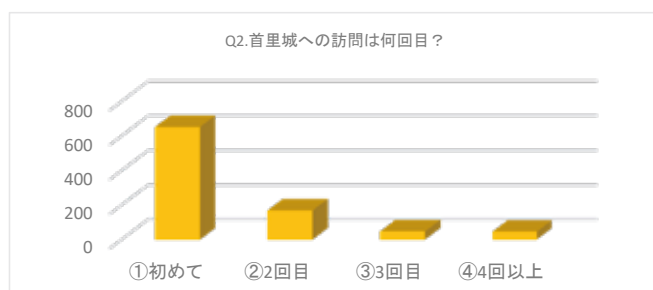
Q1 年齢をお聞かせ下さい。

①小学生以下	341
②中学生	104
③高校生	32
④大学生	44
⑤20代	39
⑥30代	70
⑦40代	149
⑧50代	75
⑨60代以上	72
⑩無回答	4
合計	930



Q2 今回、首里城公園への訪問は何回目ですか？

①初めて	653
②2回目	170
③3回目	48
④4回以上	46
⑤無回答	13
合計	930



Q3 今回の特別展を何で知りましたか？

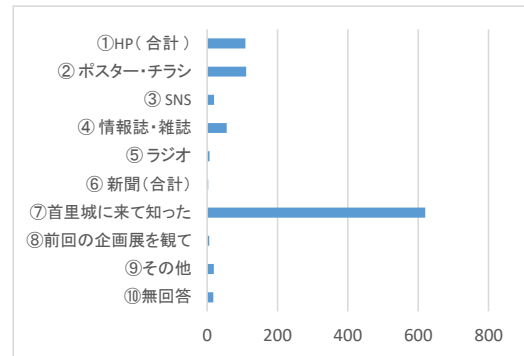
①-1 ホームページ(当園HP)	6
①-2 ホームページ(その他HP)	1
①-3 ホームページ(未記入)	102
② ポスター・チラシ	111
③ SNS(Facebook/Twitter/Instagramなど)	20
④ 情報誌・雑誌(首里城通信:「御城だより」など)	56
⑤ ラジオ(FM沖縄:「風にふかれて首里城めぐり」など)	7
⑥ 新聞	3
⑥-2 新聞	
⑦ 首里城に来て知った	620
⑧ 前回の企画展を観て	6
⑨ その他	19
⑩ 無回答	18

合計 969

⑨その他の意見

・旅行
・人から聞いた
・知らなかった
・ここにあったから
・友人から
・祖母が教えてくれた！

・テレビ
・家族
・ツアー
・沖縄に来た記念に
・twitter
・知人から☆
・母・父にきいた
・母に教えてもらった



Q4 特別展の告知方法として、どのような方法が効果的だと思いますか？ ※複数回答:可

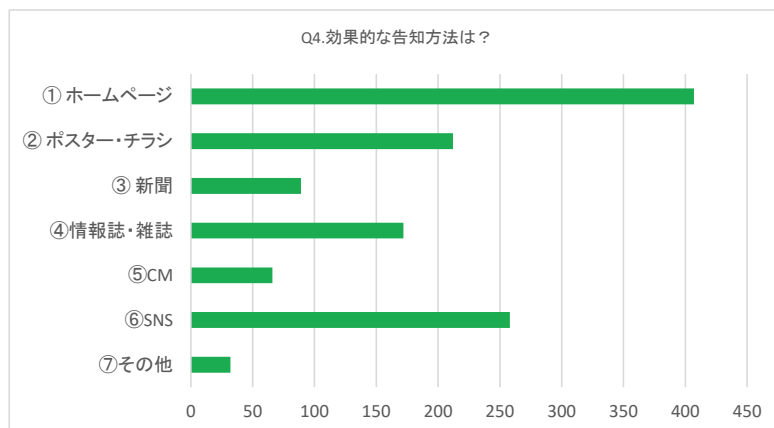
① ホームページ	407
② ポスター・チラシ	212
③ 新聞	89
④ 情報誌・雑誌	172
⑤ CM(テレビ / ラジオ)	66
⑥ SNS(Facebook/Twitter/Instagramなど)	258
⑦ その他()	32
⑧ 無回答	31

合計 1,267

テレビ(65) ラジオ(1)

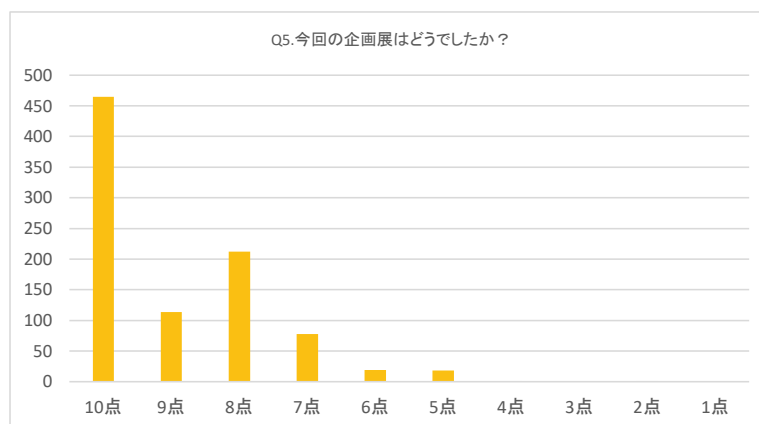
⑦その他の意見

SNS 10
ラジオ 9
ネット 1
広告 1
・旅雑誌
・現地
・飛行機cm
・facebook/看板
・本
・旅行社やホテル予約会社などのHP
・ラインのアカウントを作り、イベントを知らせる。



Q5 今回の特別展はどうでしたか？10点満点で教えて下さい。

10点	465
9点	114
8点	212
7点	78
6点	19
5点	18
4点	1
3点	0
2点	1
1点	0
無回答	22
合計	930



☆よろしければ、今回の特別展をご覧になってのご意見・ご感想や、Q5の回答理由などをお書き下さい。

抜粋したコメント

回答数

497 名

- ・ 沖縄の植物に興味があったので、ぐうぜんの展示でしたが、楽しかったです。
- ・ とっても知らないがっきがあつてビックリしましたがくわしくわかってよかったです。
- ・ 花、植物が本土と違いあざやかで大変美しいとよく分かりました。
- ・ 楽器の音、ききたいです 実物
- ・ はじめてしつた楽器がたくさんあつておもしろかったです。
- ・ 楽器の音を実際に聞きたかったです。
- ・ ボタニカルアートが大昔からあつたような感じで、植物の美しさが良かったです。
- ・ 展示物の説明書き上部の一言が好きです。とても素敵な展示でした。
- ・ 当時の物や衣装を再現(写真など)できていて、見るだけでわかりやすかった。来てよかったです。
- ・ どれもとても美しかった。特に楽器に興味があった。
- ・ 勉強になりました。視覚的にも刺激になって感性が磨かれたと思います。歴史の深さに感動しました。とても素敵だったとおもいます。ありがとうございました。
- ・ 琉球王国の歴史を華やかに知れて楽しかった。どのように文化が発展したのか背景を想像しておもしろくなった。調べてみようと思いました。
- ・ キレイな色の楽器やお皿などがあつておもしろかった。
- ・ 昔の道具などがとても繊細できれいすごいと思った。自分がもしここに住んでいたらと考える良い機会になった。
- ・ 琉球の人たち文化に触れ、勉強になりました。また来たいです！
- ・ 楽器を実際に鳴らしてみたいです。
- ・ 文化を感じた。日本でも珍しい文化があつたことを感じた。
- ・ 勉強になったので、夏休みの自由研究で調べてみようと思いました。
- ・ とてもキレイな花がたくさんあつて、見ていて楽しかったです。また見たことのないものがたくさんあつてわくわくしました。またききたいです。
- ・ 道具が美しい 色彩がきれいで見ることができてよかったです。
- ・ 琉球王国に思いをはせた
- ・ 紹介の仕方、表現がおもしろい。
- ・ 植物の文様が美しく、堪能しました。展示の説明も1番上のキャッチコピーが面白く、工夫がこらされていてとても良かったです。

首里城講座 平成 30 年度実施報告

安里成哉^{*1}、仲宗根あい^{*1}

1. はじめに

一般財団法人沖縄美ら島財団では、首里城に関する歴史・文化を普及啓発し、県民に関心を持っていただきながらその理解を深めることで、首里城公園の利用促進につなげることを目的に首里城講座を実施した。

平成 30 年度は4期回実施した。第1期では沖縄県立埋蔵文化財センターの協力を得て、首里城公園内における発掘調査の最新情報をテーマに実施した。第2期と第3期では、首里城公園で開催した企画展と連動したテーマに沿って実施し、展示資料に関する情報を深掘りして提供した。第4期は平成 31 年2月に供用開始した「御内原」地区をテーマに講座を実施した。

2. 平成 30 年度首里城講座 一覧

(1) 第1期「首里城発掘最新情報！」

- ① 第1回 開催日時：平成 30 年 6 月 22 日（金） 17：00～18:30
講 師：瀬戸 哲也（沖縄県立埋蔵文化財センター）
テ ー マ：「首里当蔵旧水路・首里城跡の発掘調査成果」
参加者数：37 名

- ② 第2回 開催日時：平成 30 年 6 月 29 日（金） 17：00～18:30
講 師：新垣 力（沖縄県立埋蔵文化財センター）
テ ー マ：「首里城跡の発掘調査成果」
参加者数：30 名

- ③ 第3回 開催日時：平成 30 年 7 月 6 日（金） 17：00～18:30
講 師：亀島 慎吾（沖縄県立埋蔵文化財センター）
テ ー マ：「首里高校内 中城御殿跡の発掘調査成果」
参加者数：42 名

- ④ 第4回 開催日時：平成 30 年 7 月 13 日（金） 17：00～18:30
講 師：金城 貴子（沖縄県立埋蔵文化財センター）
テ ー マ：「発掘調査からみえる那覇市東村跡の様相」
参加者数：32 名

(2) 第2期「企画展『美の動物園』を 100 倍楽しむ！」

- ① 第1回 開催日時：平成 30 年 8 月 3 日（金） 17：00～18:30
講 師：上江洲 安亨（総合研究センター 琉球文化財研究室 室長）
テ ー マ：「新発見!! 神猫図の秘密」

^{*1} 一般財団法人沖縄美ら島財団 総合研究センター 琉球文化財研究室 琉球文化財研究室係 主事

参加者数：21名

- ② 第2回 開催日時：平成30年8月10日（金） 17:00～18:30

講師：仲嶺 絵里奈（写真史研究家）

テーマ：「美術史から読み解く動物文様」

参加者数：11名

- ③ 第3回 開催日時：平成30年8月17日（金） 17:00～18:30

講師：宮城 奈々（総合研究センター 琉球文化財研究室）

テーマ：「紅型で描かれた動物たち 清代絹織物の影響」

参加者数：18名

（3）第3期「江戸に上った美少年と失われた楽器」

- ① 第1回 開催日時：平成30年11月23日（金） 17:00～18:30

講師：長嶺 亮子（沖縄県立芸術大学附属研究所 共同研究員）

テーマ：「御座楽楽器にまつわるエトセトラ」

参加者数：13名

- ② 第2回 開催日時：平成30年11月30日（金） 17:00～18:30

講師：上江洲 安亨（総合研究センター 琉球文化財研究室 室長）

テーマ：「京都六孫王神社に残る琉球人扁額と原本～ニセ正使とよばれた男の生涯～」

参加者数：21名

- ③ 第3回 開催日時：平成30年12月14日（金） 17:00～18:30

講師：輝 広志（首里城公園管理部 事業課 調査展示係）

テーマ：「琉球使節と楽童子」

参加者数：21名

（4）第4期「甦った御内原～首里城の裏側～」

- ① 第1回 開催日時：平成31年2月8日（金） 17:00～18:30

講師：喜名 盛昭（中国民俗音楽研究家）

テーマ：「王朝時代の中国伝来音楽」

参加者数：34名

- ② 第2回 開催日時：平成31年2月15日（金） 17:00～18:30

講師：新里 涼子（株式会社 国建）

テーマ：「首里城の十嶽と祭祀～御内原を中心に～」

参加者数：54名

- ③ 第3回 開催日時：平成31年2月22日（金） 17:00～18:30

講師：仲原 伸子（沖縄国際大学非常勤講師・おもろ研究会会員）

テ ー マ：「オモロにみる首里城―巻五を中心に―」

参加者数：42名

④ 第4回 開催日時：平成31年3月1日（金） 17：00～18:30

講 師：新垣 力（沖縄県立埋蔵文化財センター）

テ ー マ：「発掘調査成果にみる首里城跡「御内原」の姿」

参加者数：33名

3. 受講者の声

- ・出土したものを観光にどう役立てるのか。
- ・美ら島財団の収蔵庫を見学したいです（バックヤードツアー）。
- ・御座楽がアジア文化を感じるひとつの興味深いものだと思った。
- ・アジア旅行にでかけたくなった。
- ・江戸上り CD ソフトは販売しないのか。
- ・「楽童子の書」というカテゴリーで、財団のほうで資料を集めてほしい。
- ・「御内原」をテーマとした同じ講座をもう一度やってほしい。
- ・「御嶽」の遺構は発掘調査で出てきたのか。

4. まとめ

首里城講座は平成30年度で5年目を迎えた。今年度は4期14回を開催し、計409名の参加者がみられた。各期の参加者目標達成率は、第1期118%、第2期42%、第3期46%、第4期136%である。

第1期は参加率が高く、県民の考古に対する関心の高さがうかがえるため引き続き情報発信を行っていく。

企画展のテーマに沿って行われた第2期、第3期の講座では、主に琉球王国時代の美術工芸品に関連する内容を扱った。展示品等を様々な視点から研究・考察し普及啓発することで、企画展観覧者の満足度を向上させる役割を果たした。今後も調査研究を進め、内容を充実化させることで県民の興味関心を誘発したい。

第4期は御内原地区の供用開始に合わせた事もあり反響がとても大きかった。喜名氏の講座では、実際に楽器の演奏を行い好評であった。新里氏と仲原氏のテーマは、今まであまり取り上げていない「祭祀・信仰」や「おもろ」から見た首里城ということもあり、質疑応答も活発になされた。

令和元年10月の火災を受け、首里城や収蔵品に多くの注目が集まっている。首里城の歴史・文化、美術工芸品等収蔵品に関する普及を行う首里城講座の役割は例年より大きくなっていく。講座を通して改めて普及啓発に努めていきたい。



講座の様子



講師を務める輝広志（第3期第3回）

紙本墨書「伊地知貞馨書」修繕報告書

當間巧*¹

I. はじめに

本作品は、一般財団法人沖縄美ら島財団の所蔵「伊地知貞馨書」である。修復前の作品は折れ、折れ山の擦れ、染み汚れ、欠失損傷が著しかった為、平成30年9月25日から平成31年1月31日、石川堂で修復を行った。

今回の修復では本紙の折れ、欠失箇所の修復後掛幅装に装丁した。

II. 作品の形状及び寸法

1. 本紙

- | | |
|--------|--|
| ①基底材 | 画仙紙 |
| ②寸法 | 修復前 丈 141.3 c m 幅 47.1 c m
修復後 丈 141.5 c m 幅 46.8 c m |
| ③本紙枚数 | 1枚 |
| ④画材 | 墨・膠 |
| ⑤本紙の特徴 | 継ぎの無い1枚の画仙紙 |

2. 装丁

修復前

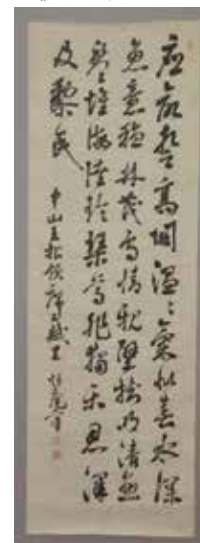
- | | |
|-----|---|
| ①装丁 | 装丁無し、本紙四方に継ぎ合されていた跡があり
掛幅装が解体された捲りの状態。 |
|-----|---|

- | | |
|-------|--------------|
| ②裏打ち紙 | 1層
肌裏紙・楮紙 |
|-------|--------------|

修復後

- | | |
|-------|--|
| ①装丁 | 掛幅装 |
| ②表具寸法 | 丈 223.9 c m 幅 59.3 c m |
| ③表装形式 | 丸表具 |
| ④裏打ち紙 | 3層
肌裏紙・楮紙（新調）
増裏紙・美栖紙（新調）
総裏紙・宇陀紙（新調） |
| ⑤表装裂 | 一文字・薄茶地牡丹唐草文金紗（新調）
上下柱・納戸地唐草文緞子（新調） |
| ⑥軸首 | 紫檀頭切軸（新調） |
| ⑦収納箱 | 桐太巻添軸桐印籠箱（新調） |

修復前 本紙全図



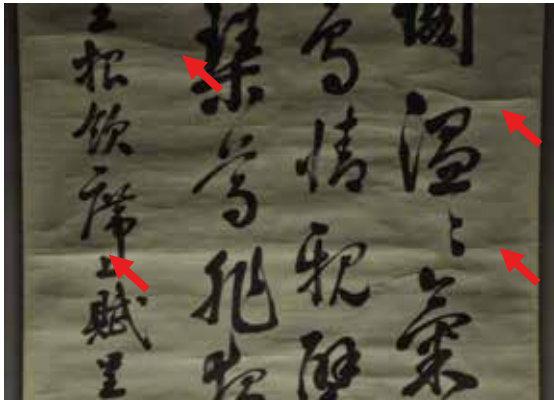
修復後 表具全図



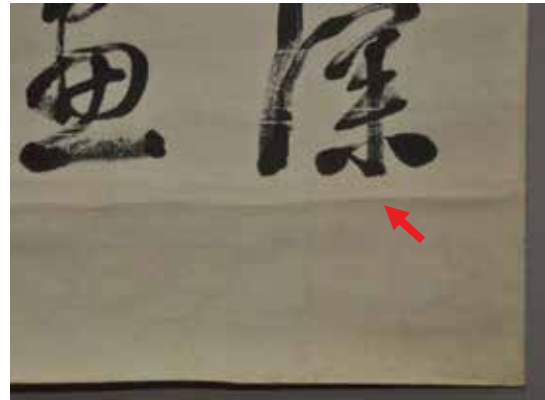
*1 石川堂 代表

Ⅲ. 修復前の損傷状況

1. 本紙には強い横折れが生じていた。



修復前 本紙中央部 折れが多数確認できる。
斜光線を当て、折れを強調。



修復前 本紙右下部 強い折れが確認できる。

2. 本紙に欠失箇所が見られた。



修復前 本紙上部 欠失箇所

3. 本紙には全体的に染み・汚れが見られた。



修復前 本紙右上部



修復前 本紙右中央部

Ⅳ. 修復方針及び概要

1. 実施の作業及び方針の決定・変更等は、首里城公園管理部の本件担当者と協議・監督の下進める。
2. 墨の剥落止めを行う。

本紙の状態を調査した結果、書かれた墨の状態は良好であった。剥落止めによる過度な膠投与は、墨又

は料紙の硬化を招く結果となる為、今回の修復では剥落止めは行わない事とした。

3. 汚れの除去作業を行う。

本紙全体を加湿し、水分に汚れ等が溶け出した後、本紙表裏に吸水紙を置き、吸水紙に染み・汚れを移し除去した。

4. 本紙の欠失箇所に適する補修紙で繕いを施す。

補修紙は、「宣紙」を選定した、使用に当たっては天然染料矢車・墨で染色、水酸化カルシウム溶液で媒染後用いた。

5. 本紙の折れが生じている箇所、及び今後明らかに生ずると思われる箇所に、伝統的な修理方法である折れ伏せを入れる。

6. 表装裂を新調する。

新調する表装裂に関しては、首里城公園管理部の本件担当者と協議し下記の表装裂を選定した。

一文字・薄茶地牡丹唐草文金紗 総縁・納戸地唐草文緞子

7. 軸首、鐙、八双、軸木、掛け紐等を新調する。

8. 桐太巻添軸桐印籠箱、白絹帛袱紗を新調する。

収納保存にあたっては太巻添軸に添えて巻き、折れ破損の要因を軽減した。

V. 修復工程

1. 修復前に写真撮影を行い、本紙の状態を調査した。

2. 濾過水を用い本紙表面に表打ちを施し、旧裏打ち紙を捲り取った。



修復中 裏打ち紙除去作業

3. 本紙汚れの除去を試みた、作業は本紙を傷ない範囲にとどめた。

4. 本紙の欠失箇所に補修（繕い）を施した。補修に使用する紙は風合い質感などの点から、宣紙を使用した。使用に当たっては天然染料矢車・墨で染色、水酸化カルシウム溶液で媒染後用い、糊は小麦粉澱粉糊（新糊）を使用した。



修復中 本紙補修作業

5. 新糊を用い、美濃紙（長谷川紙）で本紙の肌裏を打った。肌裏紙は天然染料（矢車）で染色、水酸化カルシウム溶液で媒染後用いた。糊は（新糊）を使用した。

右：修復中 本紙の肌裏打ち作業



6. 新調した表装裂を適する色調に染色し新糊を用い美濃紙（長谷川紙）で肌裏を打った。糊は（新糊）を使用した。

右：修復中 表装裂の肌裏打ち作業



7. 本紙、表装裂に美栖紙を使用し増裏を打った。糊は古糊を使用した。裏打ち後、仮張りを施した。

右：修復中 本紙の増裏打ち作業



8. 本紙の横折れが生じている箇所、今後明らかに生ずると思われる箇所に折れ伏せを施した。
折れ伏せ紙は美濃紙（長谷川紙）用い、糊は新糊を使用した。

右：修復中 折れ伏せ入れ作業



9. 本紙と表装裂を「丸表具」に付け廻した。

右：修復中 付回し作業



10. 古糊を用い宇陀紙で総裏を打った。裏打ち後、仮張りを施した。

右：修復中 総裏打ち作業



11. 鐙、軸首、八双、軸木、掛け紐等を新調した。

12. 十分に乾燥させた後、表具に仕上げた。

右：修復中 仕上げ作業



13. 桐太巻添軸桐印籠箱を新調し、紙帙を製作後、表具を白絹帛袱紗に包み印籠箱に収納した。

右：桐太巻添軸桐印籠箱



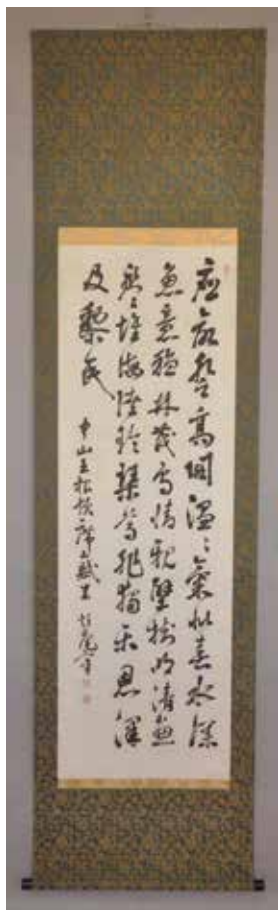
14. 修復後の写真撮影・報告書を作成した。

VI. 修復前後の状態

1. 表装裂

修復前は掛幅装が解体され1層旧裏打ち紙が残されている状態であった。

修復後は上下・柱に納戸地唐草文緞子、一文字には薄茶地牡丹唐草文金紗を新調し丸表具に仕立てた。一文字に使用した裂地は天然染料染料(矢車)を用いて染色し、水酸化カルシウム溶液で色素を固着させ使用した。



修復後 表具全図



修復後 上・一文字の様子

2. 軸首

修復後の軸首は、首里城公園管理部の本作担当者との協議、全体との調和を考慮した結果、「黒檀頭切軸」を使用した。

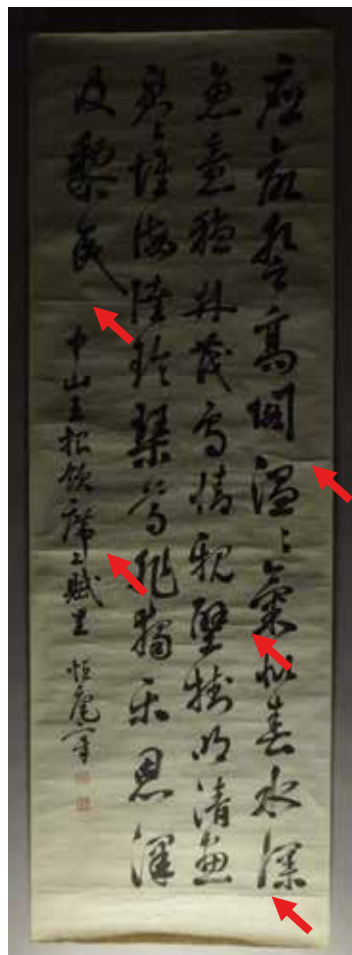


右：新調した黒檀頭切軸首

3. 本紙の折れ

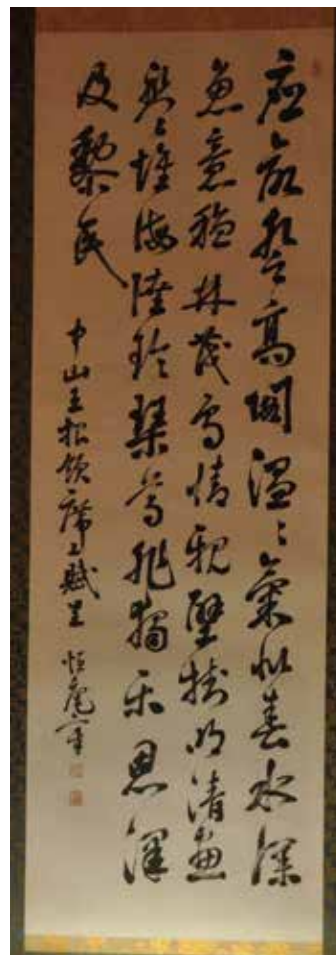
斜光線を照射して、修復前後の状態を比較する。

修復前

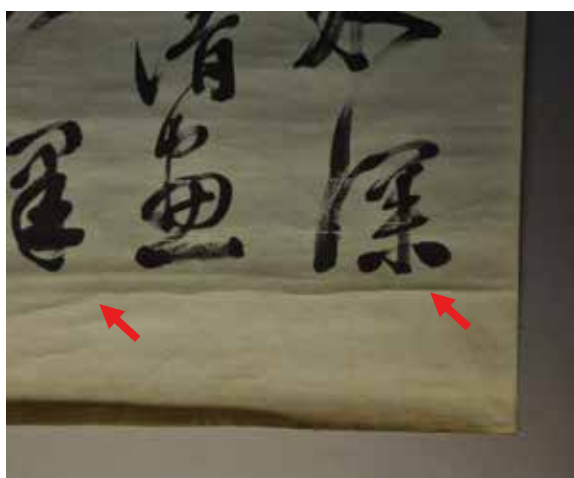


折れが多数確認できる

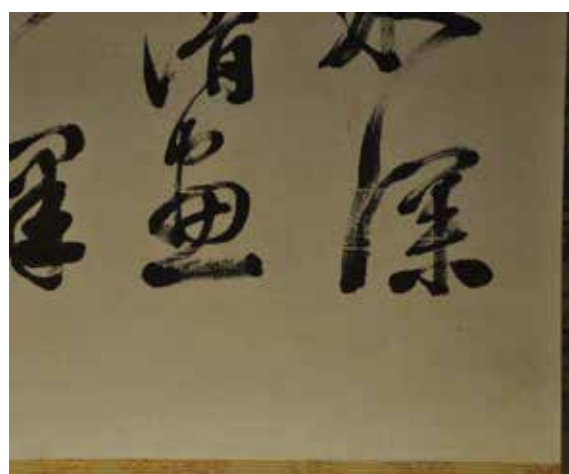
修復後



折れが収まり平滑な本紙面



修復前 本紙右下部 強い折れが確認できる



修復後 本紙右下部

4. 本紙の欠失箇所

本紙の欠失、欠損箇所に補修（繕い）を施した。補修に使用する紙は風合い質感などの点から、宣紙を使用した。使用に当たっては天然染料矢車・墨で染色、水酸化カルシウム溶液で媒染後用い、糊は（新糊）を使用した。



修復前 本紙上部 欠失箇所



修復後 本紙上部 欠失箇所

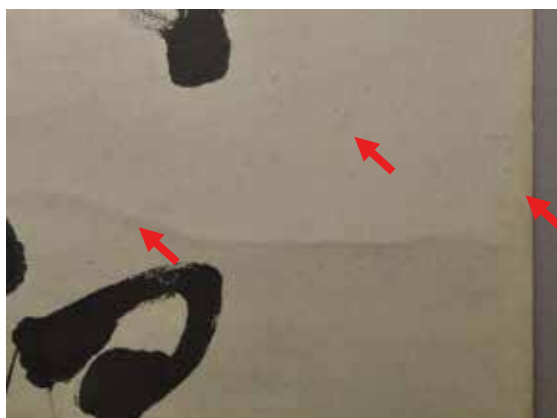
5. 本紙の染み・汚れ



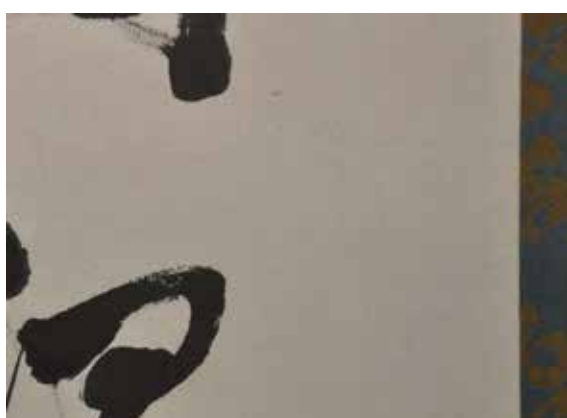
修復前 本紙右上部



修復後 本紙右上部 染み・汚れが緩和した



修復前 本紙右中央部

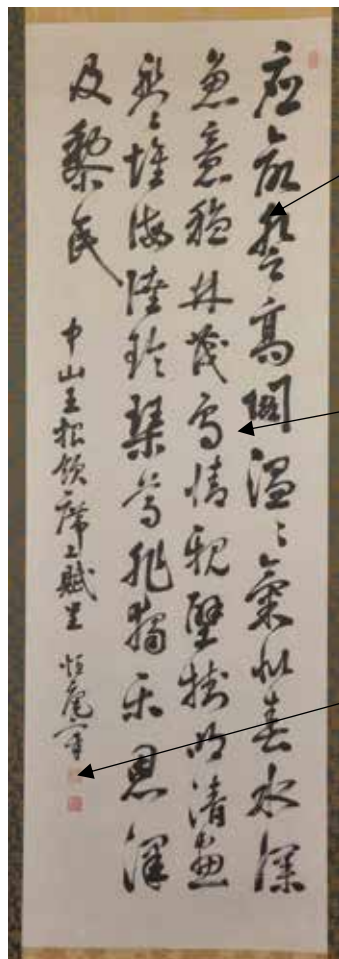


修復後 本紙右中央部 染み・汚れが緩和した

VII. 作品の技術分析

1. 顕微鏡撮影

本紙の顕微鏡撮影を行った。撮影は修復後、本紙の安定した状態で実施した。



墨文字 墨



本紙 料紙



朱印 朱

VIII. 修復諸資材

1. 接着剤

①新糊（中村糊店・京都府京都市下京区）

原材料は小麦粉澱粉。水によく沈殿させ煮出した後、糊化したものを使用する。
肌裏打ち・折れ伏せ入れ等各所に使用。



②古糊

原材料は小麦粉澱粉。新糊を瓶に入れ5年程鍾乳洞にて保存したものを使用した。新糊に比べ接着力は劣るが、柔軟性を与え保つ事が出来る。「打ち刷毛」という特殊な表具用刷毛を使用し裏打ちを行う。
増裏打ち・総裏打ちに使用。



2. 染料

①天然染料 矢車（中村長商店・京都府京都市中京区）

原材料はカバノキ科ハンノ木属夜叉五倍子の果実。果実を水で煮出した後の染料溶液を使用する。

本紙肌裏紙、補修紙、裂地の染色に使用。



3. 紙

①美濃紙 長谷川紙（長谷川和紙工房・岐阜県美濃市）

原材料はクワ科の楮。中でも国内産那須楮白皮を使用した手漉き和紙。薄く強靱で長期の保存に耐える。本紙、表装裂の肌裏紙・折れ伏せ紙に使用。

②美栖紙 白雪（昆布尊男製・奈良県吉野群吉野町）奈良県指定伝統工芸品

原材料クワ科の楮。紙漉きの際、古粉（炭酸カルシウム）を添加する表具用手漉き和紙。薄く柔軟性があり、古糊と合わせて使用する。増裏紙に使用。

③宇陀紙 福虎（福西弘行製・奈良県吉野群吉野町）奈良県指定伝統工芸品

原材料クワ科の楮。国内産楮を使用し、地元特産の「白土」を混入し伝統的製法で漉かれた表具用手漉き和紙、強靱で長期の保存に耐える。美栖紙に比べやや厚いが、風合い・質感共に軟らかさがある。古糊と合わせて使用する。

総裏紙、上巻き絹の裏打ち紙に使用。

IX. 作業期間

自・平成30年9月25日

至・平成31年1月31日

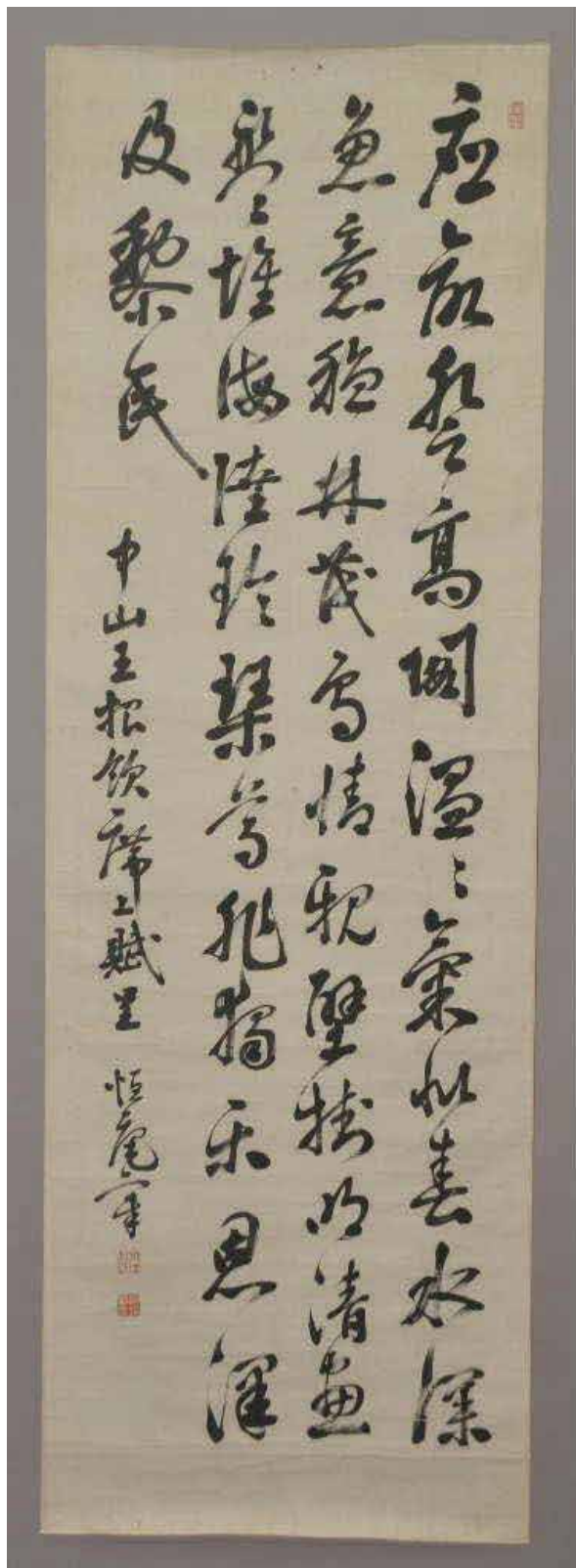
X. 作業場所

沖縄県うるま市石川 2738-11-2F

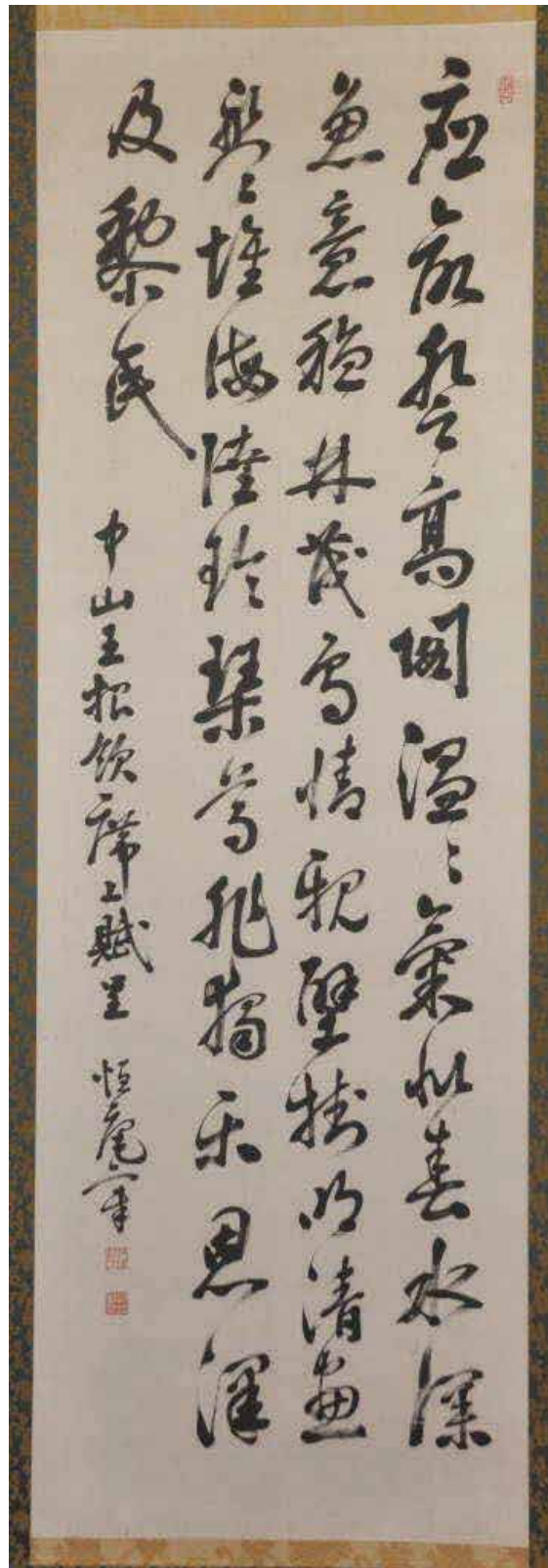
石川堂 當間巧

XI. 修復写真

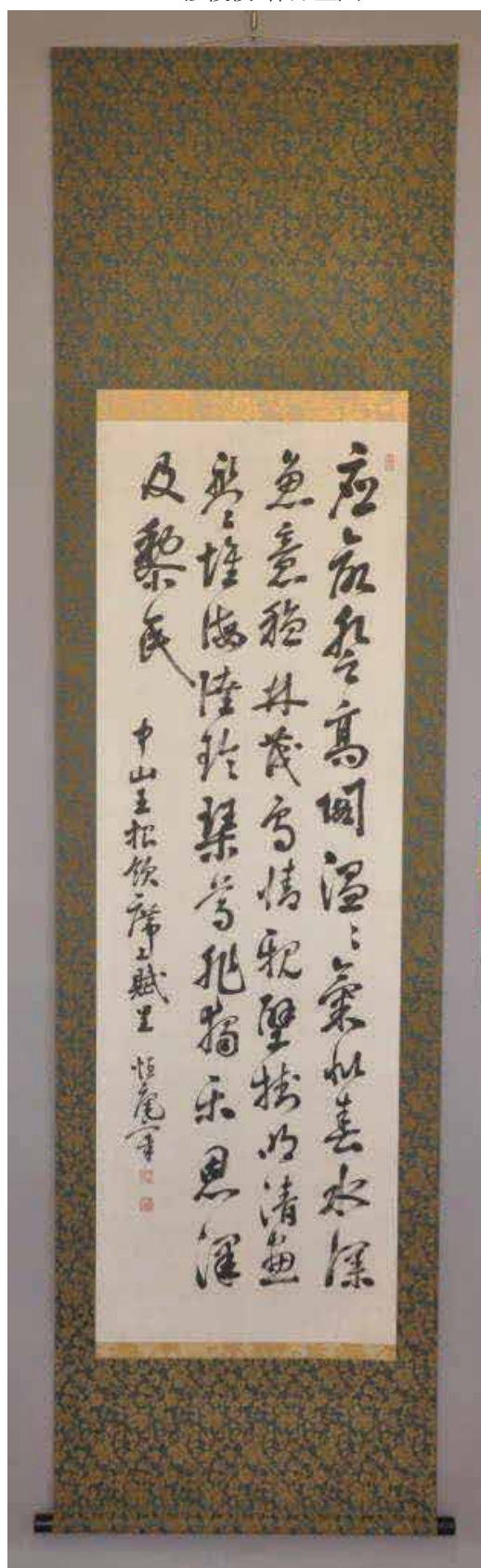
修復前 本紙全図



修復後 本紙全図



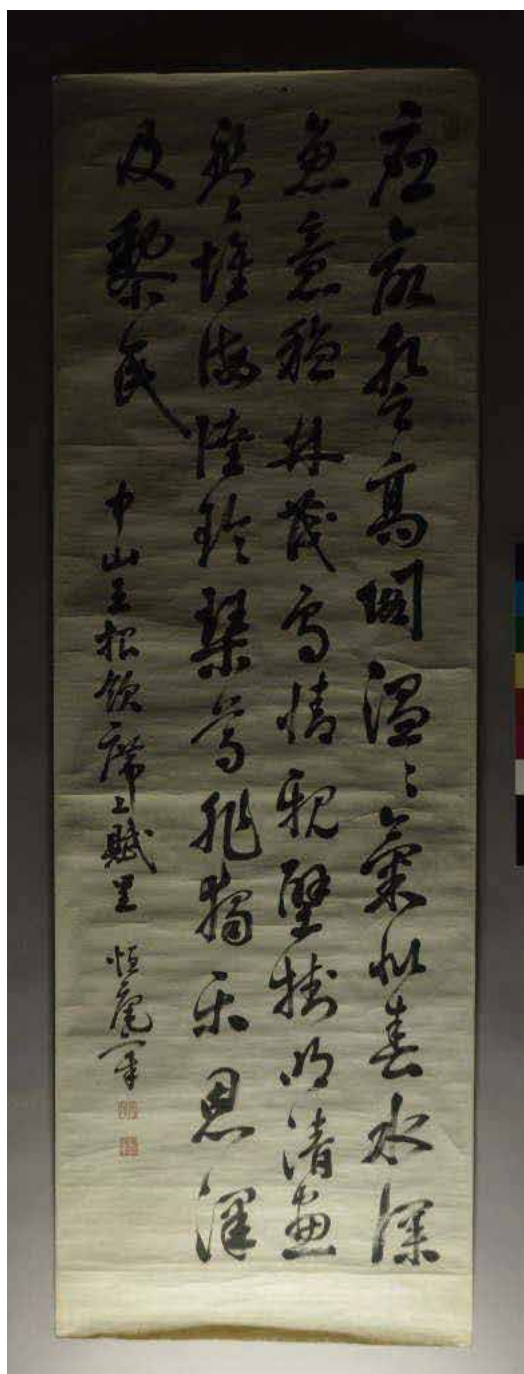
修復後 作品全圖



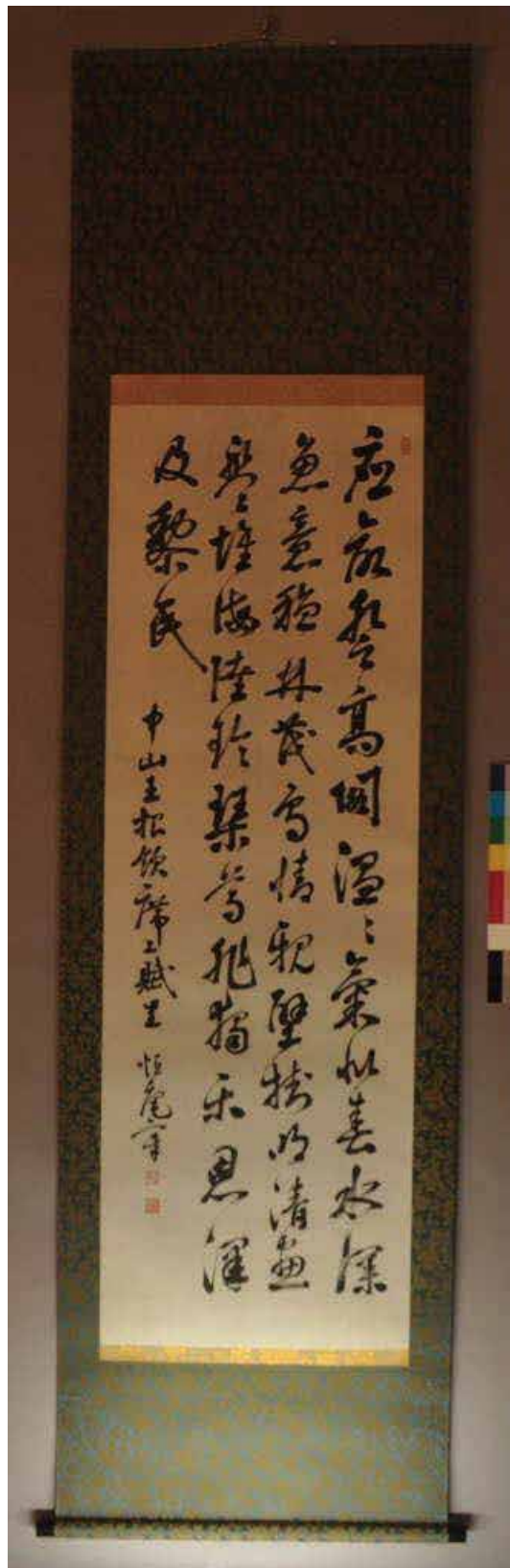
修復後 作品裏面



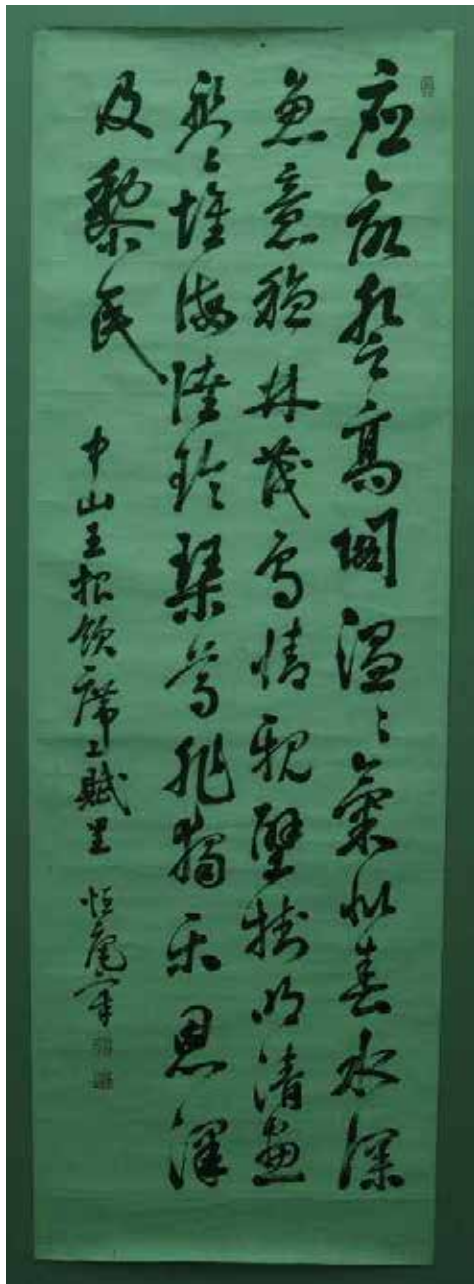
修復前 本紙全図 斜光線写真



修復後 作品全図 斜光線写真

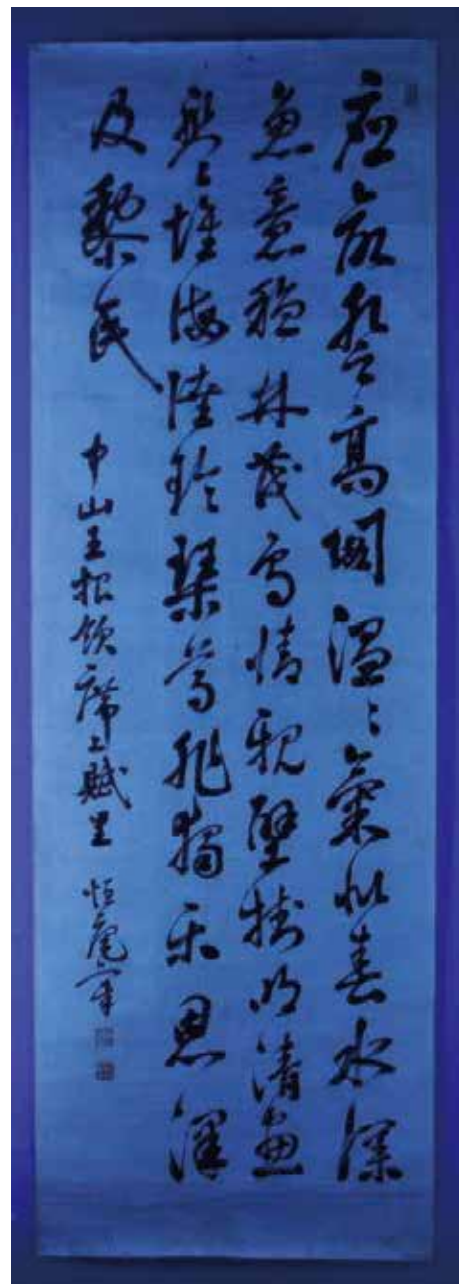


赤外線写真



修復前 本紙全図 赤外線写真

紫外線蛍光写真



修復前 本紙全図 紫外線蛍光写真

修復後 桐太巻添軸桐印籠箱



修復後 桐太巻添軸芯に作品を巻いて収めた様子



紙本著色「首里城周辺の図」保存修繕報告

當間巧*¹

I. はじめに

本作品は、一般財団法人沖縄美ら島財団所蔵「首里城周辺の図」である。修復前の作品は折れ、折れ山の擦れ、糊浮き、欠失損傷が著しかった為、平成30年9月25日から平成31年1月31日、石川堂で修復を行った。今回の修復では本紙の折れ、欠失箇所の修復後、再び掛幅装に再装丁した。

II. 作品の形状及び寸法

1. 本紙

- | | |
|--------|--|
| ①基底材 | 紙 |
| ②寸法 | 修復前 丈 126.8 c m 幅 54.2 c m
修復後 丈 127.3 c m 幅 54.5 c m |
| ③本紙枚数 | 1枚 |
| ④本紙の特徴 | 継ぎの無い1枚の料紙 |

2. 装丁

修復前

- | | |
|-------|----------------------------------|
| ①装丁 | 掛幅装 |
| ②表具寸法 | 丈 198.5 c m 幅 67.1 c m |
| ③表装形式 | 丸表具 |
| ④裏打ち紙 | 3層
肌裏紙・楮紙
増裏紙・楮紙
総裏紙・楮紙 |
| ⑤表装裂 | 一文字・白地花文金欄
上下柱・薄藍地古代結 |
| ⑥軸首 | 紫檀一道軸 |
| ⑦収納箱 | 桐印籠箱 |

修復前 表具全図



* 1 石川堂 代表

修復後

- ①装丁 掛幅装
- ②表具寸法 丈 210. 1 c m 幅 67. 6 c m
- ③表装形式 丸表具
- ④裏打ち紙 4 層
肌裏紙・楮紙（新調）
増裏紙・美栖紙（新調）
中裏紙・美栖紙（新調）
総裏紙・宇陀紙（新調）
- ⑤表装裂 一文字・茶地蜀江文金襴（新調）
上下柱・藍地幾何学文様綾（新調）
- ⑥軸首 紫檀細工軸（新調）
- ⑦収納箱 桐太巻添軸桐印籠箱（新調）

修復後 表具全図



Ⅲ. 修復前の損傷状況

1. 本紙には強い横折れと亀裂が生じていた。

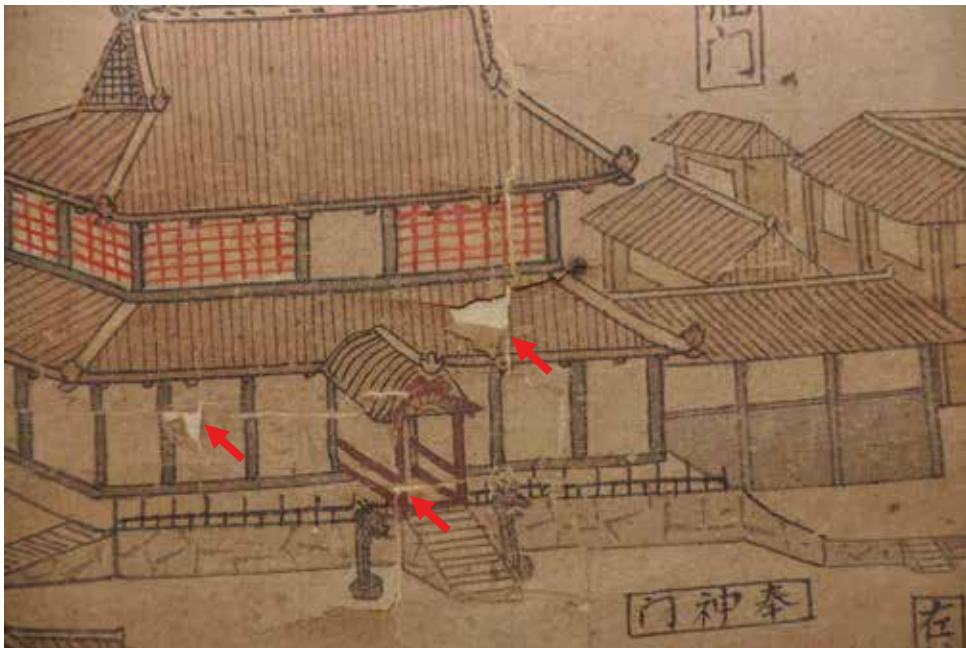


修復前 本紙下部 折れが多数確認できる。

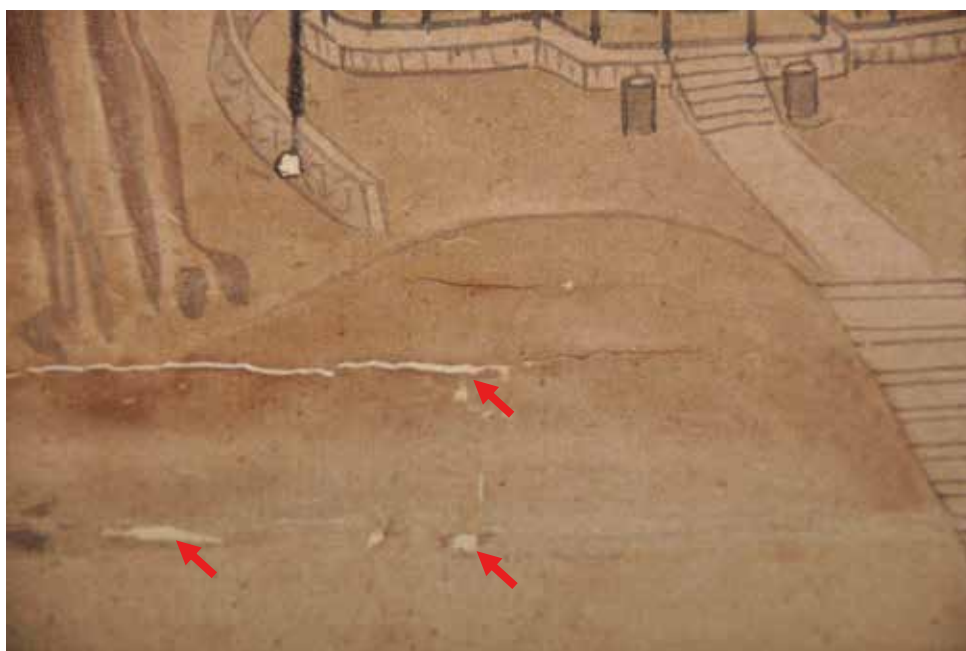


修復前 本紙左下部 強い折れと亀裂が確認できる。

2. 本紙に欠失箇所、糊浮きが見られた。



修復前 本紙上部 欠失箇所、糊浮きが生じ本紙の折れ曲がりと暴れ



修復前 本紙中央部 亀裂と欠失箇所

IV. 修復方針及び概要

1. 実施の作業及び方針の決定・変更等は、首里城公園管理部の本件担当者と協議・監督の下進める。
2. 絵具の剥落止めを行う。

絵具の状態を調査した結果、状態は良好であった。剥落止めによる過度な膠投与は、絵具又は料紙の硬化を招く結果となる為、今回の修復では剥落止めは行わない事とした。

3. 汚れの除去作業を行う。
本紙全体を加湿し、水分に汚れ等が溶け出した後、本紙表裏に吸水紙を置き、吸水紙に染み・汚れを移し除去した。
4. 本紙の欠失、亀裂箇所に適する補修紙で繕いを施す。
補修紙は、「宣紙」を選定した、使用に当たっては天然染料矢車・墨で染色、水酸化カルシウム溶液で媒染後用いた。
5. 本紙の折れが生じている箇所、及び今後明らかに生ずると思われる箇所に、伝統的な修理方法である折れ伏せを入れる。
6. 表装裂を新調する。
新調する表装裂に関しては、首里城公園管理部の本件担当者と協議し下記の表装裂を選定した。
一文字・茶地蜀江文金襴 総縁・藍地幾何学文様綾
7. 軸首、鐙、八双、軸木、掛け紐等を新調する。
8. 桐太巻添軸桐印籠箱、白絹帛袱紗を新調する。
収納保存にあたっては太巻添軸に添えて巻き、折れ破損の要因を軽減した。

V. 修復工程

1. 修復前に写真撮影を行い、本紙の状態を調査した。
2. 裏打ち紙を除去し表具装を解体した。

右：修復中 解体作業後写真



3. 濾過水を用い本紙表面に表打ちを施し旧裏打ち紙、旧繕い紙を捲り取った。

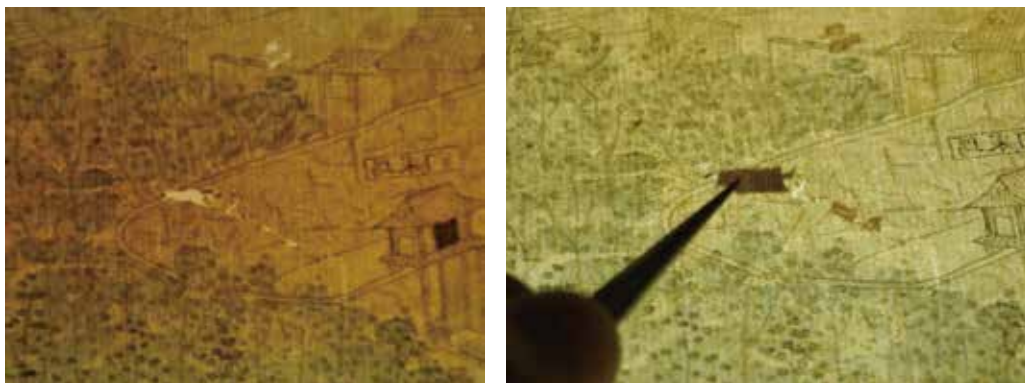


修復中 裏打ち紙除去作業



修復中 旧繕い紙の除去作業

4. 本紙汚れの除去を試みた、作業は本紙を傷ない範囲にとどめた。
5. 本紙の欠失、欠損箇所に補修（繕い）を施した。補修に使用する紙は風合い質感などの点から、同質の宣紙を使用した。使用に当たっては天然染料矢車・墨で染色、水酸化カルシウム溶液で媒染後用い、糊は小麦粉澱粉糊（新糊）を使用した。



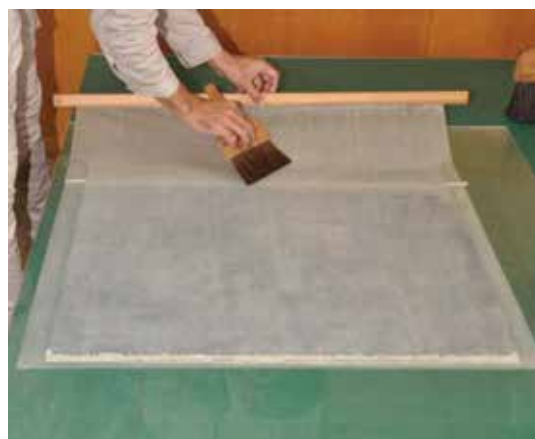
修復中 本紙補修作業

6. 新糊を用い、美濃紙（長谷川紙）で本紙の肌裏を打った。肌裏紙は天然染料（矢車）で染色、水酸化カルシウム溶液で媒染後用いた。糊は（新糊）を使用した。



右：修復中 本紙の肌裏打ち作業

7. 新調した表装裂を適する色調に染色し、新糊を用い美濃紙（長谷川紙）で肌裏を打った。糊は（新糊）を使用した。



右：修復中 表装裂の肌裏打ち作業

8. 本紙、表装裂に美栖紙を使用し増裏を打った。
糊は古糊を使用した。裏打ち後、仮張りを施した。

右：修復中 本紙の増裏打ち作業



9. 本紙の横折れが生じている箇所、今後明らかに生ずるとされる箇所に折れ伏せを施した。
折れ伏せ紙は美濃紙（長谷川紙）用い、糊は新糊を使用した。

右：修復中 折れ伏せ入れ作業



10. 本紙と表装裂を「丸表具」に付け廻した。

右：修復中 付回し作業



11. 美栖紙で中裏を打った。糊は新糊を使用した。裏打ち後仮張りを施した。

右：修復中 中裏打ち作業



12. 古糊を用い宇陀紙で総裏を打った。裏打ち後、仮張りを施した。

右：修復中 総裏打ち作業



13. 鐙、軸首、八双、軸木、掛け紐等を新調した。

14. 十分に乾燥させた後、表具に仕上げた。

右：修復中 仕上げ作業



15. 桐太巻添軸桐印籠箱を新調し、紙帙を製作後、表具を白絹帛袱紗に包み印籠箱に収納した。

右：桐太巻添軸桐印籠箱



16. 修復後の写真撮影・報告書を作成した。

VI. 修復前後の状態

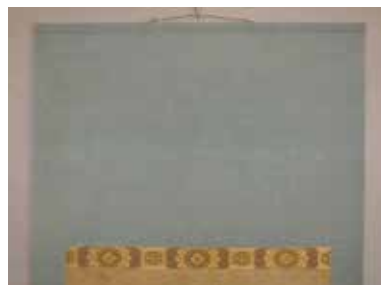
1. 表装裂

修復前は上下柱に薄藍地古代絛、一文字には白地花文金欄を配した丸表具に仕立てられていた。
修復後は上下・柱に藍地幾何学文様綾、一文字には茶地蜀江文金欄を新調し丸表具に仕立てた。上
下・柱に使用した裂地はデルクス化学染料を用いて染色した。

修復後 表具全図



修復前 上・一文字の様子



修復後 上・一文字の様子

2. 軸首

修復後の軸首は、首里城公園管理部の本件担当者との協議、全体との調和を考慮した結果、「紫檀細工軸」を使用した。

右：新調した紫檀細工軸首



3. 本紙の折れ、亀裂

斜光線を照射して、修復前後の状態を比較する。

修復前



強い折れが確認できる

修復後



折れが収まり平滑な本紙面



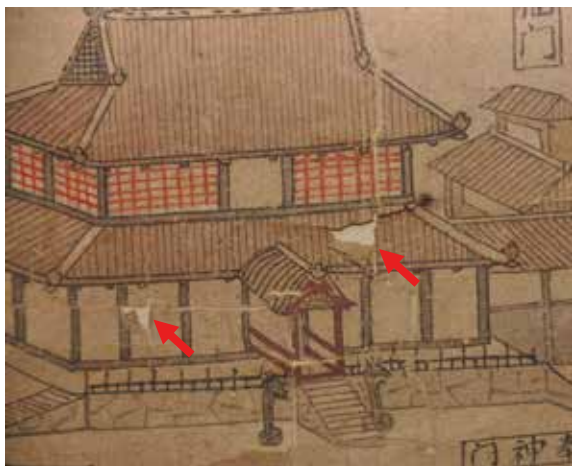
修復前 本紙左下部 強い折れと亀裂が確認できる



修復後 本紙左下部

4. 本紙の損傷・欠失箇所

本紙糊浮きの影響でできた絵の折れ曲がり損傷箇所は、本来の元の状態に戻し補修し、欠失箇所には（繕い）を施した。風合い質感などの点から宣紙を使用した。使用に当たっては天然染料矢車・墨で染色、水酸化カルシウム溶液で媒染後用い、糊は小麦粉澱粉糊（新糊）を使用した。



修復前 本紙上部 欠失箇所、糊浮き損傷箇所



修復後 本紙上部 欠失箇所、糊浮き損傷箇所



修復前 本紙中央部 亀裂と欠失箇所



修復後 本紙中央部 亀裂と欠失箇所



修復前 本紙中央部 欠失箇所



修復後 本紙中央部 欠失箇所

5. 本紙・絵画面

旧裂地と本紙の継ぎ部分を捲り取る作業の中で、本紙の絵画面が継ぎ部分の重なりに隠れていたのが確認された、以上の点を考慮し、隠れていた絵画面を出来る限り出し本紙面を広くした。

右：修復前 本紙下部



右：修復後 本紙下部



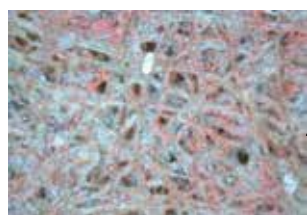
VII. 作品の技術分析

1. 顕微鏡撮影

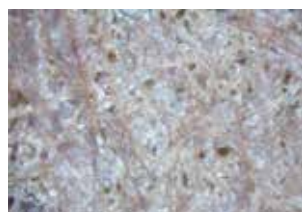
本紙の顕微鏡撮影を行った。撮影は修復後、本紙の安定した状態で実施した。



墨書 墨



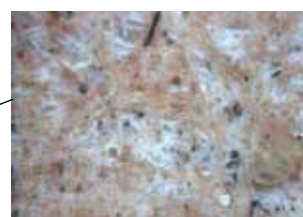
朱印 朱



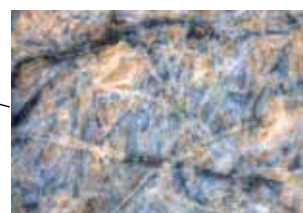
山 茶色



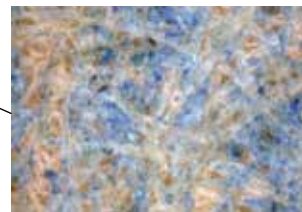
海 薄青



守礼門 赤



樹木葉 緑



人物 青

VIII. 修復諸資材

1. 接着剤

①新糊（中村糊店・京都府京都市下京区）

原材料は小麦粉澱粉。水によく沈殿させ煮出した後、糊化したものを使用する。
肌裏打ち・折れ伏せ入れ等各所に使用。



②古糊

原材料は小麦粉澱粉。新糊を瓶に入れ5年程鍾乳洞にて保存したものを使用した。新糊に比べ接着力は劣るが、柔軟性を与え保つ事が出来る。「打ち刷毛」という特殊な表具用刷毛を使用し裏打ちを行う。
増裏打ち・中裏打ち・総裏打ちに使用。



2. 染料

①天然染料 矢車（中村長商店・京都府京都市中京区）

原材料はカバノキ科ハンノ木属夜叉五倍子の果実。果実を水で煮出した後の染料溶液を使用する。
本紙肌裏紙、補修紙の染色に使用。



②化学染料 商品名デルクス（京都府京都市中京区 田中直染料店）

裂地の染色に使用。

3. 紙

①美濃紙 長谷川紙（長谷川和紙工房・岐阜県美濃市）

原材料はクワ科の楮。中でも国内産那須楮白皮を使用した手漉き和紙。薄く強靱で長期の保存に耐える。
本紙、表装裂の肌裏紙・折れ伏せ紙に使用。

②美栖紙 白雪（昆布尊男製・奈良県吉野群吉野町）奈良県指定伝統工芸品

原材料クワ科の楮。紙漉きの際、古粉（炭酸カルシウム）を添加する表具用手漉き和紙。薄く柔軟性があり、古糊と合わせて使用する。増裏紙、中裏紙に使用。

③宇陀紙 福虎（福西弘行製・奈良県吉野群吉野町）奈良県指定伝統工芸品

原材料クワ科の楮。国内産楮を使用し、地元特産の「白土」を混入し伝統的製法で漉かれた表具用手漉き和紙、強靱で長期の保存に耐える。美栖紙に比べやや厚いが、風合い・質感共に軟らかさがある。古糊と合わせて使用する。
総裏紙、上巻き絹の裏打ち紙に使用。

IX. 作業期間

自・平成30年9月25日

至・平成31年1月31日

X. 作業場所

沖縄県うるま市石川 2738-11-2F

石川堂 當間巧

XI. 修復写真

修復前 本紙全図



修復後 本紙全図



修復前 作品全図



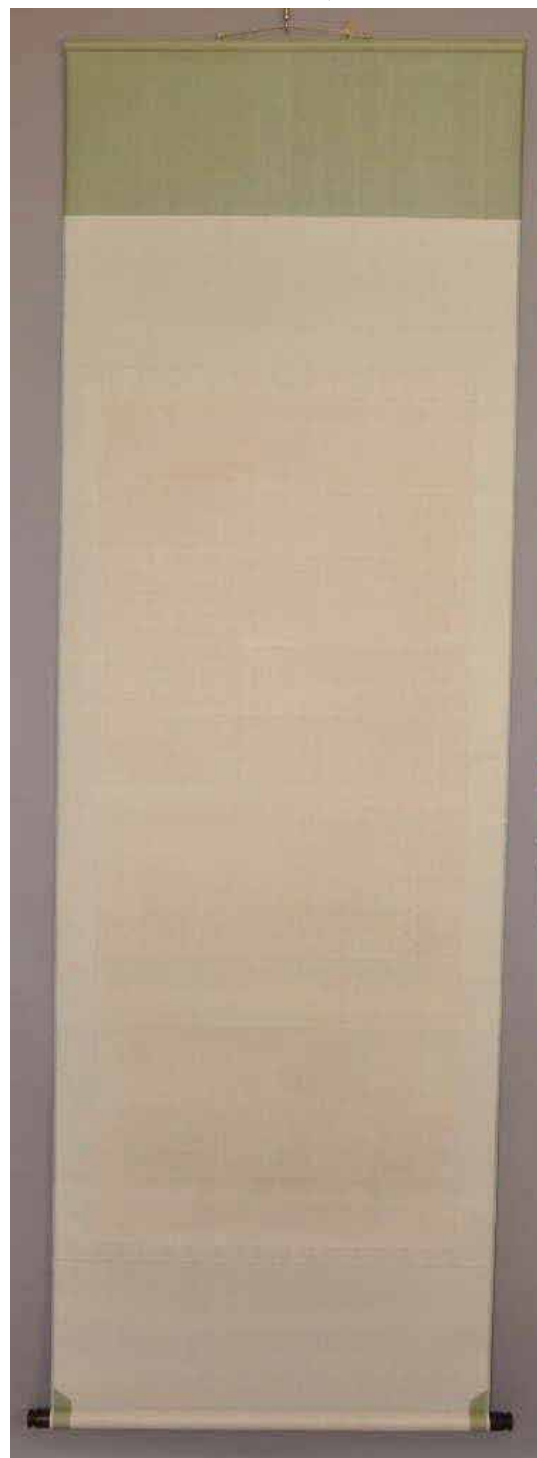
修復後 作品全図



修復前 作品裏面



修復後 作品裏面



修復前 作品全図 斜光線写真



修復後 作品全図 斜光線写真



赤外線写真



修復前 作品全図 赤外線写真

紫外線蛍光写真



修復前 作品全図 紫外線蛍光写真

修復後 桐太巻添軸桐印籠箱



修復後 桐太巻添軸芯に作品を巻いて収めた様子



絹本著色「孫億筆花鳥図③」保存修復報告

関地久治^{*1} 箭木康一郎^{*2} 三原昇^{*3}

I. はじめに

本作品は、一般財団法人沖縄美ら島財団所蔵の絹本著色「孫億筆花鳥図③」である。平成30年4月17日から平成31年1月18日まで有限会社墨仙堂で修復を行った。修復にあたり、関地久治を総括責任者及び管理技術者、修復担当並びに写真撮影（35mm、デジタルカメラ）報告書作成は箭木康一郎が行った。また、4×5版の写真撮影は三原昇が行った。



Fig. 1 修復前 作品全図



Fig. 2 修復後 作品全図

*1 有限会社 墨仙堂 代表取締役

*2 有限会社 墨仙堂

*3 フォト・ファクトリー・ミハラ

作品名	孫億 筆 絹本着色「花鳥図③」
種別	絵画
装丁形式	掛幅装
員数	1 幅
所有者	〒903-0815 沖縄県那覇市首里金城町 1-2 一般財団法人 沖縄美ら島財団
修復内容	損傷の見られる作品の本紙及び装丁を解体し、裏打ち紙の除去を含む本紙の修復処置後、再び掛幅装に再装丁する解体修復。
施工場所	〒606-0026 京都市左京区岩倉長谷町 650-104 有限会社 墨仙堂 代表取締役 関地 久治
施工期間	平成 30 年 4 月 17 日～平成 31 年 1 月 18 日

II. 修復前後の作品概要

1. 作品概要

作品名	: 「花鳥図③」
種別	: 絵画
作者名	: 千峰孫億
時代	: 康熙 36 (1697) 年 3 月
概要	: 清時代の中国の絵師 孫億により、3 枚の絹帛にそれぞれ岩に咲く紅白の花と鳥が極彩色で描かれている。各幅には印章が押され、本紙③右端に「康熙丁丑春三月于峰孫億寫」と年代と落款が見られる。修復前は 3 幅対の掛幅装に装丁され、修復後もそれに倣った。収納箱として、作品は三幅対印籠箱に収納保存されていたが、修復後は一幅ごとに太巻添軸・桐印籠箱を新たに製作した。

本報告書では、それぞれの作品の表記を分かり易くする為、作品に①、②、③と番号を配した。以後はこの番号がそれぞれの作品を指す。

尚、「花鳥図」の修復作業は三ヵ年に分け、各年 1 幅ずつ行う。昨年度は「花鳥図①」の修復を行った。本報告書は最終年度の修復作業である「花鳥図③」を対象とする。

(1) 本紙

基底材	: 絹帛
本紙料絹の特質	: 平織り
	経 70 本[2 ツ入り] (3.03cm の間)
	緯 110 越 (3.03cm の間)
本紙枚数	: 1 枚(V. 知見及びその他 1 参照)
画材	: 墨・顔料・膠
加工・装飾	: なし
寸法	修復前: 丈 111.2cm 幅 61.7cm
	修復後: 丈 112.3cm 幅 62.7cm



Fig. 3 修復前 本紙全図



Fig. 4 修復後 本紙全図

(2)装丁(V. 知見及びその他 1 参照)

修復前

装丁形式 : 掛幅装
寸法 : 丈 194.2cm 幅 69.5cm
表装形式 : 幢楷の行
表装裂
一文字 : 白茶地桐唐花文銀欄
中廻し・風帯 : 濃茶地宝尽くし文金欄
総縁 : 薄藍地牡丹唐草文緞子
裏打ち紙 : 3層
肌裏紙 : 楮紙(墨染め)
増裏紙 : 楮紙
総裏紙 : 楮紙
軸 : 象牙頭切軸
装丁の特徴 : 一文字風帯の三段表具(大和表具)。花鳥図①、
②と同寸に装丁されていた。



Fig. 5 修復前 表具全図

修復後

装丁形式 : 掛幅装
寸法 : 丈 191.0cm 幅 77.5cm
表装形式 : 本袋表具
表装裂
一文字 : 茶地花菱文金紗(新調)
総縁 : 浅葱地龍唐花唐草文緞子(新調)
裏打ち紙 : 4層
肌裏紙 : 楮紙〈本紙 矢車染め〉(新調)
: 楮紙〈表装裂 矢車染め〉(新調)
増裏紙 : 美栖紙(新調)
中裏紙 : 美栖紙(新調)
総裏紙 : 宇陀紙(新調)
軸 : 黒檀撥軸(新調)
装丁の特徴 : 表装裂・軸を新調し、表装形式は本袋表具に
変更した。



Fig. 6 修復後 表具全図

(3) 銘文・ラベル・付属物等

- [印章] : 本紙左下部
「于峰道者」(朱文方印)
「孫億之印」(白文方印)
「惟庸」(朱文方印)
- [落款] : 本紙左下部
「康熙丁丑春三月于峰孫億寫」

Fig. 7 印章
朱文方印
白文方印
朱文方印



Fig. 8 落款



- [ラベル] : 収納箱側面(修復後は別保存)
「□第六号/孫億画/花鳥□□/三幅」(墨・貼紙)
「画幅/第五号」(墨・貼紙)

Fig. 9 収納箱側面 貼紙
「□第六号/孫億画/花鳥□□/三幅」

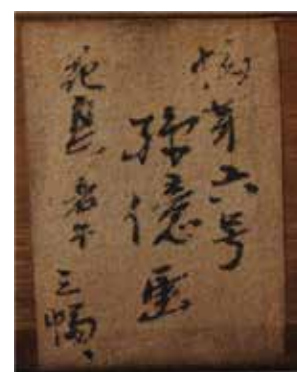
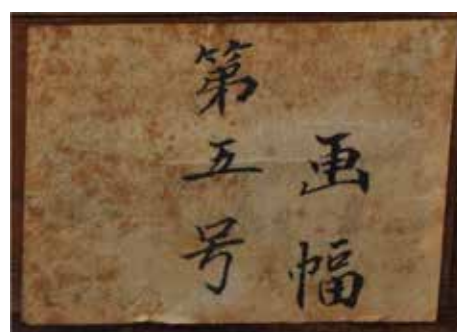


Fig. 10 収納箱側面 貼紙
「画幅/第五号」



(4) 収納環境

①修復前

収納箱 : 三幅対印籠箱



Fig. 11 修復前 三幅対印籠箱

②修復後

収納箱 : 桐太巻添軸(新調)
桐印籠箱(新調)



Fig. 12 修復後 桐太巻添軸桐印籠箱

2. 修復前の損傷状況と修復後の様子

(1) 本紙

①物理的損傷

i. 本紙料絹に破れ・欠失が見られた

[修復前]

本紙全体に破れ・欠失が生じていた。一部の欠失箇所からは肌裏紙が露出していた。

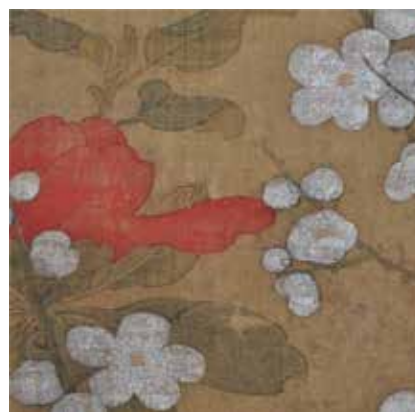
Fig. 13 修復前 本紙中央左部



[修復後]

本紙料絹に適する補修絹を選定し、欠失箇所に繕った。

Fig. 14 修復後 本紙中央左部



ii. 本紙に折れ・皺が見られた

[修復前]

本紙全体に折れ・皺が生じていた。

[修復後]

本紙を伸ばし、肌裏を打ち直したことで折れ・皺を平滑にした。更に、折れ・皺の裏面から折れ伏せ紙を施した事で、今後の折れ・皺の要因を軽減させた。

Fig. 15 修復前 本紙全図
斜光線写真



Fig. 16 修復後 本紙全図
斜光線写真



②視覚的損傷

i. 作品全体に汚れ・染みが見られた

[修復前]

本紙全体が茶褐色に汚れていた。

Fig. 17 修復前 本紙上部



[修復後]

クリーニング作業により汚れ・染みが緩和された。

Fig. 18 修復後 本紙上部



③彩色層

i. 絵具の欠失が見られた

[修復前]

図様に施された絵具の一部に欠失が見られた。



Fig. 19 修復前 本紙中央右下部

[修復後]

損傷箇所に膠水溶液を塗布し、絵具の剥落・欠失が進行しないように剥落止めを行った。



Fig. 20 修復後 本紙中央右下部

(2) 装丁

①物理的損傷

i. 表装裂に欠失が見られた

[修復前]

表装裂に欠失が生じていた。一部の欠失箇所からは裏打ち紙が露出していた。



Fig. 21 修復前 表具上部

[修復後]

総緑裂・上巻絹を全て新調した。



Fig. 22 修復後 表具上部

ii. 折れ・皺が多数生じていた

[修復前]

作品全体に折れが生じていた。

[修復後]

表装裂を新調し、裏打ちを打ち直したことで、折れ・皺を平滑にした。又、新調した太巻添軸に添えて巻き、今後の折れ破損の要因を軽減させた。

左 Fig. 23 修復前 表具全図 斜光線写真

右 Fig. 24 修復後 表具全図 斜光線写真



iii. 糊浮きが生じていた

[修復前]

表具上部に総裏紙の糊浮きが見られた。

[修復後]

表装裂を新調し、新たに裏打ちを打ったことで糊浮きを解消した。

②視覚的損傷

i. 作品全体に汚れ・染み・変色が確認できた

[修復前]

裏打ち紙に茶褐色の染みや汚れが見られた。

[修復後]

裏打ち紙を全て新調した。

(3) その他

①裏打ち紙の劣化損傷が著しかった

[修復前]

裏打ち紙は、経年劣化によりしなやかさが失われ、強度が著しく低下した状態にあった。

[修復後]

旧裏打ち紙を全て除去し、新調した裏打ち紙で本紙を打ち、作品に必要な強度を与えた。

②太巻添軸が無く、細く巻かれていた

[修復前]

収納時に細く巻いて保存されていた事で作品に強い巻き癖が生じ、破れ・折れ・皺等の更なる損傷の拡大に至っていた。

[修復後]

適する径の太巻添軸を新たに製作し、作品を添えて巻くことで収納展開時に本紙にかかる負担を和らげ、今後の折れ破損を軽減させた。

3. 過去の修理状況(V. 知見及びその他 2 参照)

(1) 本紙の肌裏紙の打ち替えを含む解体修理が施されていた

修復前・中の調査から、過去に肌裏紙の除去作業を含む解体修理が行われていたことが確認出来た。

(2) 折れ伏せ紙が施されていた

[修復前]

肌裏紙と増裏紙の間に多数の折れ伏せ紙が確認出来た。

折れ伏せ紙は、本紙の折れ・破れ箇所に施されていた。



Fig. 25 修復前

過去に施された折れ伏せ紙

[修復後]

旧折れ伏せ紙を除去し、肌裏打ち・増裏打ちを行った後、本紙に生じた破れや折れ・皺及び今後明らかに生じると思われる箇所に折れ伏せ紙を施した。



Fig. 26 修復後

新たに施した折れ伏せ紙

(3) 本紙料絹の欠失箇所に補修絹が施されていた

[修復前]

本紙料絹の欠失箇所の一部に補修絹が確認出来た。

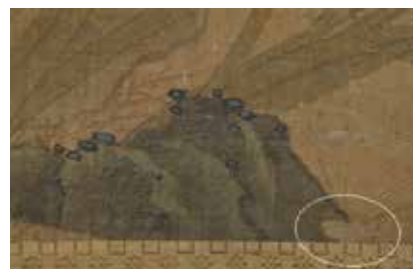


Fig. 27 修復前 本紙下部中央

[修復後]

旧補修絹を除去した後、本紙料絹に適する補修絹を新たに選定し、欠失箇所に繕いを施した。



Fig. 28 修復後 本紙下部中央

(4) 肌裏紙に補彩が施されていた

[修復前]

本紙料絹の欠失・破れ箇所から露出した肌裏紙の一部に、図様や周囲の色調に合わせた補彩が施されていた。



Fig. 29 修復前 本紙中央部

[修復後]

補彩のある肌裏紙を除去する事で図様の一部が失われる可能性があった。その為、露出箇所の肌裏紙は除去せず、欠失箇所の形状に合わせて整形し、厚みを調節して元使用した。



Fig. 30 修復後 本紙中央部

(5) 本紙料絹の移動が見られた。

[修復前]

本紙下部の本紙料絹に歪みが生じていた。



Fig. 31 修復前 本紙中央部

[修復前]

歪んだ本紙料絹を可能な限り修正した。



Fig. 32 修復後 本紙中央部

5. 総合評価

(1) 修復前の作品の状態及び問題点

作品は、孫億によって1面1枚の絹帛に極彩色で花鳥が描かれ、3幅対の掛幅装に装丁されていた。修復前の作品は、経年劣化や長期間細く巻かれたことで、本紙料絹・裏打ち紙に多数の折れ・皺が生じていた。過去に裏打ち紙の打ち替えを含む解体修理が行われ、補修絹が施されていたものの、本紙料絹と補修絹の重なりによる厚みの差から生じた折れ・皺、裏打ち紙の糊浮きなど、本紙全体に損傷の拡大が見られた。又、本紙料絹と異なる織・色調の補修絹や、本紙全体に見られる斑状の染み等による視覚的損傷も生じていた。

以上の状態から、本紙・装丁材料の劣化・損傷が進行し、更なる損傷要因が内在していた。このような装丁構造の脆弱化は、応急的な修復処置での解決は難しく、作品の解体及び裏打ちの打ち替えを含む「解体修復」を有限会社墨仙堂で行う事となった。

(2) 修復後の作品の状態

今回の修復作業では、絵具の剥落止めを行い、装丁の解体後、作品の旧裏打ち紙・旧補修絹を除去した。本紙料絹の欠失箇所には補修絹を繕い、折れ・皺の生じた箇所に補強紙等を施した後、新たに裏打ちを行った。又、本紙と表装紙のクリーニングを行い、汚れ・染み等の視覚的違和感を緩和した。更に本紙に適する表装紙や装丁材料を新調し、再び掛幅装に装丁にした。

修復処置の結果、作品に生じた損傷要因を軽減させ、保存・展示に適する十分な強度を持たせる事が出来た。又、桐太巻添軸・桐印籠箱を新たに作製することで、今後の折れ・破損を和らげ、安定した保存環境を与えることが出来た。

III. 修復方針

1. 基本方針

(1) 実施する作業及び方針の決定・変更等は、所有者と協議・監督の下進める

(2) 解体修復を行う

修復前の本作品は損傷が著しく、今後の安定的な保存を考える上では解体修復をする必要があった。そこで今回の修復では作品の装丁を解体し、本紙から裏打ち紙の除去後、本紙料絹の修復処置及び新たな裏打ちを施し、再び掛幅装に装丁することを基本方針とした。

(3) 修復作業は有限会社 墨仙堂 工房内で行う

(4) 施工期間

平成30年4月17日～平成31年1月18日



Fig. 33 協議風景 (2018年6月19日)

2. 本紙

(1) カビの消毒を行う

作品全体にエチルアルコールを噴霧し、カビの消毒を行った。

(2) 剥落止めを施す

絵具層へ新たに膠水溶液を浸透させ、絵具層の強化・再接着を図った。絵具層の割れ・浮きなどの箇所は膠水溶液を筆等で塗布し、粉状に剥落している箇所に関しては、蒸気噴霧器を使用し膠水溶液を噴霧した。使用する膠の種類・濃度は絵具の種類・剥落の度合い、又作業の進行状況に合わせて使い分けた。

(3) 裏打ち紙を除去し、新たに肌裏打ちを行う

肌裏紙の除去作業には、布海苔水溶液と養生紙(レーヨン紙)を使用し、本紙表面に表打ちを行い、乾燥させた後、必要最小限の水分を与えて肌裏紙を捲り取る「乾式法」を用いた。損傷の著しい裏打ち紙・肌裏紙を全て除去し、新たに選定した楮紙(薄美濃紙)で肌裏打ちを施す事により、長期の保存に必要な強度を与えた。

肌裏紙には、新たに選定した楮紙(薄美濃紙)を本紙料絹の地色に近い色調に天然染料(矢車)で染色した後、水酸化カルシウム水溶液で色素を定着させて用いた。

(4) 本紙のクリーニングを施す

クリーニングには濾過水と吸水紙を使用した。加湿した本紙を吸水紙の上に置き、本紙中の水分に溶け出した汚れ等を毛細管現象によって吸水紙に移し、汚れ・染みを除去した。又、本紙の肌裏紙除去後、綿棒などを用いて本紙料絹裏面より乾湿両方のクリーニングを行った。尚、クリーニングには、劣化損傷要因にもなる薬品の使用は控えた。

(5) 本紙料絹の欠失箇所へ補修絹を施す

本紙料絹の欠失箇所へ新たに補修絹を施した。又、修復中の調査から、付け廻して隠れていた部分に図様が確認出来た。今回の修復作業では、隠れていた図様を出す為、本紙料絹の四辺に補修絹を用いて施した足し絹に、表装裂の付け廻しを行った。補修絹は本紙料絹に類似の「電子線劣化絹」を選定し、本紙料絹の地色に近い色調に天然染料(矢車)で染色した後、水酸化カルシウム水溶液で色素を定着させて用いた。

(6) 折れ伏せを入れる

本紙の折れが生じている箇所、及び今後折れが生じるとと思われる箇所に折れ伏せ紙を入れた。折れ伏せ紙には楮紙(悠久紙)を使用した。

(7) 補彩を施す

補彩は新たに繕いを施した補修絹の上のみに行った。補彩に使用した画材は、顔料を膠で溶いたもの或いは、棒絵具を使用した。

3. 装丁

(1) 掛幅装を解体し、本紙の修復処置後、再び掛幅装に装丁する

① 表装形式を「本袋表具」に変更する

(2) 旧装丁材料

① 表装裂・裏打ち紙・八双・軸・軸木・掛け紐を全て除去し、別保存する

修復前に配されていた表装裂・裏打ち紙に、欠失・折れ等の劣化損傷が多数見られた。又、八双・鐙・掛け紐も劣化が著しいことからすべて除去し、別保存した。

(3) 新調装丁材料

① 裏打ち紙を全て新調し、3種4層の裏打ちを新たに打つ

新たに施す裏打ち紙は、伝統的に使用されている3種4層の裏打ちとし、作品に適度なしなやかさと強度を持たせるようにした。本紙の増裏紙、一文字裂の肌裏紙には填料として胡粉が加えられた楮(美栖紙)を選定し、本紙料絹・一文字裂の地色に近い色調に天然染料(矢車)で染色した後、水酸化カルシウム水溶液で色素を定着させて用いた。

裏打ち：4層

肌裏紙：緒紙(薄美濃紙 長谷川和紙工房 製)

増裏紙：美栖紙(白雪 昆布尊男 製)

中裏紙：美栖紙(白雪 昆布尊男 製)

総裏紙：宇陀紙(福虎 福西弘行 製)

②表装裂を新調する

所有者と協議し、一文字・総縁裂を新調した。

一文字：茶地花菱文金紗

総縁：浅葱地龍唐花唐草文緞子

③八双・軸・軸木・掛け紐を新調する

八双：杉材八双(速水商店)

軸：黒檀撥軸(山崎商店)

軸木：杉材軸木(速水商店)

掛け紐：正絹三色組紐(速水商店)

4. 旧修理

(1) 折れ伏せ紙を除去する

本紙裏面に施された折れ伏せ紙を全て除去した。

(2) 肌裏紙に施された補彩に関して

本紙表面に露出し、周囲の色調に合わせた補彩が施された肌裏紙は除去せず、欠失箇所形状に合わせて整形し、厚みを調節して元使用した。

(3) 旧補修絹に関して

「花鳥図①②」とは異なり、「花鳥図③」の旧補修絹には補彩や補筆は見られなかった。その為、旧補修絹をすべて除去し、新たに補絹を施した。

5. その他

(1) 各作業の接着剤として小麦粉澱粉糊（新糊・古糊）を使用する

各作業の接着には、伝統的に使用されている小麦粉澱粉糊（新糊）と新糊を複数年瓶で寝かせた古糊を使用した。小麦粉澱粉糊は、可逆性も高く、将来の再修理の際にも裏打ち紙等の除去を容易にすることが出来る。

肌裏打ち・繕い・付け廻し・仕上げ：新糊

増裏打ち・中裏打ち・総裏打ち：古糊

小麦粉澱粉（中村製糊株式会社）

6. 収納・展示

(1) 桐印籠箱を新調し、桐太巻添軸・白絹帛袱紗・箱帙を新たに製作する

収納保存にあたっては新たに製作した太巻添軸を添えて巻き、折れ破損の要因を軽減した。又、白絹帛袱紗に完成した表具を包み、新調した収納箱に保存した。

(2) 旧収納箱を別保存する

7. 調査

(1) 工房内調査

①目視による調査

修理前・中・後の作品の構造・損傷調査・本紙寸法を記録した。

②光学調査(V. 知見及びその他 4・5・6 参照)

修復前後・作業工程中の記録写真撮影を行った。写真撮影はデジタルカメラで行い、修理前後の作

品全図・部分、更に修理作業中の表裏全図・部分、透過光撮影等も可能な限り行った。又、赤外線写真・紫外線蛍光写真・顕微鏡写真等の光学機器を使用した調査・撮影も同時に行った。

(2) 外部委託調査(平成 28 年度『孫億作・花鳥図 三幅』に用いられた色材の非破壊化学分析 参照)

平成 28 年度に、佐々木良子氏(京都工芸繊維大学)・仲政明氏(京都嵯峨芸術大学)に依頼し、作品に用いられた色材の化学分析を行った。化学分析は非破壊で行い、無機色材の分析には「蛍光X線分析(XRF)」、有機色材の分析には「反射分光分析」で色材の素性を調査した。



(上)Fig. 34 蛍光X線分析法(XRF)による色材の調査



(下)Fig. 35 蛍光X線分析法(XRF)による色材の調査

8. 使用諸資材及びその他

(1) 水

〈濾過水〉 濾過水器 オルガノ株式会社 PF カーボンカートリッジ、マイクロポアーシリーズ N タイプ

〈イオン交換水〉 濾過水器 オルガノ株式会社 カートリッジ純水機 G-10C 形

濾過水・イオン交換水は、水道水(京都市水道局)を元水としフィルターで濾過した物を使用した。イオン交換水で作製した溶液は可能な限り純粋な溶液であり、反応も調節し易いため使用した。また通常の作業では水道水に含まれる塩素・鉄等の不純物を除去する事により、作品に悪影響を残さない濾過水を使用した。

(2) 接着剤

①小麦粉澱粉—中村製糊株式会社(京都市下京区富小路五条下がる)

〈新糊〉

新糊はグルテンを除去した小麦粉の澱粉質を原材料に使用し作成する。水 3 : 小麦粉澱粉 1 の割合で約 30 分煮溶かした物を元糊とし、各作業に応じた希釈率で使用した。



Fig. 36 新糊

〈古糊〉

古糊は伝統的に増裏・総裏紙の接着に用いられてきた。新糊を複数年寝かせることにより、発生する黴や微生物によって醗酵が進み、古糊が出来上がる。古糊は接着力が弱い。それを補う工程として、「打ち刷毛」という特殊な表具用刷毛を使用し、裏打ち紙と料紙の微弱な接着力を補う作業を必要とする。



Fig. 37 古糊

②膠〈和膠〉一寺脇産業(兵庫県姫路市実法寺)

(3) 紙

①薄美濃紙一長谷川和紙工房(岐阜県美濃市蕨生)

原材料はクワ科の楮。中でも国内産那須楮白皮を使用した手漉き和紙。薄く強靱で長期の保存に耐える。肌裏紙に使用。

②悠久紙一東中江和紙加工生産組合(富山県砺波郡平村東中江)

原材料はクワ科の楮。五箇山産楮を雪で晒し、白皮を使用した手漉き和紙。腰が強く張りがあり長期の保存に耐える。折れ伏せ紙に使用。

③美栖紙〈白雪〉一昆布尊男(奈良県吉野郡吉野町大字窪垣内)

原材料はクワ科の楮。紙漉きの際、胡粉(炭酸カルシウム)や白土を添加する表具用手漉き和紙。薄く柔軟性があり、古糊と合わせて使用する。増・中裏紙に使用。

④宇陀紙〈福虎〉一福西弘行(奈良県吉野郡吉野町大字窪垣内)

原材料はクワ科の楮。紙漉きの際、地元特産の白土(カオリナイト)を添加する表具用手漉き和紙。白色度が高く、美栖紙に比べやや厚いが、風合い・質感共に軟らかさがある。古糊と合わせて使用する。総裏紙に使用。

(4) 表装材料

①軸木・八双一速水商店(京都市中京区富小路三条上る)

十分乾燥させた杉材を使用した軸木・八双。

②掛け紐〈正絹三色組紐〉一速水商店(京都市中京区富小路三条上る)

(5) 収納箱

①桐太巻添軸桐印籠箱一福井工房(京都府京都市北区大北山原谷乾町)

IV. 修復工程

1. 修復前に本紙の状態を調査し、写真撮影を行った。
2. 作品に付着する埃を、刷毛等を用いて払った。
3. エチルアルコールを用い、黴の消毒を行った。

Fig. 38 消毒作業



4. 鐙・掛け紐・軸木・八双を取り、掛幅装を解体した。

Fig. 39 軸木・八双の取り外し



5. 膠水溶液を用い、絵具の剥落止めを行った。

Fig. 40 絵具の剥落止め作業



6. 表具裏面より加湿し、上巻き・総裏紙を除去した。

Fig. 41 総裏紙の除去作業



7. 付け廻しを外し、表装裂を本紙から取り外した。

Fig. 42 表装裂の取り外し



8. 本紙裏面より加湿し、増裏紙を捲り取った。

Fig. 43 増裏紙の除去作業



9. 本紙裏面より、折れ伏せ紙を除去した。

Fig. 44 折れ伏せ紙の除去作業



10. 本紙に噴霧器で濾過水を与え加湿した。その後、吸水紙の上に置き、汚れを裏面より吸出しクリーニングを施した。

Fig. 45 クリーニング作業



11. 布海苔水溶液を使用し、表打ちを施した。表打ちは、次作業に行く裏打ち紙の除去作業時に本紙表面を保護するために行った。本紙表面に強度を上げるため、養生紙を三層貼り付けた。養生紙にはレーヨン紙を用いた。表打ち後、仮張りを施した。



Fig. 46 表打ち

12. 表打ちした本紙を透過台の上に張り込み、乾式法で肌裏紙を除去した。



Fig. 47 肌裏紙の除去作業

13. 本紙料絹裏面に施されていた旧補修絹を除去した。



Fig. 48 旧補修絹の除去作業

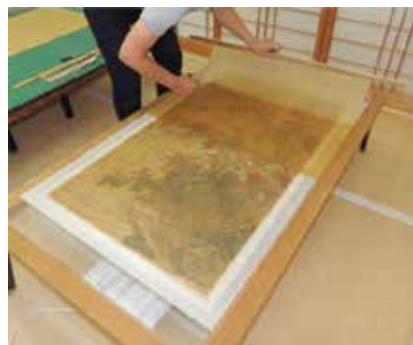
14. 欠失箇所に補絹を施した。本紙料絹に適する電子線劣化絹を選定し、天然染料（矢車）で染色した後、水酸化カルシウム水溶液で色素を定着させて用いた。
15. レーヨン紙で仮裏を施し、加湿した本紙を吸水紙の上に置き、布海苔を吸い出した後、表打ちを除去した。



Fig. 49 補絹作業

16. 小麦粉澱粉糊（新糊）を用い、楮紙で本紙の肌裏を打った。肌裏紙は天然染料（矢車）で染色、水酸化カルシウム水溶液で色素を定着させたものを用いた。

Fig50 本紙の肌裏打ち



17. 新調した表装裂に、楮紙で肌裏を打った。肌裏紙は天然染料（矢車）で染色した後、水酸化カルシウム水溶液で色素を定着させて用いた。糊は新糊を用いた。

Fig. 51 表装裂の肌裏打ち



18. 本紙・表装裂に美栖紙を使用し増裏を打った。美栖紙は天然染料（矢車）で染色した後、水酸化カルシウム水溶液で色素を定着させて用いた。糊は古糊を使用した。裏打ち後、仮張りを施した。

Fig. 52 本紙の増裏打ち



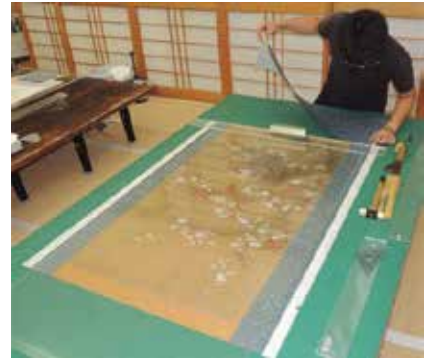
19. 本紙の折れが生じている箇所、及び今後明らかに生ずると思われる箇所に折れ伏せ紙を入れた。折れ伏せ紙は楮紙を用い、糊は新糊を使用した。折れ伏せ紙入れ後、再び仮張りを施した。

Fig. 53 折れ伏せ紙入れ作業



20. 本紙と表装裂を「本袋表具」に付け廻した。

Fig. 54 付け廻し



21. 美栖紙で中裏を打った。糊は古糊を使用した。裏打ち後仮張りを施した。

Fig. 55 中裏打ち



22. 宇陀紙で総裏を打った。糊は古糊を用い、裏打ち後仮張りを施した。

Fig. 56 総裏打ち



23. 必要な補修箇所に補彩を施した。

Fig. 57 補彩



24. 八双・軸木・掛け紐・桐太巻添軸・桐印籠箱を新調した。

25. 箱帙を製作した。

26. 十分に乾燥させた後、表具に仕上げた。

27. 完成した表具を桐太巻添軸に巻き、新調した白絹帛袱紗に包んだ後、桐印籠箱に収納した。

28. 修復後の記録写真及び報告書を作成した。

V. 知見及びその他

1. 修復前後の作品構造

(1) 装丁構造

作品は1枚の絹帛に図様が描かれている。

修復前は「幢檜の行」に配された掛幅装に装丁されていた。修復前の作品構造として、本紙料絹・表装裂に「肌裏紙」が打たれており、2層目には「増裏紙」、付け廻し後の最背層には「総裏紙」が打たれていた。裏打ち紙は全て楮紙で、合計3層の裏打ちが施されていた。3層の内、本紙料絹の「肌裏紙」だけが黒く染められていた。又、補修絹が本紙料絹と肌裏紙の間に確認出来た。更に、肌裏紙の裏面には折れ伏せ紙が施されていた。

今回の修復作業では、本紙料絹に施された補修絹・裏打ち紙・折れ伏せ紙を全て除去した後、新たに裏打ちを行った。本紙料絹・表装裂の1層目には「薄美濃紙」、一文字裂には「美栖紙」を使用し、「肌裏打ち」を行った。尚、本紙料絹・一文字裂の「肌裏紙」は天然染料(矢車)で染色し、水酸化カルシウム水溶液で色素を定着させて用いた。2層目には伝統的に使用されている「美栖紙」で本紙・表装裂の「増裏打ち」を行った後、本紙の折れが生じている箇所「折れ伏せ紙」を施した。その後、本紙と表装裂を付け廻し、3層目には「美栖紙」を用いて「中裏打ち」を行い、最背層に「宇陀紙」で「総裏打ち」を行なった。

修復後の作品構造として、作品に3種の特性のある手漉き和紙を使用し、計4層の裏打ちを行う事で、長期の保存に耐える十分な強度を持たせる事が出来た。

修復後の装丁は、元の表装形式を変更し、「本袋表具(風帯無し)」とした。

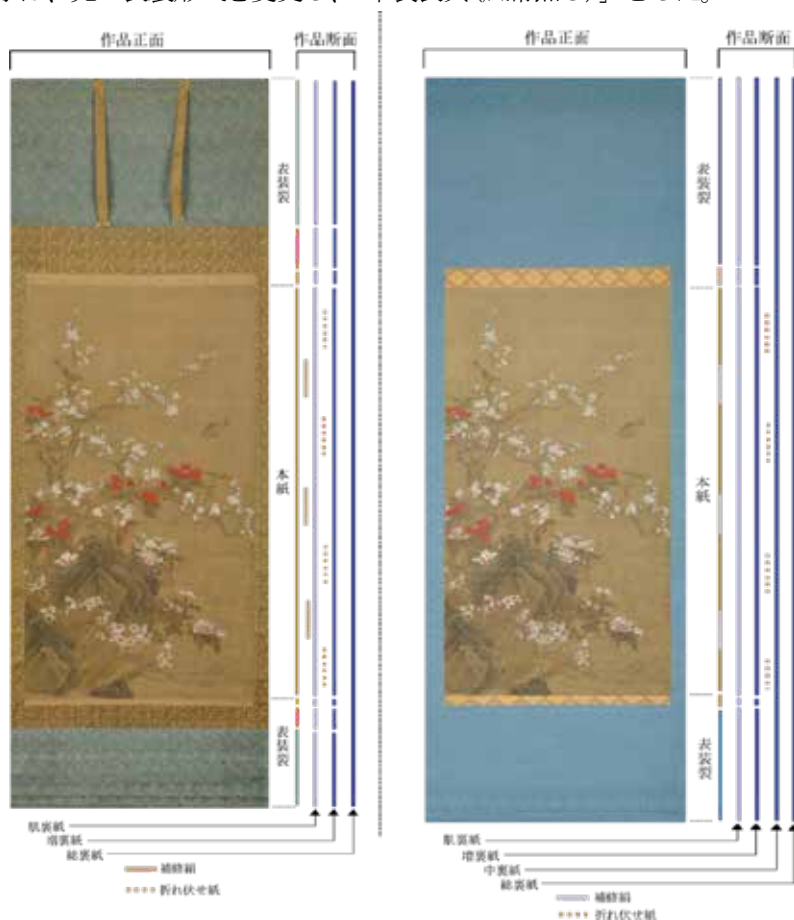


Fig. 58 修復前後 装丁構造図

2. 過去に行われた修理について —「花鳥図①②」との比較—

修復前・中の調査から、作品に生じた損傷箇所、過去に施された修理の痕跡が確認出来た。

(1) 折れ伏せ紙

「花鳥図①②」と同様に、肌裏紙と増裏紙の間に折れ伏せ紙が施されていた。



Fig. 59 修復中 本紙全体に施された折れ伏せ紙

(2) 補修絹

「花鳥図①②」と同様に、本紙料絹裏面から補修絹が施されていた。補修絹には本紙料絹と織や色調の異なる絹帛や、余白部分の本紙料絹を切り取ったと思われるものが使用されていた。また四辺の裁断や、欠失箇所に合わせた整形など、様々な形状の補修絹が確認出来た。しかし、一部の補修絹と本紙料絹の重なりによって本紙全体に厚みの差が生じ、折れ・皺、糊浮きなどの要因となっていた。更に、織や色調の違いにより、作品に視覚的な違和感が生じていた。

また「花鳥図③」の補修絹には、「花鳥図①②」のような周囲の図様や色調に合わせた補彩・補筆は見られなかった。



Fig. 60 修復中 欠失箇所に施された補修絹
欠失箇所を覆うように施されている



Fig. 61 修復中 欠失箇所に施された補修絹
欠失箇所の形状に整形されている

(3) 肌裏紙に施された補彩

「花鳥図①②」と同様に、本紙料絹の欠失・破れ箇所から露出した一部の肌裏紙に、周囲の色調に合わせた補彩が施されていた。補彩のある肌裏紙を除去する事で図様の一部が失われ、作品に視覚的な違和感が生じると考えられた事から、今回の修復では露出した肌裏紙は除去せず、欠失箇所の形状に合わせて肌裏紙を整形し、厚みを調節して元使用した。



Fig. 62 修復中 露出した肌裏紙に施された補彩

(4) 裏彩色

修復前・中の調査から、「花鳥図①②」と同様に、「花鳥図③」の図様にも裏彩色の痕跡が確認出来た。

また「花鳥図①②」と同じく、裏彩色の多くは主に葉の裏面に見られ、緑色絵具が用いられていた。しかし、絵具の残留について「花鳥図①②」と比べたところ、「花鳥図③」が最も少ない事が分かった。これらは薄塗り・厚塗りなどの表現技法の違いや、過去の解体修理で行われた肌裏紙の除去作業時に、より多くの裏彩色が失われた等が要因として考えられる。

「花鳥図①②③」は過去の解体修理によって料絹裏面の状態に違いはあるものの、共通の表現技法として裏彩色が用いられていた事が分かった。



Fig. 63 修復中 「花鳥図②」
裏彩色の痕跡

(5) まとめ

修復前・中の調査から、作品は「花鳥図①②」と同様に、肌裏紙の打ち替えを含む解体修理が行われた事が分かった。本紙料絹の損傷箇所には補修絹や折れ伏せ紙が施され、一部の肌裏紙には補彩が見られた。又、肌裏紙が除去された事により、多くの裏彩色が失われていた。

今回の修復作業でも、修復後の作品の視覚的な変化を考慮し、補彩や補筆の見られる肌裏紙の一部を元使用した。それら以外を全て除去し、新調した装丁材料で再び掛幅装に装丁した。

4. 赤外線写真



Fig. 64 修復前 本紙全図 赤外線写真

5. 紫外線蛍光写真



Fig. 65 修復前 表具全図 紫外線蛍光写真

6. 顕微鏡写真

表面



Fig. 66 顕微鏡写真位置図

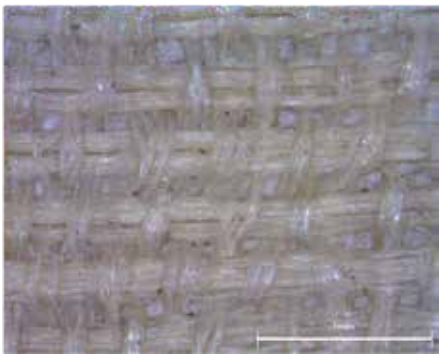


Fig. 67 ①



Fig. 68 ②

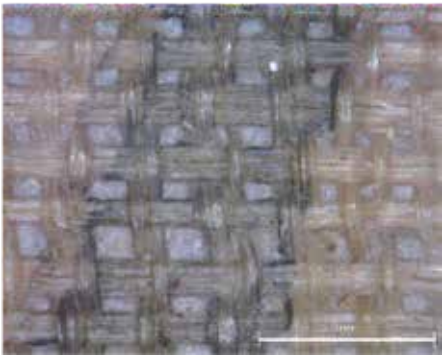


Fig. 69 ③

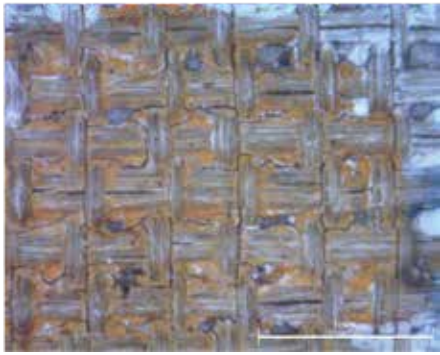


Fig. 70 ④

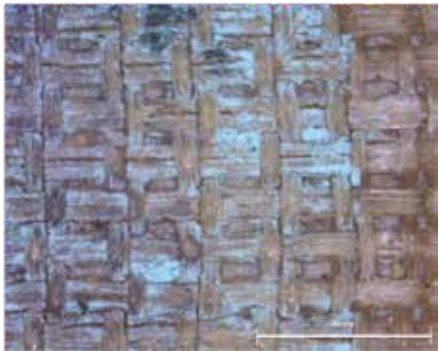


Fig. 71 ⑤

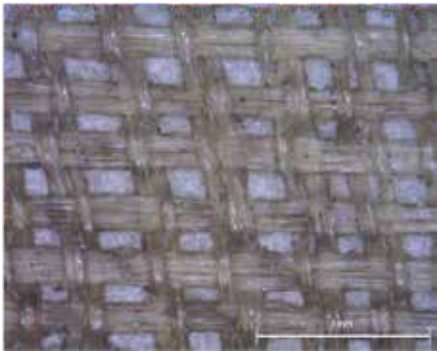


Fig. 72 ⑥



Fig. 73 顕微鏡写真位置図

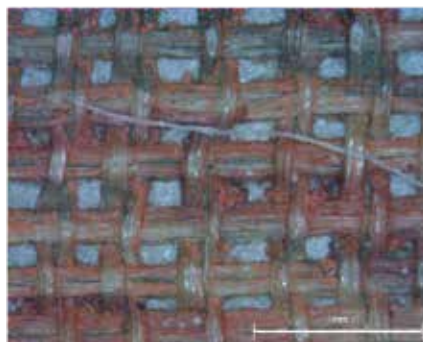


Fig. 74 ⑦

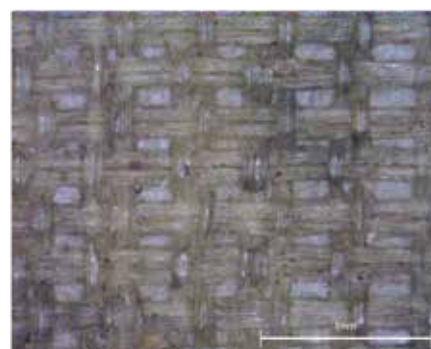


Fig. 75 ⑧

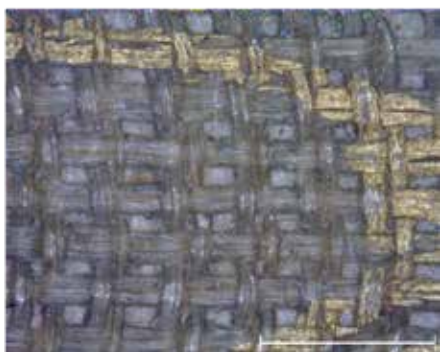


Fig. 76 ⑨

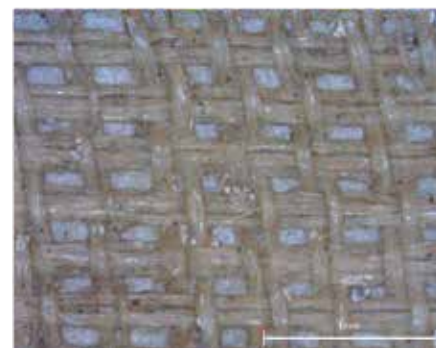


Fig. 77 ⑩

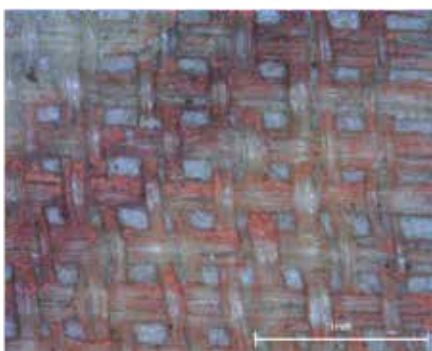


Fig. 78 ⑪

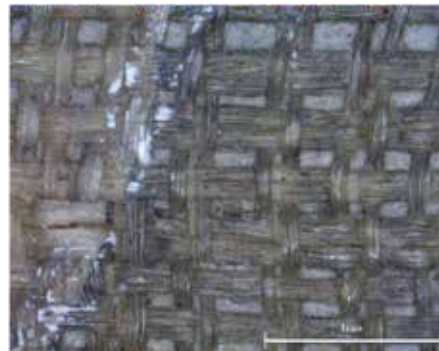


Fig. 79 ⑫



Fig. 80 顕微鏡写真位置図

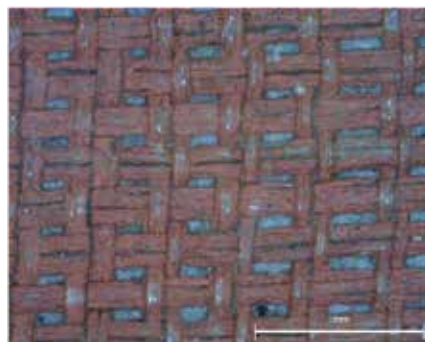


Fig. 81 ⑬



Fig. 82 ⑭

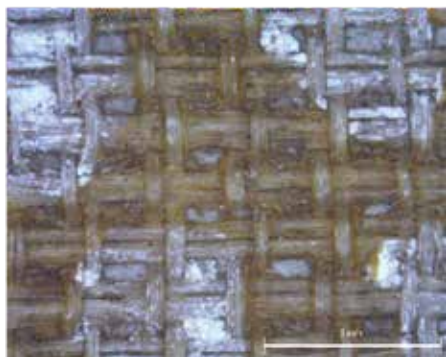


Fig. 83 ⑮

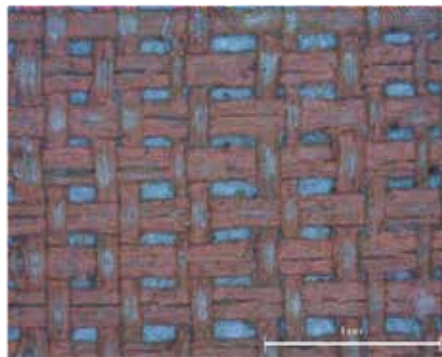


Fig. 84 ⑯

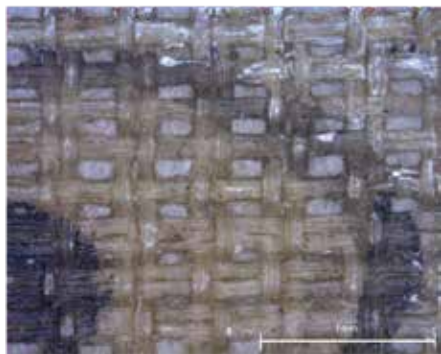


Fig. 85 ⑰

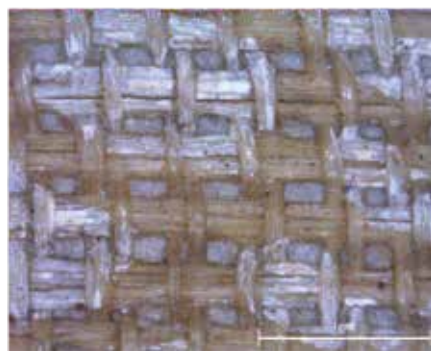


Fig. 86 ⑱



Fig. 87 顕微鏡写真位置図

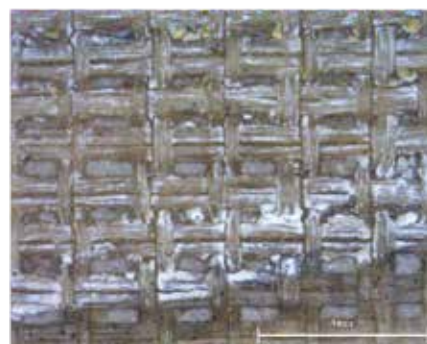


Fig. 88 ①⑨

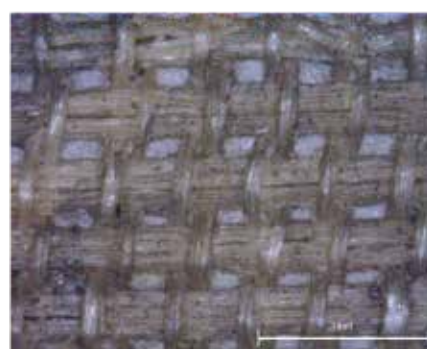


Fig. 89 ②⑩

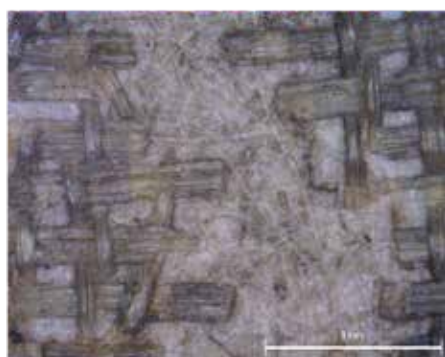


Fig. 90 ②⑪



Fig. 91 ②⑫

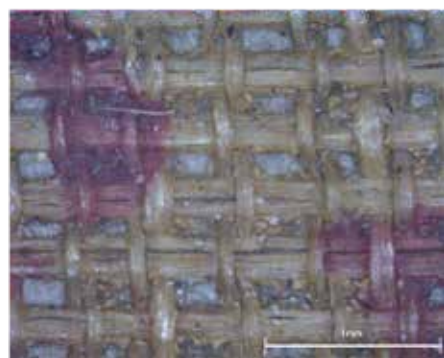


Fig. 92 ②⑬

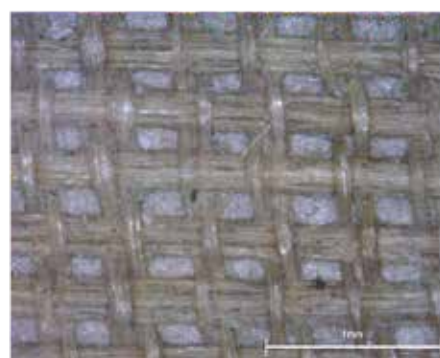


Fig. 93 ②⑭



Fig. 94 顕微鏡写真位置図

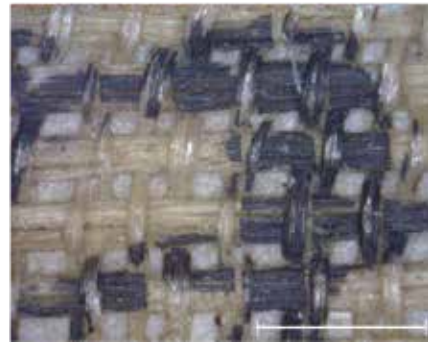


Fig. 95 ②⑤

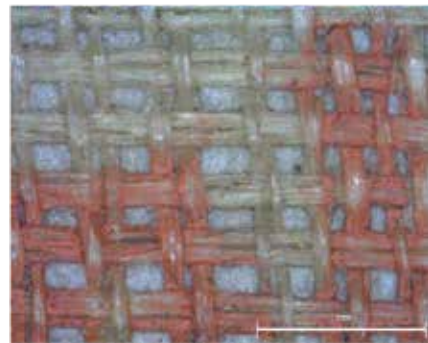


Fig. 96 ②⑥

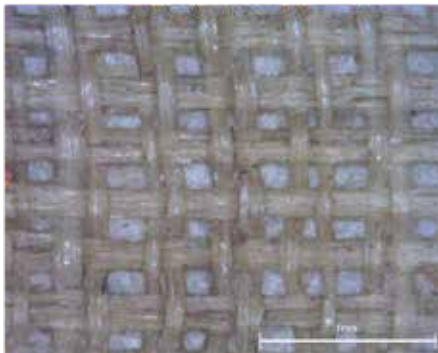


Fig. 97 ②⑦

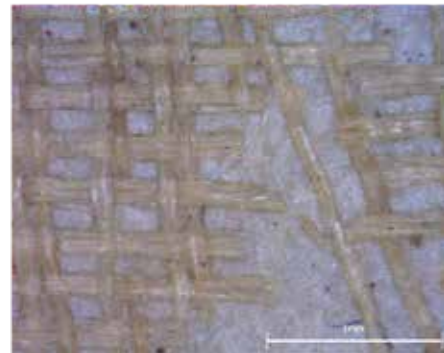


Fig. 98 ②⑧

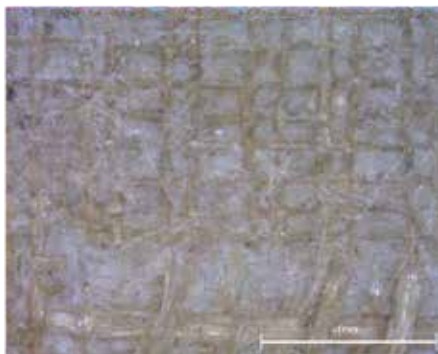


Fig. 99 ②⑨

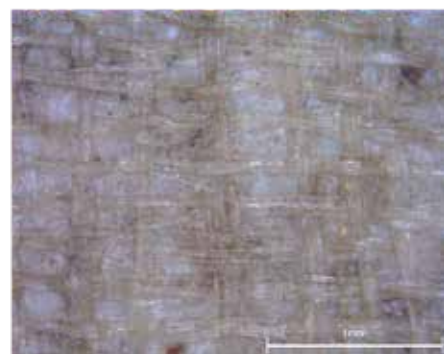


Fig. 100 ③⑩

本紙料絹裏面



Fig. 101 顕微鏡写真位置図

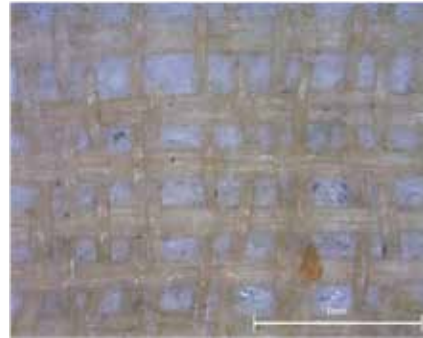


Fig. 102 ①

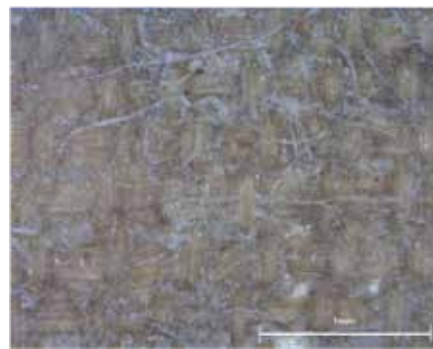


Fig. 103 ②

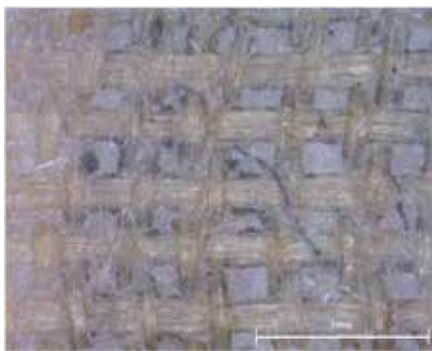


Fig. 104 ③

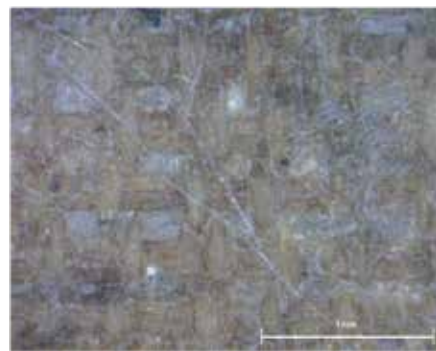


Fig. 105 ④

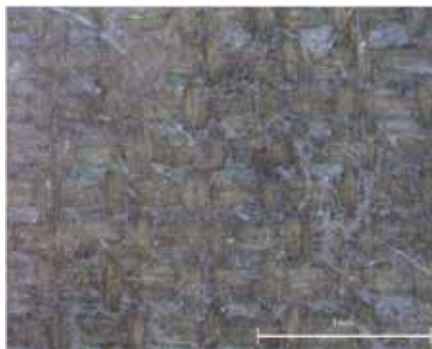


Fig. 106 ⑤

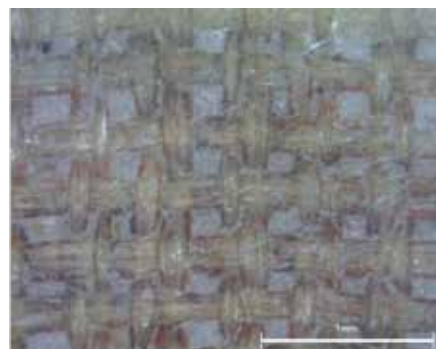


Fig. 107 ⑥



Fig. 108 顕微鏡写真位置図

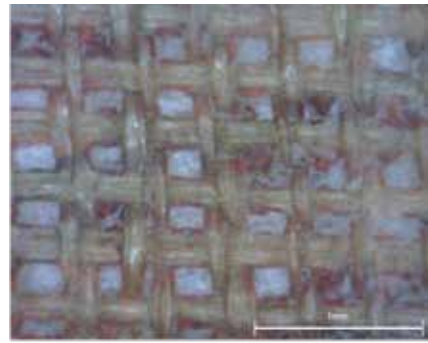


Fig. 109 ⑦

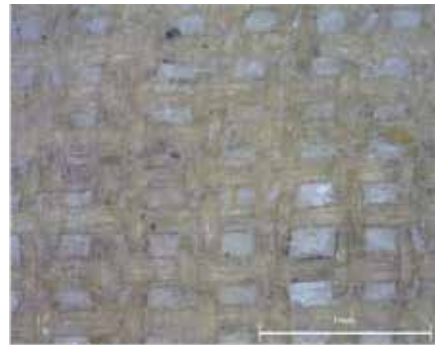


Fig. 110 ⑧

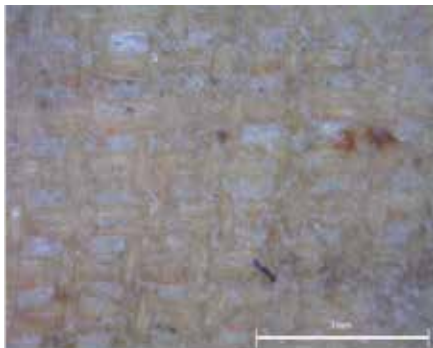


Fig. 111 ⑨

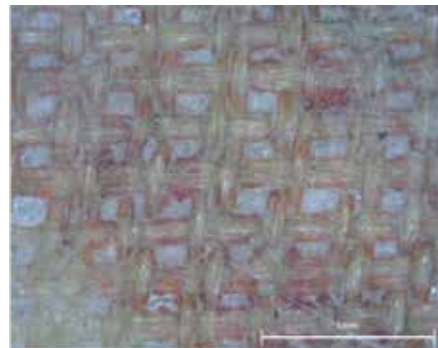


Fig. 112 ⑩

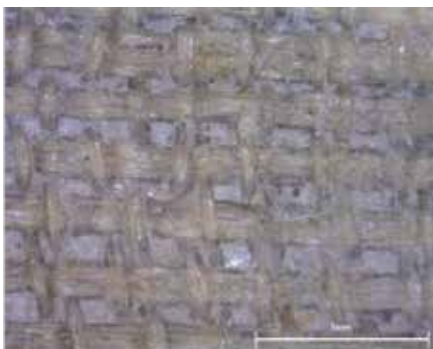


Fig. 113 ⑪

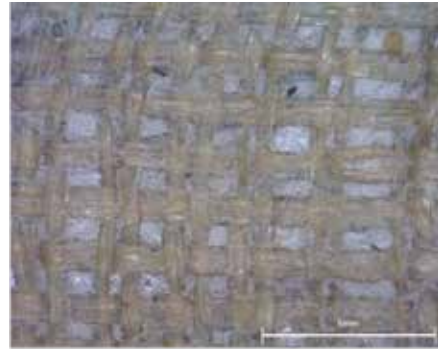


Fig. 114 ⑫



Fig. 115 顕微鏡写真位置図



Fig. 116 ⑬



Fig. 117 ⑭

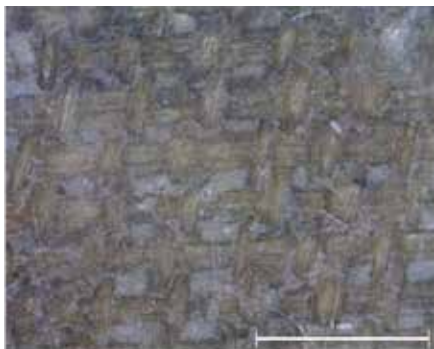


Fig. 118 ⑮

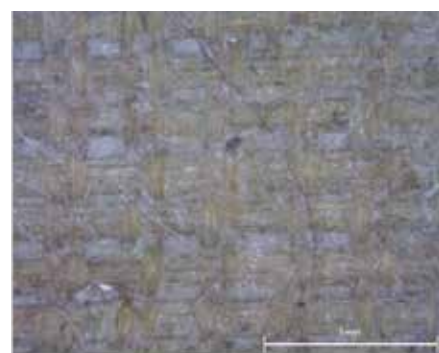


Fig. 119 ⑯

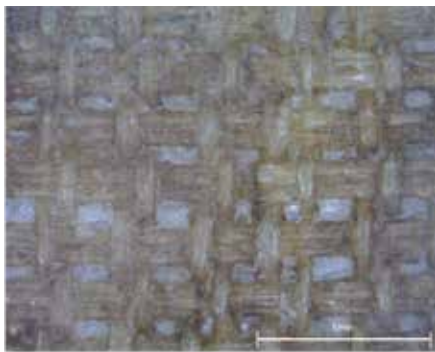


Fig. 120 ⑰

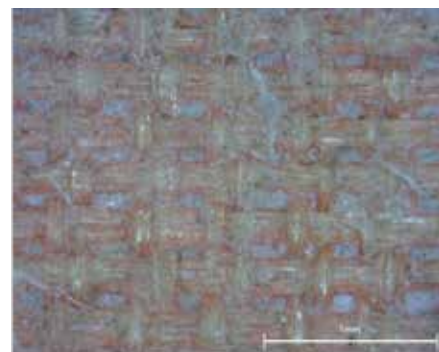


Fig. 121 ⑱



Fig. 122 顕微鏡写真位置図

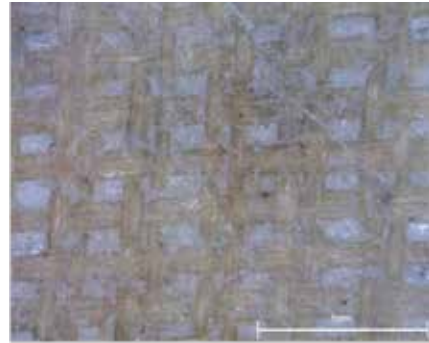


Fig. 123 ⑱

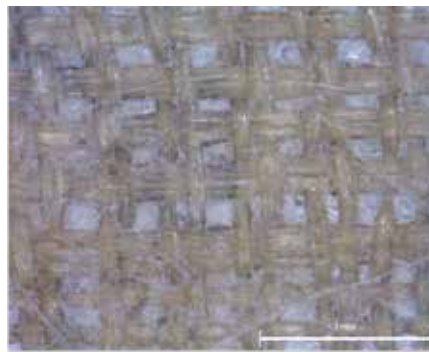


Fig. 124 ㉔



Fig. 125 ㉕

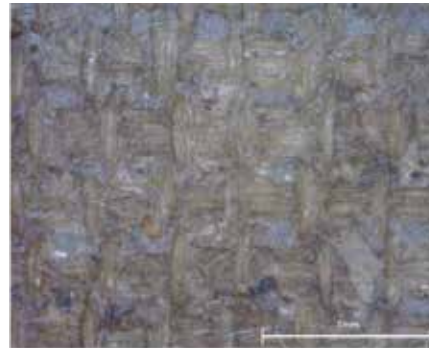


Fig. 126 ㉖

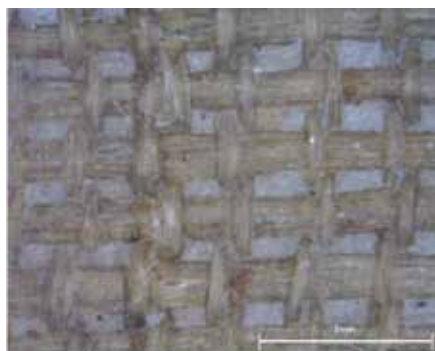


Fig. 127 ㉗

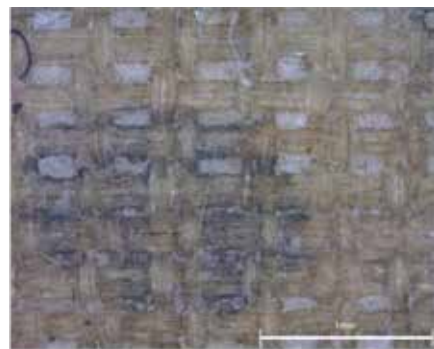


Fig. 128 ㉘



Fig. 129 顕微鏡写真位置図

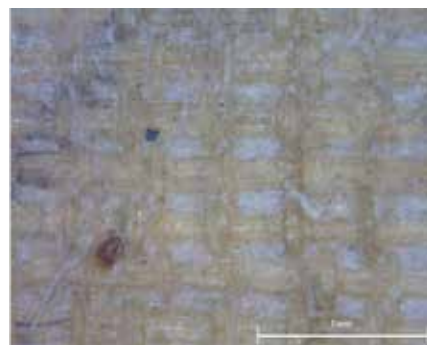


Fig. 130 ②⑤

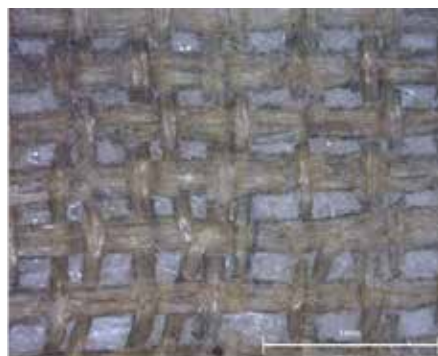


Fig. 131 ②⑥

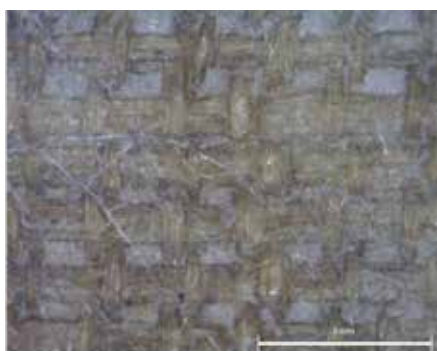


Fig. 132 ②⑦

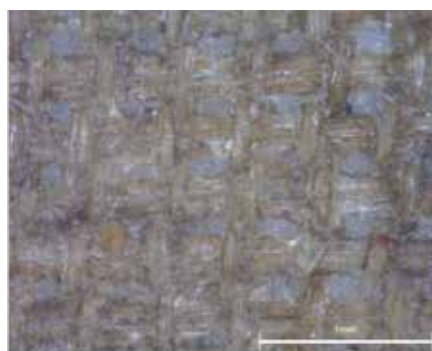


Fig. 133 ②⑧

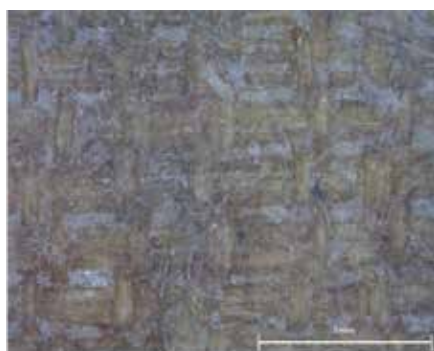


Fig. 134 ②⑨

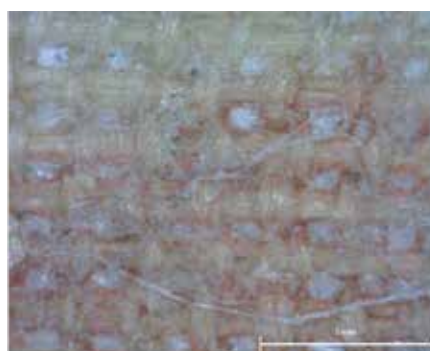


Fig. 135 ③⑩



Fig. 136 修復前 表具全図



Fig. 137 修復後 表具全図



Fig. 138 修復前 本紙全図



Fig. 139 修復後 本紙全図



Fig. 140 修復前 表具全図 斜光線写真



Fig. 141 修復前 表具全図 斜光線写真



Fig. 142 修復前 旧収納箱(印籠箱)



Fig. 143 修復後 新調した桐太巻添軸・桐印籠箱



Fig. 144 修復後 新調した箱帙・中性紙性収納箱

『孫億作・花鳥図 三幅』に用いられた色材の非破壊化学分析

京都工芸繊維大学 佐々木良子

京都嵯峨芸術大学 仲 政明

京都工芸繊維大学 佐々木 健

1 序

本資料『孫億作・花鳥図 三幅』(写真1)は、作者の活躍時期が1638年から1722年頃に活躍した¹⁾ことから、清朝初期に描かれたものと考えられる。後補の部分が含まれている可能性を考え、目視調査で出来る限り当初の状態が残存している個所を選び、無機色材の分析を蛍光X線分析法(XRF)で、有機色材の分析を反射分光分析法で非破壊的に分析を行った。

2 実験^{2,3)}

2-1 理論

XRFは顔料に含まれる元素の分析であり、同じ元素が含まれても異なる顔料の可能性を考えなければいけない。すなわち鉛を含む顔料ということで、鉛白、鉛丹、密陀僧が考えられる。目視により白色系統である事が明らかであれば、鉛白であると決定できる。顔料は、その粒径によって色の濃さを調節するが、今回の分析では、その区別はつかない。さらに、非破壊分析を行っているので、共存する色材の技法(色材の混合、重ね塗り、裏彩色)による区別も出来ない。

今回吸収スペクトルも合わせて測定した。反射可視スペクトルは、全反射(白色)と全吸収(黒色)の間でどのような波長の光がどれ位反射されるのかを測定し、吸光度に換算された反射スペクトルを得た。一般に未知の有機化合物の構造を確定するには、単離精製後、元素分析、IRスペクトル、NMRスペクトル、質量分析等の結果を総合して行う。このような分子構造に基づく同定には最新の分析機器を使用した場合であったとしても、質量分析を除いて一定のサンプル量が必要であり、文化財を試料とする分析には相容れない。従って、非破壊分析あるいは極微量分析を志向する文化財科学的な分析は、一般的な有機化合物の同定とは異なったアプローチ、すなわち、警察の鑑識のような異同鑑別型分析とならざるを得ないため、技術的にその時代に応じたものを標準資料(標品)として準備し、得られたスペクトルを比較検討する事を行う。近年の進歩した分析機器による測定データとこれまで積み上げてきた歴史的知見の両方を用いて初めて文化財科学的材質分析を行うことが出来るようになる。

2-2 装置

本資料に用いられた無機顔料についてはセイコーインスツルメンツ(株)SEA200 蛍光 X 線分析装置を用いて非破壊分析を行った⁴⁾。本資料の測定は、資料を壁面に吊るした状態で三幅について合計 72 ポイント測定した。

本資料に用いられた色材については Ocean Optics USB4000 ファイバー誘導可視スペクトロメーターを用い、資料を机上に平置きした状態で、試料表面に可視光を照射し、吸光度に換算された反射可視スペクトルを三幅について合計 78 ポイント、非破壊的に測定した。得られた反射スペクトルを二次微分スペクトルに変換して解析した。

3 分析結果と考察

今回測定した資料三幅は写真 1 の左より①②③とし、描かれた花鳥については、名前が不明の物も含まれる為、今回は同種の物は纏めて上から順に花1, 鳥1の様に番号を付けた。すなわち資料①には鳥 1-2, 花 1-5 と岩, 資料②には鳥 1-2, 花 1-3, 下草と岩, 資料③には鳥 1-2, 花 1-4 と岩が描かれている。

今回の XRF 測定では、資料を壁面に吊るした状態で表具解体前に測定した為、壁の塗料と表具由来のチタン、微量のカルシウム、鉄、鉛が全てのデータに含まれる。従って、XRF の測定は、バックグラウンドとして本資料の地の部分（壁と表具の両方を含む）を測定し、彩色のある部分のデータと比較解析した。この為、本資料に微量のカルシウムや鉄、鉛が用いられている場合、その存在は明確に観察できない。

1. 赤色から紫色系統の色の表現について

赤色系統の色材として、丹（鉛）、朱（水銀）、臙脂の存在が示された。

1) 丹 (図 1)

XRF で鉛を検出した場合、多くは鉛白であるが、鳥の橙色が観察されたポイントで鉛を検出し、丹および丹具（丹と鉛白）の利用を考えた。又、鳥の身体の色に鉛が検出され、岱赭に丹墨を混ぜて用いている可能性が考えられた。

2) 朱 (図 2)

XRF により花卉、及び鳥の赤色に水銀が検出され、朱の利用を考えた。一部鉛が観察され、朱具が用いられている可能性も示された。

3) 臙脂 (図 3)

可視反射スペクトルを測定しその二次微分スペクトルを解析したところ、花卉の臙脂色に臙脂或いは臙脂と藍の混色が用いられていることが明らかになった。

緑色から青色系統の色の表現について

緑色から青色系統の色材として、緑青と群青（銅）と、藍の使用が示された。

1) 緑青（図 4）

XRF で銅が検出され、目視観察で緑色である場合、緑青の使用を考えた。緑青の使用は、緑青単体として緑色の葉を表現した場合、白緑を苔の表現に用いた場合の他、草汁（ガンボーシと藍の混色）と併用して緑色の葉を表現するために用いられた。さらに岩の茶色に藍と共に微量に混ぜられた場合（①）もみられた。

2) 群青（図 5）

XRF で銅が検出され、目視観察で青色である場合、群青の使用を考えた。群青は鳥の表現に青色単体として用いられ、藍の共存は認められなかった。

3) 藍（図 6）

可視反射スペクトルより、葉の緑色の部分に藍の吸収が見られ、ガンボーシとの混色である草汁が用いられたと考えた。葉の表現では緑青と共存している場合が多く見られた。また、臙脂色の花に臙脂と藍の混色が用いられている場合があることが明らかになった。更に鳥の黒色に藍が観察された部分があり、現在一様に黒く見える部分を繊細に表現した事が伺える。岩の表現において、現状茶色に見えて岱赭と墨が用いられていると考えた部分に藍の共存が示された。

黄色から茶色の表現について

黄色から茶色のポイントでの XRF での分析では、ヒ素や鉄は検出されなかった。

1) ガンボーシ

今回の反射スペクトルの測定機器を用いた場合、ガンボーシを可視反射スペクトルで検出することは、困難である。しかしながら、XRF でヒ素が検出されなかったこと、目視（写真 2）により、べっとりとした樹脂状の色材が塗布されていることに加えて、美術史及び日本画研究の視点から、石黄（ヒ素）は用いられず、鳥の目、花芯などの黄色を、ガンボーシを用いて表現していると考えた。

2) 鉄系顔料（岱赭など）

岱赭や黄土などの鉄系顔料を用いたのであれば、酸化鉄が含まれる為、XRF で鉄が観察されてしかるべきであるが、今回の分析では検出されなかった。今回の XRF の測定では、バックグラウンドである壁面にチタンと共に鉄が少量含まれている。鉄系顔料である岱赭の中でも粒子の微細な岱赭棒を濃く塗布した標準試料、及び粒子の粗い岱赭を濃く塗布した

標準試料を同条件で測定すると鉄が観察できたにもかかわらず、岱赭棒を薄く塗布した標準試料では、鉄の存在が明確にならなかった。今回の資料では、茶色の部分は特に淡彩であった為、例え資料に岱赭等の酸化鉄系顔料が薄く塗布されていても 今回の実験条件では XRF での検出が困難であったと考えた。しかしながら、資料の目視（拡大）観察、美術史及び日本画研究の視点も合わせて、茶色には XRF では検出されなかったものの粒子の微細な岱赭等の酸化鉄系顔料が用いられていると考えるのが妥当であろう。

茶色を表現した部分で目視（拡大）観察により墨の使用が示された。枝や幹の茶色に共存する色材の分析結果が得られなかったが、墨を混色して濃淡を表現したと考えられる。一方、岩を表した茶色には藍（図 6）や銅の共存が示された為、薄く塗布した岱赭等の酸化鉄系顔料に墨の他に藍や緑青を混色して濃淡を表現したのだらう¹⁾。更に鳥の身体の色に鉛が検出され、岱赭に丹墨を混ぜて用いている可能性が考えられた。

白色系統の表現について

白色系統の色材として、XRF で鉛が検出された為鉛白を想定した。

1) 鉛白（図 7）①15 花 2 花卉 白 写真 13

XRF により鉛が検出され、鉛白による白或いは具としての利用が示された。今回測定した全てのポイントで、有意な量のカルシウムは観察されず、従って胡粉は用いられていないと考えた。

黒色系統の表現について

今回の分析では検出されないが、目視及び目視（拡大）観察により墨の利用を考えた。一部鳥の表現に藍が共存する場合が見られた。茶色を表現した部分でも目視（拡大）観察により墨の使用が示された。

泥及び箔について

蛍光 X 線分析でその金属の種類を特定し、目視観察でその形状を確認した。今回の分析に置いて、金泥の使用が確認できた。

1) 金（図 8）

蛍光 X 線分析により、花卉や葉に描かれた線から金が検出され、金の使用が認められた。この様な金泥による線描きは、孫億の特徴とされる¹⁾。

まとめ

『孫億作・花鳥図 三幅』の非破壊色材分析を XRF と反射可視分光法で行った。丹、朱、臙脂、緑青、群青、藍、鉛白、金泥が検出され、ガンボージと岱赭等の酸化鉄系顔料の使

用が示唆された。一方、胡粉と石黄の使用は観察されなかった。

臙脂色の花卉の表現に、臙脂のみと、臙脂と藍の混色での使い分け、緑色の葉の表現に、緑青のみ、緑青と草汁（ガンボージと藍）、草汁のみの三種類の使い分けなど、細やかな表現がなされていたことが、分析により明らかになった。

参考文献

- 1) 黄立芸（植松瑞希 訳）「孫億とその花鳥画について——東アジア絵画史の視点から——」大和文華125号 2013 pp.1-14
- 2) 佐々木良子，佐々木健 「『梁必達詩唱和詩』に塗布された色材の非破壊化学分析」首里城公園管理センター 調査研究・普及啓発事業年報 No.5 平成25年度号（一財）沖縄美ら島財団首里城公園管理部 2015 pp.145-148
- 3) 大原嘉豊，佐々木良子 他 「釈迦金棺出現図 科学分析調査報告及び復元模写事業概要」学叢38号 2016 pp.59-85
- 4) 早川泰弘 他 「琉球絵画および関連作品の彩色材料調査」首里城研究12，2010 pp.38-52

キャプション

写真1 孫億作・花鳥図 三幅

写真2 「②花3花芯 黄」(左)と 「③花2花芯 黄」(右)の拡大写真

図1 「①鳥1嘴 橙」の蛍光X線スペクトル

図2 「①花4花卉 赤」の蛍光X線スペクトル

図3 「①花3花卉 臙脂」と「①花2花卉 臙脂」の反射可視スペクトル（下図：二次微分スペクトル）

図4 「②6花3葉 緑」の蛍光X線（上図）および反射可視スペクトル（右図）（右下図：二次微分スペクトル）

図5 「①鳥1羽 青」の蛍光X線スペクトル

図6 「①花3葉 緑」「①花2花卉 臙脂」，「③2鳥2目内側の線 黒」と「③岩 焦げ茶」の反射可視スペクトル（下図：二次微分スペクトル）

図7 「①花2花卉 白」の蛍光X線スペクトル

図8 「①花4花卉 赤」と「①花2葉 緑」の蛍光X線スペクトル



写真1 孫億作・花鳥図 三幅

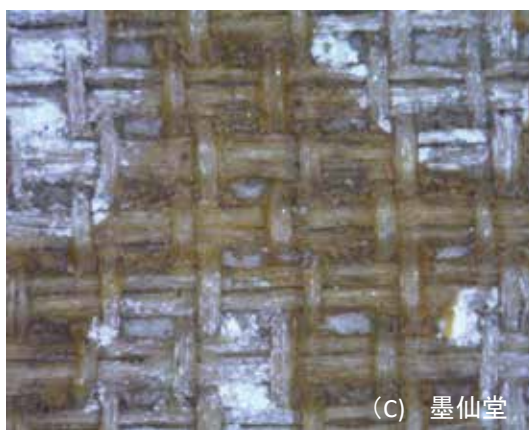
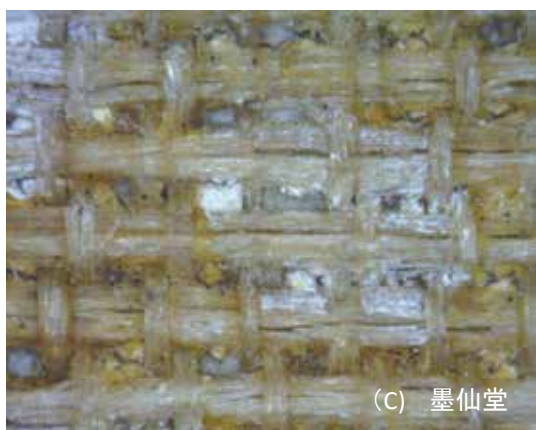
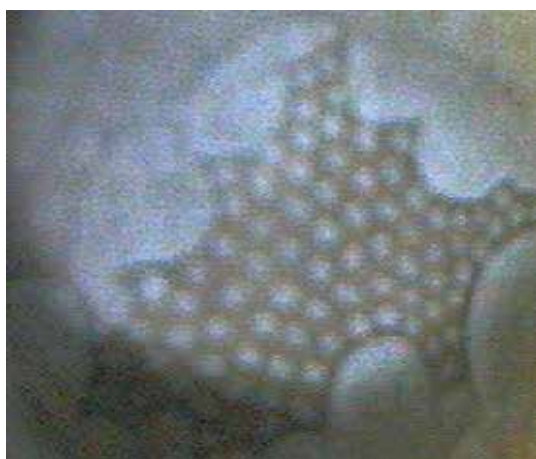


写真2 「②花3花芯 黄」(左)と「③花2
花芯 黄」(右)の拡大写真

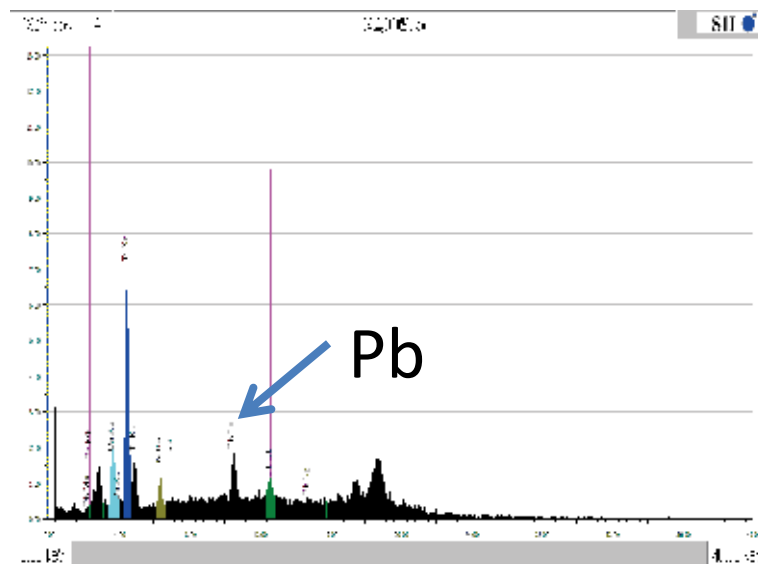


図1 「①鳥1嘴 橙」の蛍光X線スペクトル

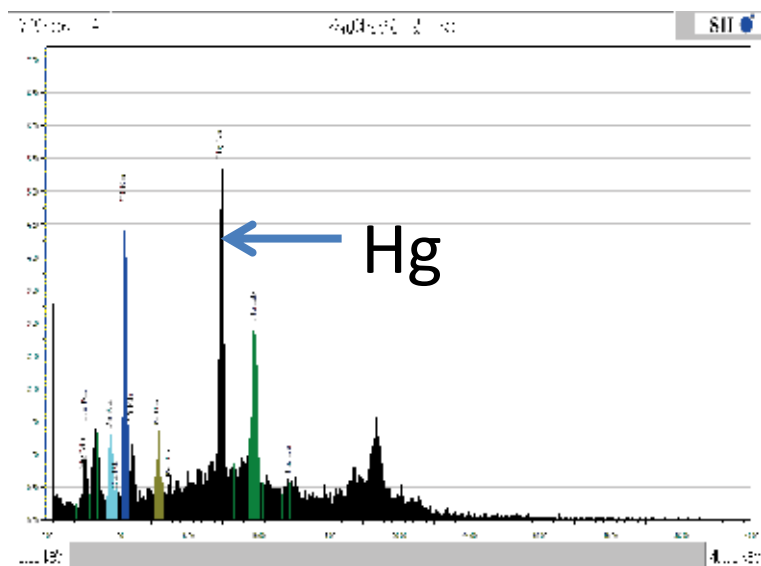


図2 「①花4花卉 赤」の蛍光X線スペクトル

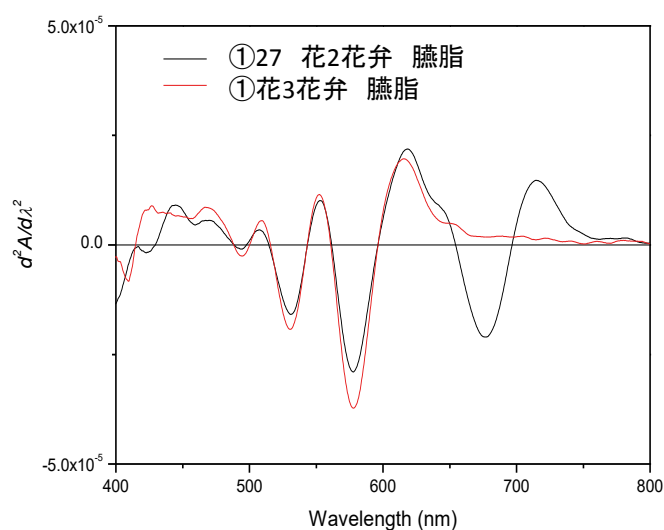
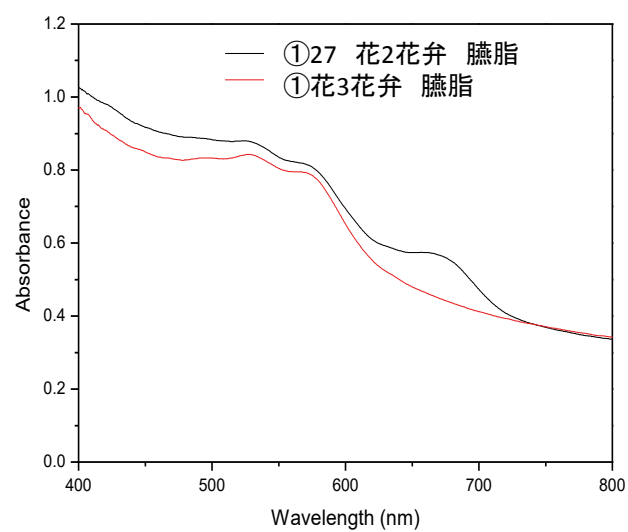


図3 「①花3花卉 臙脂」と
「①花2花卉 臙脂」の反射可視スペクトル
(下図: 二次微分スペクトル)

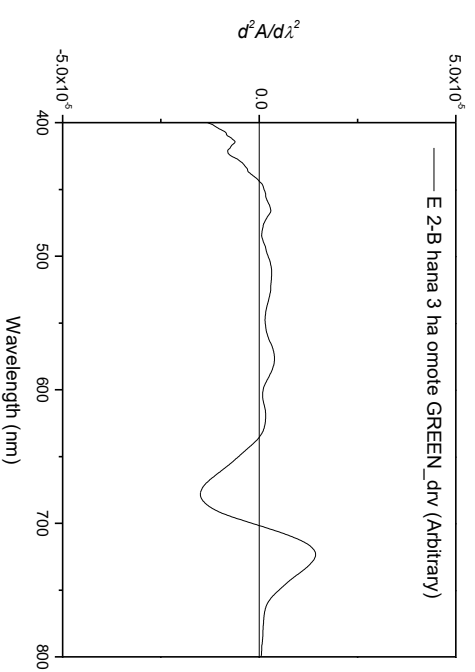
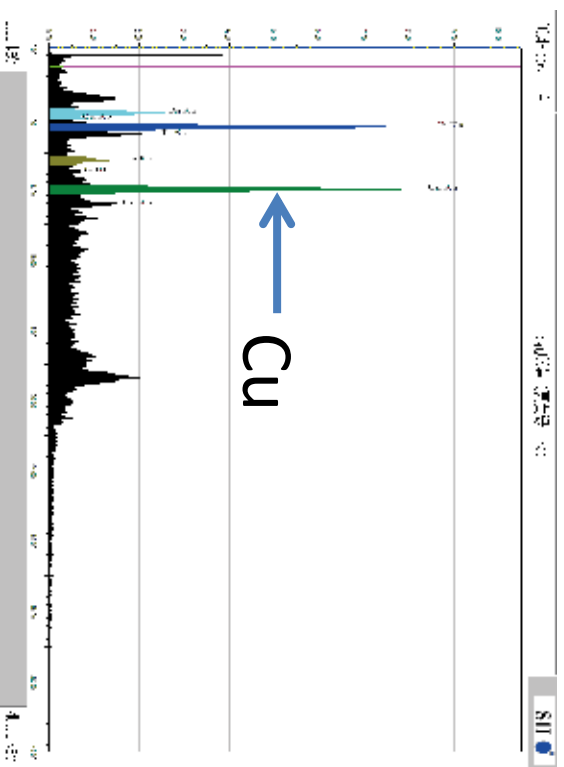
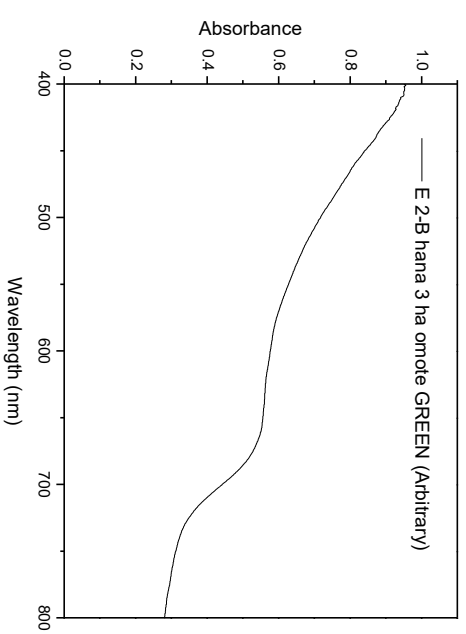


図4 「②6花3葉 緑」の蛍光X線(左図)および反射可視スペクトル(右図)(右下図:二次微分スペクトル)

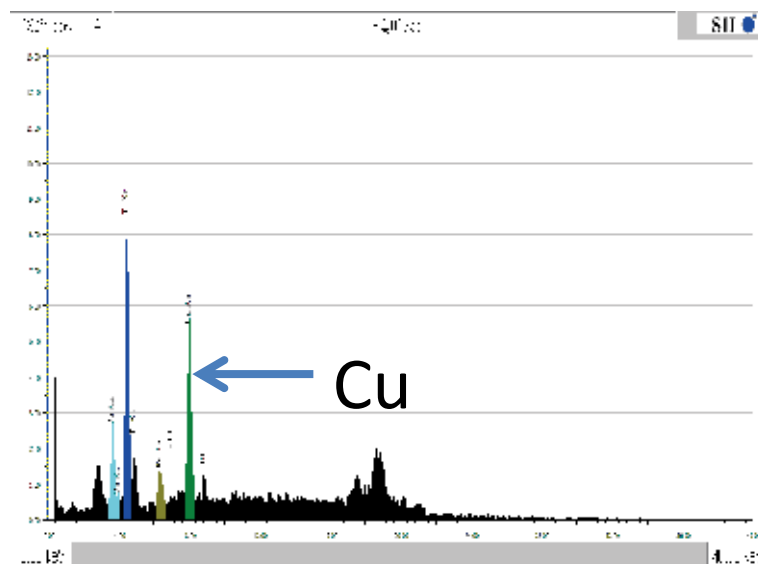


図5 「①鳥1羽 青」の蛍光X線スペクトル

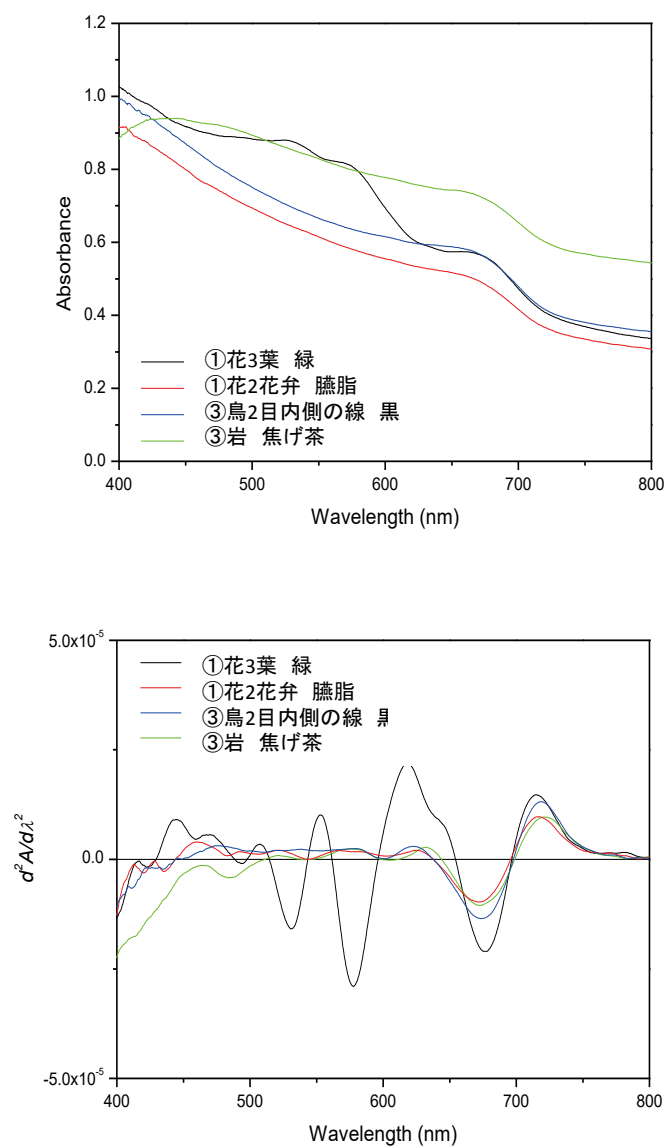
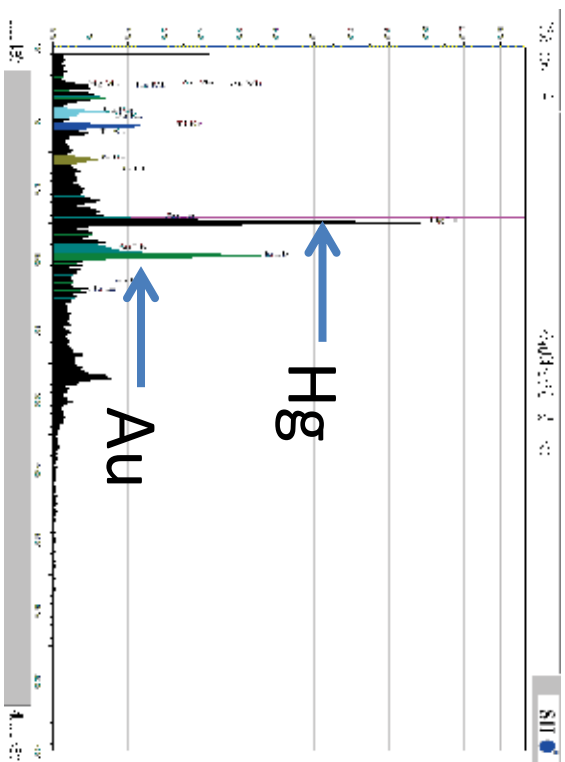


図6 「①花3葉 緑」「①花2花卉 臙脂」,「③2鳥2目内側の線 黒」と「③岩 焦げ茶」の反射可視スペクトル(下図:二次微分スペクトル)

①花4花弁 臍脂



①花2葉 緑

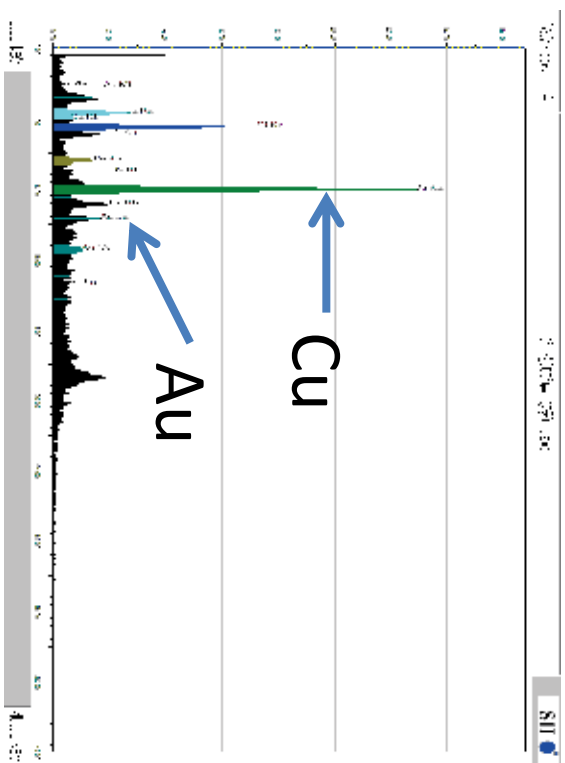


図8 「①花4花弁 赤」と「①花2葉 緑」の蛍光X線スペクトル

森政三コレクションの中城御殿古写真

上江洲安亨*1

I. はじめに

森政三コレクションは、沖縄美ら島財団所蔵の古写真・図面・拓本等の資料群である。旧所蔵者である森政三（1895～1980）は、戦前の文部省技官で、1929（昭和 4）年の「国宝保存法」の制定以後、様々な国宝や重要文化財の調査や保存修理に携わり、戦後も、日光東照宮の修復に長年携わった。日光東照宮以外にも、二荒山神社や、神王寺、長崎の大浦天主堂等の建造物の修復に携わっている。

森政三は、沖縄の文化財の保存修理事業にも戦前から携わっていた。1936（昭和 11）年、首里城の守礼門の修理に携わった。戦後も、1955（昭和 30）年に沖縄の戦災で破壊された文化財の実態調査と復元計画の立案に参画し、翌 1956（昭和 31）年に園比屋武御嶽石門の設計監督となった（翌年竣工）。1957（昭和 32）年には守礼門復元工事の設計監督を委嘱されている。この守礼門は翌 1958（昭和 33）年に復元された。

戦前から沖縄の古建築の調査や保存修理に携わっていたことに関係すると考えられるが、森政三は、先述のとおり、調査時に記録として残した古写真・図面・拓本等を膨大に残している。その中には、首里城跡内の画像や様々な沖縄の文化財の画像も残されている。今回は、そのコレクションの中で戦前、大中に所在した中城御殿を撮影した古写真を紹介する。

II. 森政三が沖縄調査で撮影した中城御殿の古写真

森政三は、1936（昭和 11）年に守礼門の修理に携わっていたため、彼が残した戦前の沖縄関係の古写真の多くは、この時期のものと考えられる。

中城御殿関連の古写真は、32 枚あり、その内、7 枚は、「中城御殿御普請板図」*2（以下、「板図」と略す）の表面と裏面を撮影したものである（翻刻図を図 1 として掲載）。25 枚は中城御殿の建造物及び庭園の石燈籠等の写真である。

写真 4 の中城御殿の中央部にあたる向御中門に繋がる写真が 2 枚あり、画像としては 24 画像撮影されている。本論では、過年度紹介した「板図」を除く 24 画像を紹介する（写真 1～24）。写真を掲載して紹介することにより、様々な沖縄の歴史文化を研究する観点から、この写真が活用されることを期待するものである。

この写真画像を活用するにあたっての留意点として、森政三が何時、中城御殿を撮影したのかということを留



森政三

戦前、沖縄調査時の写真。首里城二階御殿で撮影

*1 一般財団法人沖縄美ら島財団 首里城公園管理部 首里城事業課 副参事

*2 『首里城公園管理センター 調査研究・普及啓発事業年報』No.2（平成 22 年度） 財団法人 海洋博覧会記念公園管理財団 平成 24 年 3 月

意しなければならない。写真を保管していた封筒には「中城御殿」と記されていただけで時期等の記述はなく、今のところ、森政三コレクションの別資料から撮影時期を示す記録も残っていない。ただ先述の通り森政三は戦前、1936（昭和 11）年に守礼門修理に携わっていたことから、昭和 11 年当時の撮影記録と考えることが妥当なのではないかと考える。それは後述するが撮影された写真画像の内容からも窺い知ることができる。

本稿では簡単な画像の紹介に留めたいと思うが、撮影された写真画像の詳細な分析や考察は別稿若しくは琉球・沖縄の歴史文化の研究者の活用に譲りたい。本画像は、過年度公開した「板図」と共に、中城御殿の復元可能性を高める基礎的な重要情報になるものと思われる。

<建造物・御嶽・井戸>

写真 1 は、中城御殿内庭園側から本御門*³と呼ばれる正門を裏から撮影した画像。写真 2 は、東側の副御門を北側から南に向かって撮影した画像と思われる。写真 3 は、格子を撮影した画像であるが、この格子の間には貝を薄く研いで嵌めていたものと思われる。写真 4 は、本御門（正門）から入って、主殿である御寝廟殿前の向御中門に通じる通路で、「板図」では廊下と呼ばれている場所の画像。写真 5・6 は、写真 5 の門の道向うの遠景に龍潭の縁の石牆らしき画像があるので本御門（正門）とその門扉ではないかと思われる。写真 7 の礎石・礎盤、写真 8 の軒部分が敷地内のどの施設のものかは不明である。写真 9 の二階建の建造物は、琉球王国末期、大中町に中城御殿を移転時の図面である「板図」には表記されておらず、近代に増築された建物と思われ、御二階御殿と呼ばれた建物の可能性があるが詳細は不明である。写真 10 の御嶽は中城御殿奥の西側、上之御殿近くにあり現存している。写真 11 の井戸について、「板図」には本御門を入り、西側に御中門を通ると井戸があったと記載されている。ただ「板図」は井戸の周辺は瓦石垣が近接した表記となっているが、写真 11 は井戸の遠景に通常の石積の石牆らしき画像となっている。「板図」記載の同じ井戸と断定することは難しく近代以降に新た別場所に設置した井戸の可能性もある。

<石灯籠・手水>

写真 13～19 は、中城御殿敷地内、主に庭園にあった石灯籠と思われる。具体的に敷地内のどの場所に配置されていたかは今後検討を要する。写真 20・21 の手水も建物の縁側にあるが、中城御殿内のどの建物の縁側であるか今後検討を要する。

<御殿内>

中城御殿の屋敷内の画像は三枚あり、写真 22 は床間に大幅の虎図、松飾、貝摺奉行所製と思われる中央卓が飾られ、洋風の机・椅子の調度品が配置されている。1921（大正 10）年に東宮殿下（後の昭和天皇）の行啓にあわせて大広間を洋風に改めたようであるため、写真 22 は「板図」にある御広間が洋風に改造された後、昭和に入って森政三の沖縄調査時に撮影されたものと思われる。写真 23・24 の部屋を断定するのは難しいが、「板図」の記載と比較すると写真 23 の床間が畳板で部屋の左側にある構造から歓会之間の可能性がある。但し「板図」の歓会之間の記載には畳板のある床間の手前に違棚は表記されてないが、写真 23・24 には違棚が設置された画像となっている。御殿内の別場所の可能性と近代以降の建物内の改装で内装が変わった可能性がある。写真 23 に畳板の上に松飾が配置されているが、その上部に電球と思われる器具が設置されている。写真 23・24 で違棚の増設は不明だが撮影された部屋は少なくとも近代以降に電気設備の増設等の改造はされていたと思われる。

*3 本御門、向御中門等の建造物の名称は、「板図」の記載に合わせて表記している。

森政三コレクション中の中城御殿古写真



写真1



写真2



写真3



写真4



写真5



写真6



写真7



写真8



写真9



写真10



写真11



写真12



写真 13



写真 14



写真 15



写真 16



写真 17



写真 18



写真 19



写真 20



写真 21



写真 22

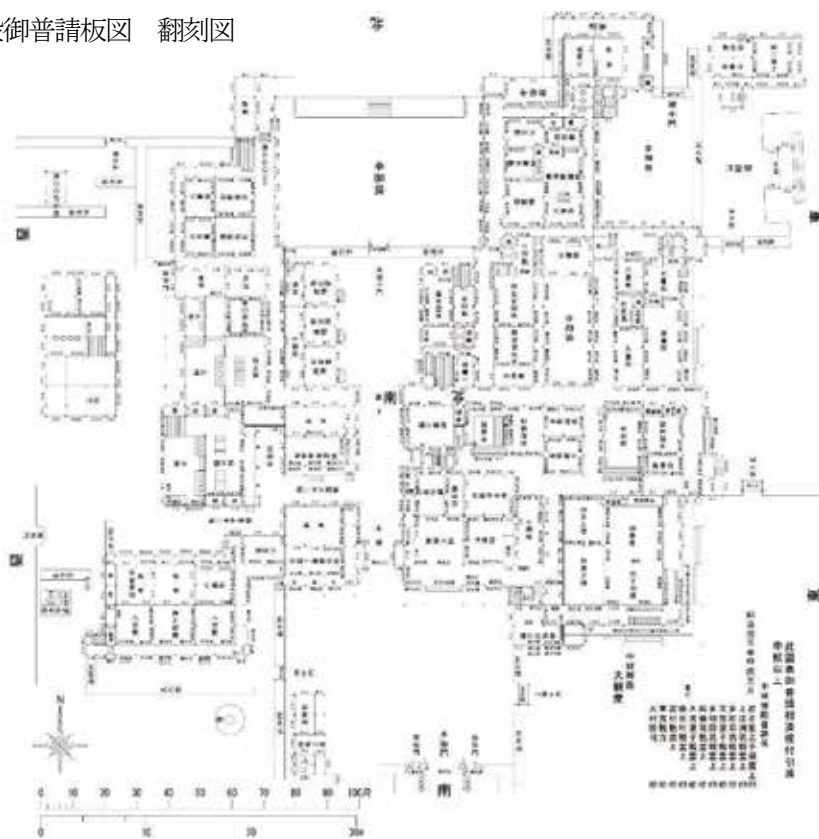


写真 23



写真 24

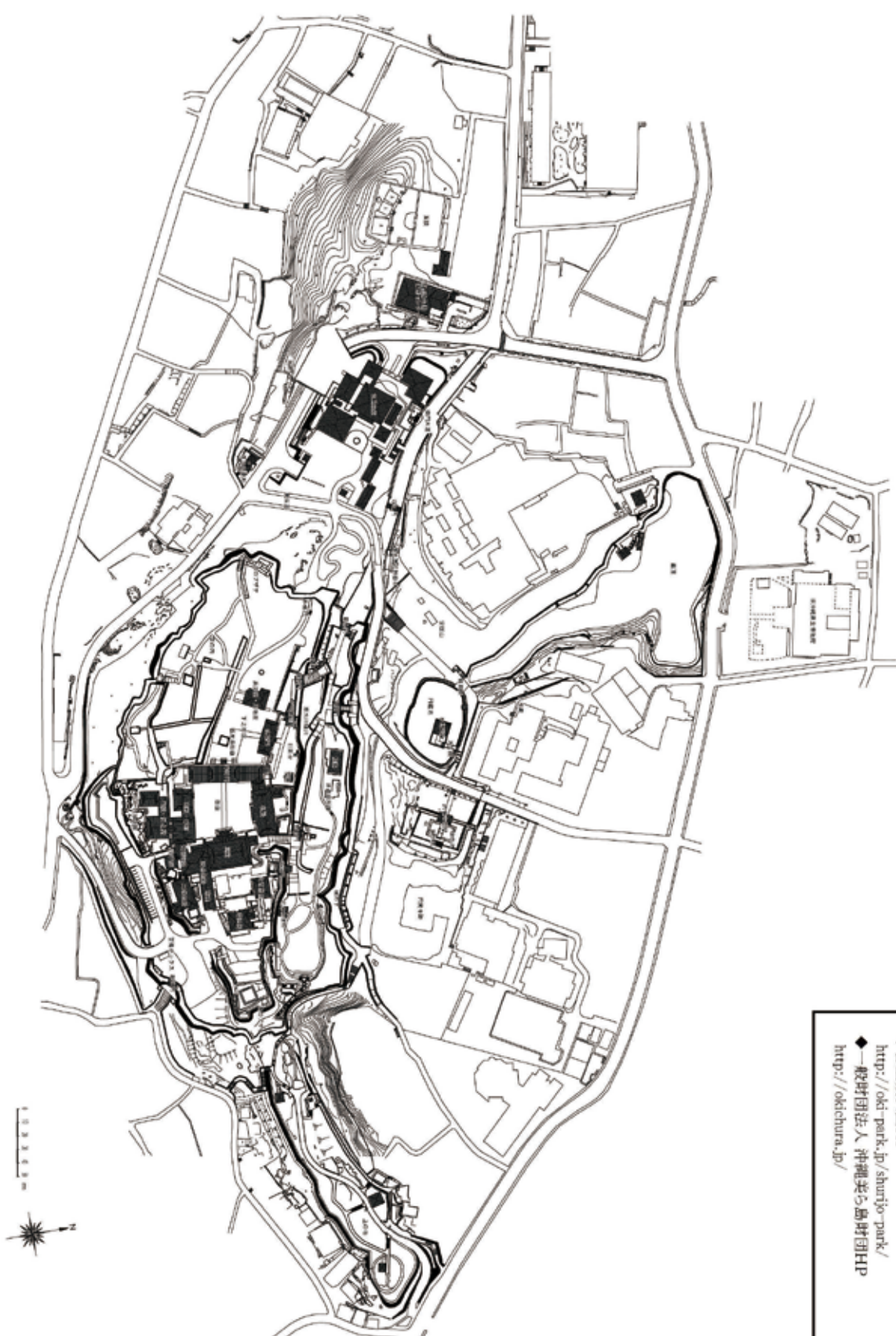
図 1 中城御殿御普請板図 翻刻図



2 資料

1) 首里城公園（国営沖縄記念公園首里城地区）入園者・入館者数

年 度	入園者数	有料区域入館者数	備 考
平成 4 (1992) 年	1, 114, 181	959, 325	11月首里城公園 一部開園
5 (1993) 年	2, 148, 249	1, 720, 194	
6 (1994) 年	1, 841, 073	1, 469, 324	
7 (1995) 年	1, 852, 366	1, 510, 741	
8 (1996) 年	1, 771, 089	1, 456, 269	
9 (1997) 年	1, 887, 202	1, 582, 424	
10 (1998) 年	1, 973, 565	1, 619, 512	
11 (1999) 年	2, 095, 646	1, 721, 869	
12 (2000) 年	2, 117, 218	1, 680, 402	7月九州・沖縄サミット 12月世界遺産登録
13 (2001) 年	2, 035, 291	1, 505, 807	
14 (2002) 年	2, 361, 566	1, 693, 771	首里城公園開園10周年
15 (2003) 年	2, 513, 038	1, 755, 507	京の内 一般公開
16 (2004) 年	2, 455, 362	1, 674, 707	
17 (2005) 年	2, 569, 726	1, 794, 188	
18 (2006) 年	2, 674, 641	1, 820, 870	
19 (2007) 年	2, 629, 741	1, 913, 287	書院・鎖之間 一般公開
20 (2008) 年	2, 470, 340	1, 936, 387	書院・鎖之間庭園 一般公開
21 (2009) 年	2, 130, 139	1, 790, 981	書院・鎖之間庭園、国の名勝 に指定される
22 (2010) 年	2, 008, 352	1, 674, 924	
23 (2011) 年	2, 102, 927	1, 680, 539	
24 (2012) 年	2, 190, 018	1, 753, 386	首里城公園開園20周年
25 (2013) 年	2, 349, 297	1, 732, 876	黄金御殿・寄満・近習詰 所、奥書院 一般公開
26 (2014) 年	2, 522, 395	1, 813, 274	
27 (2015) 年	2, 627, 823	1, 875, 838	
28 (2016) 年	2, 727, 677	1, 886, 939	銭蔵跡、厩・係員詰所跡 一般公開
29 (2017) 年	2, 857, 390	1, 814, 041	首里城公園開園25周年
30 (2018) 年	2, 806, 045	1, 775, 867	首里城公園新エリア（御内 原地区）開園
累 計	60, 832, 357	45, 613, 249	



- ◆一般財団法人 沖縄美ら島財団
首里城公園管理部
〒903-0815 沖縄県那覇市首里金城町1丁目2番地
TEL: 098-886-2020 FAX: 098-886-2022
- ◆首里城公園HP
<http://oki-park.jp/shurijo-park/>
- ◆一般財団法人 沖縄美ら島財団HP
<http://okichura.jp/>

首里城公園に関する調査研究・普及啓発事業年報

第 10 号（平成 30 年度号）

発 行 令和 2 年 3 月

発 行 所 一般財団法人沖縄美ら島財団

沖縄県那覇市首里金城町 1 丁目 2 番地

TEL 098-886-2020 FAX 098-886-2022

編集兼発行人 花 城 良 廣